

	俳句	年代	季節	分類	季語	漢字表記			
1	はげそめてやゝ寒げ也冬紅葉	25	冬	時候	冬				
2	きぬぎぬの鴉見にけり嵯峨の冬	26	冬	時候	冬				
3	都にも冬ありされど酒もあり	26	冬	時候	冬				
4	青々と冬を根岸の一つ松	27	冬	時候	冬				
5	淋しさもぬくさも冬のはじめ哉	27	冬	時候	冬				
6	嶋原や笛も太鼓も冬の音	27	冬	時候	冬				
7	下總や冬あたゝかに麥畠	27	冬	時候	冬				
8	冬の野ら犬も喰はさる牛の骨	27	冬	時候	冬				
9	音もなし冬の小村の八九軒	28	冬	時候	冬				
10	大木のすつくと高し冬の門	28	冬	時候	冬				
11	冬や今年今年や冬となりにけり	28	冬	時候	冬				
12	冬や今年我病めり古書二百巻	28	冬	時候	冬				
13	戸を閉ぢた家の多さよ冬の村	29	冬	時候	冬				
14	冬に入りて柿猶蒞し此心	29	冬	時候	冬				
15	冬を誰いさゝむら竹茶の煙	29	冬	時候	冬				
16	青山や弔砲鳴って冬の行く	30	冬	時候	冬				
17	笹竹に塵なき冬の机かな	30	冬	時候	冬				
18	伐株や紅盡きし冬の園	31	冬	時候	冬				
19	乏しからぬ冬の松魚や日本橋	31	冬	時候	冬				
20	繻いて冬の部に入る井華集	31	冬	時候	冬				
21	冬の朝鯉を求めて市に入る	31	冬	時候	冬				
22	冬の宿狼聞て温泉のぬるき	31	冬	時候	冬				
23	御幸待つ冬の小村の國旗哉	31	冬	時候	冬				
24	住みなれて冬の蜩や向島	32	冬	時候	冬				
25	のら猫の糞して居るや冬の庭	32	冬	時候	冬				
26	裕著て花さく冬を羨みぬ	33	冬	時候	冬				
27	鬚のある雑兵ともや冬の陣	33	冬	時候	冬				
28	筆ちびてかすれし冬の日記哉	33	冬	時候	冬				
29	冬の季にやゝ暑してふ題あらん	33	冬	時候	冬				
30	朝な朝な粥くふ冬となりにけり	34	冬	時候	冬				
31	新しき銭湯出来つ冬の町	34	冬	時候	冬				
32	菓物に乏しくもあらず冬の庵	34	冬	時候	冬				
33	小百姓冬物買ひに出たりけり	34	冬	時候	冬				
34	物の寂猿糞冬にはじまりぬ	34	冬	時候	冬				
35	冬立つや背中合せの宮と寺	27	冬	時候	立冬				

36	菊の香や月夜ながらに冬に入る	28	冬	時候	立冬			
37	冬立つや立たずや留守の一つ家	29	冬	時候	立冬			
38	初冬に何の句もなき一日かな	25	冬	時候	初冬			
39	初冬の家ならびけり須磨の里	26	冬	時候	初冬			
40	初冬の糺へ歸る禰宜一人	26	冬	時候	初冬			
41	初冬の葉は枯れながら菊の花	27	冬	時候	初冬			
42	初冬の鴉飛ぶなり二見湯	28	冬	時候	初冬			
43	初冬の萩も芒もたばねけり	28	冬	時候	初冬			
44	初冬の家成つて壁はまだつかず	29	冬	時候	初冬			
45	初冬の新宅の壁はまだつかず	29	冬	時候	初冬			
46	初冬の黒き皮剥くバナゝかな	32	冬	時候	初冬			
47	鳥居より内の馬糞や神無月	25	冬	時候	神無月			
48	神無月賽銭箱はなかりけり	26	冬	時候	神無月			
49	銅像に魂入れん神無月	26	冬	時候	神無月			
50	名物の蚊の長いきや神無月	26	冬	時候	神無月			
51	神無月鳥居の内の馬糞哉	26	冬	時候	神無月			
52	窓あけて見れば舟行く神無月	27	冬	時候	神無月			
53	道はたや鳥居倒れて神無月	27	冬	時候	神無月			
54	女乗る宮の渡しや神無月	27	冬	時候	神無月			
55	大君の御留守を拜む神無月	31	冬	時候	神無月			
56	霜月や内外の宮の行脚僧	26	冬	時候	霜月			
57	霜月や山の境の茶の木原	26	冬	時候	霜月			
58	霜月の軍艦ひそむ入江かな	27	冬	時候	霜月			
59	霜月の小道にくさる紅葉かな	27	冬	時候	霜月			
60	霜月の灯や氷らんと禰宜の袖	27	冬	時候	霜月			
61	霜月や石の鳥居に鳴く鴉	27	冬	時候	霜月			
62	霜月やすかれすかれの草の花	27	冬	時候	霜月			
63	霜月や瘦せたる菊の影法師	27	冬	時候	霜月			
64	霜月の野の宮残る嵯峨野哉	28	冬	時候	霜月			
65	霜月や雲もかゝらぬ晝の富士	28	冬	時候	霜月			
66	霜月や奈良の都の卜師	28	冬	時候	霜月			
67	霜月や奈良の都の卜屋算	28	冬	時候	霜月			
68	霜月や淀の夜舟の三四人	28	冬	時候	霜月			
69	霜月や空也は骨に生きにける	29	冬	時候	霜月			
70	霜月の梨を田町に求めけり	32	冬	時候	霜月			
71	屋根船や白帆にまじる小六月	25	冬	時候	小六月			

72	牛の子や賣られて遊ぶ小六月	28	冬	時候	小六月			
73	新米に菊の香もあれ小六月	28	冬	時候	小六月			
74	日影さす人形店や小六月	28	冬	時候	小六月			
75	庭木高く囀の籠や小六月	32	冬	時候	小六月			
76	のびのびし歸り詣や小六月	32	冬	時候	小六月			
77	囀かけて人居らぬ野や小六月	32	冬	時候	小六月			
78	十二月上野の北は静かなり	29	冬	時候	十二月			
79	いそがしい中に子を産む師走哉	25	冬	時候	師走			
80	いそがしく時計の動く師走哉	25	冬	時候	師走			
81	いそがしさつもつてひまな師走哉	25	冬	時候	師走			
82	いろいろをないふ一つの師走哉	25	冬	時候	師走			
83	魚棚に熊笹青き師走哉	25	冬	時候	師走			
84	Mの字の手紙に多き師走哉	25	冬	時候	師走			
85	大方はうち捨られつ師走不二	25	冬	時候	師走			
86	かちあたる馬車も銀坐の師走哉	25	冬	時候	師走			
87	門口に松葉こぼるゝ師走哉	25	冬	時候	師走			
88	乾鮭も熊も釣らるゝ師走哉	25	冬	時候	師走			
89	乾鮭も熊もつるして師走哉	25	冬	時候	師走			
90	この友と江戸の師走の出會哉	25	冬	時候	師走			
91	鮭さげて女のはしる師走哉	25	冬	時候	師走			
92	正月の支度にいそぐ師走哉	25	冬	時候	師走			
93	白足袋のよごれ盡せし師走哉	25	冬	時候	師走			
94	せはしさに寒さわするゝ師走哉	25	冬	時候	師走			
95	ちかづきに皆顔あはす師走哉	25	冬	時候	師走			
96	羽子板のうらに春來る師走哉	25	冬	時候	師走			
97	病人と静かに語る師走哉	25	冬	時候	師走			
98	折々は狛のふまるゝ師走哉	25	冬	時候	師走			
99	悠然と大船かゝる師走哉	26	冬	時候	師走			
100	板橋へ荷馬のつゞく師走哉	26	冬	時候	師走			
101	一休の蛸さげて行く師走哉	26	冬	時候	師走			
102	風強し眞葛か原の師走哉	26	冬	時候	師走			
103	風吹て師走八日といふ日哉	26	冬	時候	師走			
104	風吹て白き師走の月夜哉	26	冬	時候	師走			
105	傾城の出しぬかれたる師走哉	26	冬	時候	師走			
106	小鼠の行列つゞく師走哉	26	冬	時候	師走			
107	婚禮の嶋臺通る師走哉	26	冬	時候	師走			

108	静かさに寒し師走の白拍子	26	冬	時候	師走				
109	静かさや師走の奥の智恩院	26	冬	時候	師走				
110	菅笠の古びも旅の師走哉	26	冬	時候	師走				
111	炭出しに行けば師走の月夜哉	26	冬	時候	師走				
112	雪隠にあるじものいふ師走哉	26	冬	時候	師走				
113	銭かつく人や師走の汗雲	26	冬	時候	師走				
114	竹藪に師走の月の青さ哉	26	冬	時候	師走				
115	近道に氷を渡る師走哉	26	冬	時候	師走				
116	鐵鉢に味噌もる寺の師走哉	26	冬	時候	師走				
117	板額の薙刀つかふ師走哉	26	冬	時候	師走				
118	鳳輦の静かに過ぐる師走哉	26	冬	時候	師走				
119	松立てゝ師走の夕日しづか也	26	冬	時候	師走				
120	萬歳の妻に別るゝ師走哉	26	冬	時候	師走				
121	山里の空や師走の風一つ	26	冬	時候	師走				
122	海広し師走の町を出はなれて	27	冬	時候	師走				
123	大聲にさわぐ師走の鴉かな	27	冬	時候	師走				
124	大寺の静まりかへる師走かな	27	冬	時候	師走				
125	大筆にかする師走の日記かな	27	冬	時候	師走				
126	高麗船の寶積みわたる師走かな	27	冬	時候	師走				
127	淋しさをにらみあふたる師走かな	27	冬	時候	師走				
128	大幅の達磨かけたる師走かな	27	冬	時候	師走				
129	塵にまじる銭さへ京の師走かな	27	冬	時候	師走				
130	町中に行くや師走の大男	27	冬	時候	師走				
131	雲にもならで師走の大雨かな	27	冬	時候	師走				
132	やごとなき落人見たる師走かな	27	冬	時候	師走				
133	うしろから追はるゝやうな師走哉	28	冬	時候	師走				
134	馬糞も見えず師走の日本橋	28	冬	時候	師走				
135	馬の息見えて師走の夜明哉	28	冬	時候	師走				
136	風光る師走の空の月夜かな	28	冬	時候	師走				
137	艦隊の港出て行く師走哉	28	冬	時候	師走				
138	艦隊の港につどふ師走かな	28	冬	時候	師走				
139	氣樂さのまたや師走の草枕	28	冬	時候	師走				
140	草の根を鼠のかぢる師走かな	28	冬	時候	師走				
141	夕霧より伊左さま參る師走哉	28	冬	時候	師走				
142	元祿十五年極月十四日夜の事也	29	冬	時候	師走				
143	傾城を見たる師走の温泉かな	30	冬	時候	師走				

144	臨月の師走廿日も過ぎてけり	30	冬	時候	師走				
145	王孫を市にあはれむ師走哉	30	冬	時候	師走				
146	店先に師走見て居る佛かな	31	冬	時候	師走				
147	此部屋も坊主小し寒の内	29	冬	時候	寒				
148	赦にあふて衣手あらみ寒に泣く	30	冬	時候	寒				
149	隠居して芝居に行や寒の内	32	冬	時候	寒				
150	薬のむあとの蜜柑や寒の内	35	冬	時候	寒				
151	ありたけの日受を村の冬至哉	25	冬	時候	冬至				
152	日一分一分ちゞまる冬至かな	25	冬	時候	冬至				
153	巻烟草くゆり盡せし冬至哉	25	冬	時候	冬至				
154	苦低く裏に日のさす冬至かな	27	冬	時候	冬至				
155	佛壇に水仙活けし冬至哉	29	冬	時候	冬至				
156	物干の影に測りし冬至哉	29	冬	時候	冬至				
157	佛壇の菓子うつくしき冬至哉	33	冬	時候	冬至				
158	ものさびし上野の山の小春哉	22	冬	時候	小春				
159	菊も菜の色に咲きたる小春哉	23	冬	時候	小春				
160	櫻にもまさる紅葉の小春かな	23	冬	時候	小春				
161	春よりも嬉し小春の歸り咲	23	冬	時候	小春				
162	小鳥の鳶なぶりある小春哉	24	冬	時候	小春				
163	小春日や赤すじすらりすらり引く	24	冬	時候	小春				
164	小春日や淺間の煙ゆれ上る	24	冬	時候	小春				
165	椽に足のべて文書く小春哉	25	冬	時候	小春				
166	北風の南にかはる小春哉	25	冬	時候	小春				
167	凧をぬけ出て山の小春かな	25	冬	時候	小春				
168	小春日や又この背戸も爺と婆	25	冬	時候	小春				
169	さゝ波に一日見ゆる小春かな	25	冬	時候	小春				
170	白砂に犬の寐ころぶ小春哉	25	冬	時候	小春				
171	白砂に犬のみねふる小春哉	25	冬	時候	小春				
172	大名の小聲にうたふ小春哉	25	冬	時候	小春				
173	鳶高く鴉を笑ふ小春かな	25	冬	時候	小春				
174	鳶一つ空に動かぬ小春哉	25	冬	時候	小春				
175	百姓の烟草輪にふく小春哉	25	冬	時候	小春				
176	不二を背に筑波見下す小春哉	25	冬	時候	小春				
177	ぶをとこも美人も出たる小春哉	25	冬	時候	小春				
178	屋の棟に鳩ならび居る小春かな	25	冬	時候	小春				
179	屋の棟に鳩のならびし小春哉	25	冬	時候	小春				

180	思ふことなげぶし歌ふ小春哉	26	冬	時候	小春			
181	枯枝に雀むらがる小春かな	26	冬	時候	小春			
182	姑の嫁につれだつ小春哉	26	冬	時候	小春			
183	鳩眠る屋根や小春の大師堂	26	冬	時候	小春			
184	もみ衣の小窓にうつる小春哉	26	冬	時候	小春			
185	飴賣に村の子たかる小春かな	27	冬	時候	小春			
186	幾重にも村かさなりて小春かな	27	冬	時候	小春			
187	魚見えて小春の水のぬるみかな	27	冬	時候	小春			
188	御社壇に小春の爺が腰かけて	27	冬	時候	小春			
189	砂濱や舟の底干す小春凧	27	冬	時候	小春			
190	谷間や小春の家の五六軒	27	冬	時候	小春			
191	摘みこんで杉垣低き小春かな	27	冬	時候	小春			
192	鳩のならぶ屋根に豆打つ小春かな	27	冬	時候	小春			
193	町はづれ小春の山の見ゆるかな	27	冬	時候	小春			
194	村は小春山は時雨と野の廣さ	27	冬	時候	小春			
195	瘦村や小春を受くる家の向	27	冬	時候	小春			
196	えん豆の生える小春の日向かな	27	冬	時候	小春	えん<草かんむり+宛>		
197	あけ放す窓は上野の小春哉	28	冬	時候	小春			
198	いたはしや花のなやみの小春迄	28	冬	時候	小春			
199	うるさしや小春の蠅の顔につく	28	冬	時候	小春			
200	うれしくば開け小春の櫻花	28	冬	時候	小春			
201	唐橋にむく犬眠る小春かな	28	冬	時候	小春			
202	雲に近く行くや小春の眞帆片帆	28	冬	時候	小春			
203	黒船に傳馬のたかる小春かな	28	冬	時候	小春			
204	廻廊に錢の落ちたる小春かな	28	冬	時候	小春			
205	山門に鹿干す奈良の小春かな	28	冬	時候	小春			
206	電信に雀の竝ぶ小春かな	28	冬	時候	小春			
207	蜻蛉に馴るゝ小春の端居哉	28	冬	時候	小春			
208	寐るやうつゝ小春の蝶の影許り	28	冬	時候	小春			
209	瘦村に鳶舞ひ落つる小春哉	28	冬	時候	小春			
210	瘦村に見ゆや小春の凧	28	冬	時候	小春			
211	山底に世と斷つ村も小春かな	28	冬	時候	小春			
212	病む人の病む人ととふ小春哉	28	冬	時候	小春			
213	賣り出しの旗や小春の廣小路	29	冬	時候	小春			
214	大寺の椽廣うして小春かな	29	冬	時候	小春			
215	思ひ出す殊に老いての小春好	29	冬	時候	小春			

216	小障子の穴に鳶舞ふ小春かな	29	冬	時候	小春				
217	小春野や草花瘦せて晝の月	29	冬	時候	小春				
218	小春日の馬往來す王子道	29	冬	時候	小春				
219	小春日や南を追ふて蠅の飛ぶ	29	冬	時候	小春				
220	不忍も上野も小春日和哉	29	冬	時候	小春				
221	鳶空に舞ふや小春の日半日	29	冬	時候	小春				
222	日光の山に鳶舞ふ小春哉	29	冬	時候	小春				
223	野の茶屋に蜜柑竝べし小春哉	29	冬	時候	小春				
224	一車漬菜買ひけり小春風	29	冬	時候	小春				
225	窓の影小春の蜻蛉稀に飛ぶ	29	冬	時候	小春				
226	娘など出るや小春の古著店	29	冬	時候	小春				
227	用水や小春の金魚一つ浮く	29	冬	時候	小春				
228	我庭の空に鳶舞ふ小春哉	29	冬	時候	小春				
229	蜻蛉の地藏なぶるや小春の野	30	冬	時候	小春				
230	戸をあけて愛する小春の小山哉	30	冬	時候	小春				
231	畑の木に鳥籠かけし小春哉	30	冬	時候	小春				
232	蜜柑を好む故に小春を好むかな	30	冬	時候	小春				
233	池の石に龜の居らざる小春哉	31	冬	時候	小春				
234	下總に一日遊ぶ小春哉	31	冬	時候	小春				
235	蜜柑買ふて里子見に行く小春哉	31	冬	時候	小春				
236	水草の花に小春の西日哉	31	冬	時候	小春				
237	鶏頭のあく迄赤き小春哉	32	冬	時候	小春				
238	鳶見えて冬あたゝかやガラス窓	32	冬	時候	小春				
239	纏纒を干す小春日和や鮫ヶ橋	32	冬	時候	小春				
240	色さめし造り花賣る小春かな	35	冬	時候	小春				
241	毛布著て毛布買ひ居る小春かな	35	冬	時候	小春				
242	梅の木に足袋をほす也年のくれ	25	冬	時候	年の暮				
243	白壁のふゑる町あり年のくれ	25	冬	時候	年の暮				
244	年のくれ命ばかりの名残哉	25	冬	時候	年の暮				
245	年の暮財布の底を叩きけり	25	冬	時候	年の暮				
246	年の暮月の暮日のくれにけり	25	冬	時候	年の暮				
247	年の暮鎧も質に出る世哉	25	冬	時候	年の暮				
248	歳のくれ龍頭の時計くるひけり	25	冬	時候	年の暮				
249	年の尾や又くりかへすさかさ川	25	冬	時候	年の暮				
250	ぬす人のぬす人とるや年の暮	25	冬	時候	年の暮				
251	來年のいつの間にやら來りけり	25	冬	時候	年の暮				

252	龍の尾の蛇に細るやとしのくれ	25	冬	時候	年の暮				
253	あら笑止や又年の暮れかゝりて候	26	冬	時候	年の暮				
254	うかうかと鴨見て居れば年くるゝ	26	冬	時候	年の暮				
255	裏棚に二子も出来つ年のくれ	26	冬	時候	年の暮				
256	雲上のからくり見たり年の暮	26	冬	時候	年の暮				
257	老憎しつもる年波打ては返らず	26	冬	時候	年の暮				
258	老のくれくれぐれもいやと申しゝに	26	冬	時候	年の暮				
259	香煙の美人にもならず年暮れぬ	26	冬	時候	年の暮				
260	風吹て今年も暮れぬ土佐日記	26	冬	時候	年の暮				
261	金くさう都はなりて年のくれ	26	冬	時候	年の暮				
262	家隸から金をかりるや年の暮	26	冬	時候	年の暮				
263	君が代を静かに牛の年暮れぬ	26	冬	時候	年の暮				
264	去年よりも今年ぞをしき來年は	26	冬	時候	年の暮				
265	今年より來年近し花の春	26	冬	時候	年の暮				
266	さりともと撫し額に年の波	26	冬	時候	年の暮				
267	たらちねのあればぞ悲し年の暮	26	冬	時候	年の暮				
268	月冴て市の歳暮のあはれなり	26	冬	時候	年の暮				
269	つくつくと故郷萬里の年の暮	26	冬	時候	年の暮				
270	辻君になじみを持てり年の暮	26	冬	時候	年の暮				
271	手の底に玉は隠れて年くれぬ	26	冬	時候	年の暮				
272	天人に舞はせて見ばや年の空	26	冬	時候	年の暮				
273	年くれぬ風はやともの雨晴て	26	冬	時候	年の暮				
274	年のくれ日記の花見月見哉	26	冬	時候	年の暮				
275	年の阪追ひ立てられてこゆる哉	26	冬	時候	年の暮				
276	年の阪早くあちらの見たきもの	26	冬	時候	年の暮				
277	年の阪早くあなたの見たきもの	26	冬	時候	年の暮				
278	年の阪鬚は雪にぞなりけらし	26	冬	時候	年の暮				
279	年の波世渡りのかちをたえてけり	26	冬	時候	年の暮				
280	中々にいそげば遅し年のくれ	26	冬	時候	年の暮				
281	花赤く雪白しこゝに年くれぬ	26	冬	時候	年の暮				
282	花をまつ心に似たり年のくれ	26	冬	時候	年の暮				
283	腫物の血を押し出すや年の暮	26	冬	時候	年の暮				
284	一ふりの名刀買ひぬ年の暮	26	冬	時候	年の暮				
285	ひまな身の涙こぼしつ年のくれ	26	冬	時候	年の暮				
286	福神の晝も賣られけり年の暮	26	冬	時候	年の暮				
287	ものたらぬ心やぬくきとしのくれ	26	冬	時候	年の暮				

288	王事蹙々蓑着て年の暮れにけり	26	冬	時候	年の暮				
289	我戀は物にまぎれず年の暮	26	冬	時候	年の暮				
290	居酒屋に今年も暮れて面白や	26	冬	時候	年の暮				
291	馬に乗る嫁入見たり年の暮	27	冬	時候	年の暮				
292	追風吹かば何處迄行くぞ年の船	27	冬	時候	年の暮				
293	草枕今年は伊勢に暮れにけり	27	冬	時候	年の暮				
294	塞翁の馬上に眠る年のくれ	27	冬	時候	年の暮				
295	白梅の黄色に咲くや年の内	27	冬	時候	年の暮				
296	年のくれ千里の馬のくさりけり	27	冬	時候	年の暮				
297	乗掛や箱根にかゝる年の暮	27	冬	時候	年の暮				
298	思ふこと今年も暮れてしまひけり	28	冬	時候	年の暮				
299	隠れ家の年行かんともせざりけり	28	冬	時候	年の暮				
300	蜘蛛の巣のかくて今年も暮れにけり	28	冬	時候	年の暮				
301	山門や浮世詠むる年の暮	28	冬	時候	年の暮				
302	歳暮とも何ともなしに山の雲	28	冬	時候	年の暮				
303	たまされて遊女うらむや年の暮	28	冬	時候	年の暮				
304	年暮れぬ太平洋の船の中	28	冬	時候	年の暮				
305	あて人の年のくれには死なれける	29	冬	時候	年の暮				
306	おもしろい事にもあはず年暮るゝ	29	冬	時候	年の暮				
307	占ひのつひにあたらで歳暮れぬ	30	冬	時候	年の暮				
308	此歳暮易の面も覺束なし	30	冬	時候	年の暮				
309	つくつくと來年思ふ燈下哉	30	冬	時候	年の暮				
310	よらで過ぐる京の飛脚や年の暮	30	冬	時候	年の暮				
311	來年はよき句つくらんとぞ思ふ	30	冬	時候	年の暮				
312	離火坎水夫婦喧嘩に年くるゝ	30	冬	時候	年の暮				
313	金性の貧乏者よ年の暮	31	冬	時候	年の暮				
314	裁判の宣告のびて歳暮るゝ	31	冬	時候	年の暮				
315	裁判の宣告延びて歳暮れぬ	31	冬	時候	年の暮				
316	人間を笑ふが如し年の暮	31	冬	時候	年の暮				
317	掛取を責むる議案も歳の暮	32	冬	時候	年の暮				
318	寒梅の薫りおさめや大三十日	22	冬	時候	大晦日				
319	風凧て春の支度や大三十日	25	冬	時候	大晦日				
320	風凧て麥の支度や大三十日	25	冬	時候	大晦日				
321	君が代は大つごもりの月夜哉	25	冬	時候	大晦日				
322	君が代やめでたくすねて大三十日	25	冬	時候	大晦日				
323	あすあすと言ひつゝ人の寐入けり	26	冬	時候	大晦日				

324	あるきあるき年をとる也大三十日	26	冬	時候	大晦日				
325	あるきあるき年もとるなり大三十日	26	冬	時候	大晦日				
326	勝ち栗も餅もそろふてあすの春	26	冬	時候	大晦日				
327	きぬきぬの持たれて戀の大三十日	26	冬	時候	大晦日				
328	きぬきぬを樂みにして大三十日	26	冬	時候	大晦日				
329	元日の餅りながらに大三十日	26	冬	時候	大晦日				
330	けふをことしことしをけふのこよひ哉	26	冬	時候	大晦日				
331	はかなことしはしをけふのこよひ哉	26	冬	時候	大晦日				
332	又三百六十五度の夕日哉	26	冬	時候	大晦日				
333	宮様の門靜かなり大三十日	26	冬	時候	大晦日				
334	來年の餅の匂ひや大三十日	26	冬	時候	大晦日				
335	大晦日馬に追はるゝ夢見たり	27	冬	時候	大晦日				
336	大晦日神馬の鬚の皆白し	27	冬	時候	大晦日				
337	師走晦日錢隕つること雨の如し	27	冬	時候	大晦日				
338	梅活けし青磁の瓶や大三十日	28	冬	時候	大晦日				
339	梅活けて君待つ菴の大三十日	28	冬	時候	大晦日				
340	梅活けて君待つ庵や大三十日	28	冬	時候	大晦日				
341	語りけりおおつごもりの來ぬところ	28	冬	時候	大晦日				
342	摺小木や大つごもりを搔き廻す	28	冬	時候	大晦日				
343	漱石が來て虚子が來て大三十日	28	冬	時候	大晦日				
344	咄しけり大つごもりの來ぬ處	28	冬	時候	大晦日				
345	掏られけり大つごもりの蕎麥の錢	31	冬	時候	大晦日				
346	行き逢ふてそ知らぬ顔や大三十日	32	冬	時候	大晦日				
347	年の夜や地震ゆり出すあすの春	25	冬	時候	年の夜				
348	年の夜やいり物くふて詩會あり	30	冬	時候	年の夜				
349	大極にものあり除夜の不二の山	27	冬	時候	除夜				
350	追々に狐集まる除夜の鐘	30	冬	時候	除夜				
351	吉原を通れば除夜の大鼓哉	30	冬	時候	除夜				
352	歌反古を焚き居る除夜の火桶哉	32	冬	時候	除夜				
353	春立て鴉も知らず年の内	26	冬	時候	年内立春				
354	春立て花の氣もなし年の内	26	冬	時候	年内立春				
355	行年を鐵道馬車に追付ぬ	25	冬	時候	行く年				
356	行年を故郷人と酌みかはす	25	冬	時候	行く年				
357	若竹の煤竹になつて年ぞ行く	26	冬	時候	行く年				
358	つもり行く年の外なる春もかな	26	冬	時候	行く年				
359	行く年にのりあふ淀の夜舟哉	26	冬	時候	行く年				

360	行年や鏡に向ふ姉いもと	26	冬	時候	行く年			
361	行年や莊子を半讀さして	26	冬	時候	行く年			
362	行年や丹波を出づる筏守	26	冬	時候	行く年			
363	行年や奈良の都の青幣	26	冬	時候	行く年			
364	行年や並びが岡の歌法師	26	冬	時候	行く年			
365	行年を追はへつめたる鼠哉	26	冬	時候	行く年			
366	行年を紅粉白粉に京女	26	冬	時候	行く年			
367	世の中やこんな事して年の行く	26	冬	時候	行く年			
368	世の中や寐て居てさへ年は行く	26	冬	時候	行く年			
369	行く年の大河たうたうと流れけり	27	冬	時候	行く年	たうたう<さんずい+爪+臼>		
370	行く年のたゞあてもなく船出かな	27	冬	時候	行く年			
371	行く年の暖簾染むる小家かな	27	冬	時候	行く年			
372	行年の暖簾そむる紺屋哉	27	冬	時候	行く年			
373	行年の馬子のさげたる何魚ぞ	27	冬	時候	行く年			
374	行く年の行きどまりなり袋町	27	冬	時候	行く年			
375	行年や異國通ひの蒸氣船	27	冬	時候	行く年			
376	行く年や石にくひつく牡蠣の殻	27	冬	時候	行く年			
377	行年や鞍をおろせば鞍の跡	27	冬	時候	行く年			
378	行年や先へまはりし三千騎	27	冬	時候	行く年			
379	行年をたゞあてもなく船出哉	27	冬	時候	行く年			
380	行く年の雪五六尺つもりけり	28	冬	時候	行く年			
381	行く年の四つ橋に灯の往來哉	28	冬	時候	行く年			
382	行年や茶番に似たる人の顔	28	冬	時候	行く年			
383	行く年や茶番に似たる人のさま	28	冬	時候	行く年			
384	画の駒の馳せて年行く白髪哉	28	冬	時候	行く年			
385	詩百篇君去つて歳行かんとす	29	冬	時候	行く年			
386	年行くと故郷さして急ぎ足	29	冬	時候	行く年			
387	行年の浅草あたり人つどふ	29	冬	時候	行く年			
388	行く年の我いまだ老いず書を讀ん	29	冬	時候	行く年			
389	行く年を母すこやかに我病めり	29	冬	時候	行く年			
390	行く年や母健かに我れ病めり	29	冬	時候	行く年			
391	行く年を人鈍にして子を得たり	29	冬	時候	行く年			
392	行く年の人鈍にして子を得たり	29	冬	時候	行く年			
393	行く年の警察種や三頁	31	冬	時候	行く年			
394	年送る銀座の裏や鉢の梅	32	冬	時候	行く年			
395	冬されの背戸に米とぐ女哉	26	冬	時候	冬ざれ			

396	常盤木や冬されまさる城の跡	27	冬	時候	冬ざれ			
397	冬されて火焰つめたき不動かな	27	冬	時候	冬ざれ			
398	冬されて立白許り門の内	27	冬	時候	冬ざれ			
399	冬されて何の香もなし野雪隠	27	冬	時候	冬ざれ			
400	冬されや石燈籠の鳥の糞	27	冬	時候	冬ざれ			
401	冬されや稲荷の茶屋の油揚	27	冬	時候	冬ざれ			
402	冬されや立白許り門の内	27	冬	時候	冬ざれ			
403	冬されを人住みかねて明屋敷	27	冬	時候	冬ざれ			
404	冬さるゝ小店や蜜柑薩摩芋	28	冬	時候	冬ざれ			
405	冬されや蜜柑に竝ふさつま芋	28	冬	時候	冬ざれ			
406	冬されや水なき河の橋長し	28	冬	時候	冬ざれ			
407	冬されや焼場をめぐる枳殻垣	28	冬	時候	冬ざれ			
408	冬されや石臼残る井戸の端	28	冬	時候	冬ざれ			
409	冬されて淋しき顔や琵琶法師	29	冬	時候	冬ざれ			
410	冬されや狐もくはぬ小豆飯	29	冬	時候	冬ざれ			
411	冬されや一本瘦せし磯馴松	29	冬	時候	冬ざれ			
412	冬されの厨に赤き蕪かな	30	冬	時候	冬ざれ			
413	冬されの厨に京の柚味噌あり	30	冬	時候	冬ざれ			
414	冬されの小村を行けば犬吠ゆる	30	冬	時候	冬ざれ			
415	冬さびぬ藏澤の竹明月の書	30	冬	時候	冬さぶ			
416	柿の實の火ともえいでて寒さ哉	18	冬	時候	寒さ			
417	寒の入と聞て俄の寒さ哉	23	冬	時候	寒さ			
418	ぬすまれて親の恩知る寒さ哉	23	冬	時候	寒さ			
419	馬の背にまづ月を見る寒さ哉	24	冬	時候	寒さ			
420	仰向けぬ入道皇の寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
421	馬糞のいきり立たる寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
422	馬瘦せて鹿に似る頃の寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
423	きぬきぬにもものいひ残す寒哉	25	冬	時候	寒さ			
424	くび巻に咽引きしめる寒哉	25	冬	時候	寒さ			
425	くやみいふ口のごもりし寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
426	廓行きの車夫にぬかれる寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
427	この寒さ君に別るゝあしたより	25	冬	時候	寒さ			
428	新宅の其頃出来し寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
429	砂川の涸れて蛇籠の寒哉	25	冬	時候	寒さ			
430	爲朝のお宿と書し寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			
431	箱根来てふじに並びし寒さ哉	25	冬	時候	寒さ			

432	御格子に切髪かくる寒さ哉	25	冬	時候	寒さ				
433	洋服の足よりひゆる寒さ哉	25	冬	時候	寒さ				
434	夜著かたくからだにそはぬ寒さ哉	25	冬	時候	寒さ				
435	蝋燭の涙も氷る寒さかな	25	冬	時候	寒さ				
436	あら海のとりとめかたき寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
437	一年の夢さめかゝる寒さかな	26	冬	時候	寒さ				
438	うかれ女の小舟に歸る寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
439	うたゝねはさめて背筋の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
440	追剥の出るてふ松の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
441	大津画にほこりのたまる寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
442	思ひやる都のあとの寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
443	風吹て焚鐘冴る寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
444	鐘うてば不犯とひゞく寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
445	金なしにありけば臍の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
446	きぬきぬに念佛申す寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
447	?然と牛解く音の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
448	三年の洋服ぬぎし寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
449	宿直の夜更けて大鼓の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
450	寢殿に暮目の音の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
451	旃檀の實ばかりになる寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
452	大海のとりとめ難き寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
453	大名は牡丹のお間の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
454	媒にはしる魇の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
455	なきあとに妹が鏡の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
456	一ツ目も三ツ目も光る寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
457	鯨さげて妹がりいそぐ寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
458	故郷の寒さを語り給へとよ	26	冬	時候	寒さ				
459	まだ立てぬ石の鳥居の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
460	御格子に切髪さげる寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
461	むら雲の劔を拜む寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
462	若殿が狸寐入の寒さ哉	26	冬	時候	寒さ				
463	朝日さす材木河岸の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
464	大船の干潟にすわる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
465	狐火の湖水にうつる寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
466	傾城のひとり寐ねたる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
467	傾城はうしる姿の寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				

468	傾城を舟へ呼ぶ夜の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
469	此頃の富士大きな寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
470	紙燭消えて安房の灯見ゆる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
471	新田に家建ちかゝる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
472	神木とならで檜のさむさかな	27	冬	時候	寒さ				
473	大名をゆすりにかゝる寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
474	筑波嶺に顔そむけたる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
475	天暗うして大佛の眼の寒哉	27	冬	時候	寒さ				
476	電燈の木の間に光る寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
477	名處は冬菜の肥ゆる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
478	野の中に一本杉の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
479	のら猫をかゝえて寐たる寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
480	剥かるゝ程に伸び程に棕櫚の寒かな	27	冬	時候	寒さ				
481	花もなし柩ばかりの寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
482	古城の石かけ崩す寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
483	古辻に郵便箱の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
484	星落ちて石となる夜の寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
485	星こぼす天の河原の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
486	星絶えず飛んであら野の寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
487	佛でもなうて焚かれぬ寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
488	薪舟の關宿下る寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
489	むさゝびの石弓渡る寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
490	目の前に顔のちらつく寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
491	森の上に富士見つけたる寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
492	槍持の槍かつき行く寒さ哉	27	冬	時候	寒さ				
493	藁屋根に鮑のからの寒さかな	27	冬	時候	寒さ				
494	雨晴れて風々凧いで寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
495	雨やみて風風やみて寒さかな	28	冬	時候	寒さ				
496	薄暗き穴八幡の寒さかな	28	冬	時候	寒さ				
497	うねうねと赤土山の寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
498	肩を張り拳を握る寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
499	木のあひに星のきらつく寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
500	雲なくて空の寒さよ小山越	28	冬	時候	寒さ				
501	くらがりの人に逢ふたる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
502	くら闇の人に逢ふたる寒哉	28	冬	時候	寒さ				
503	この寒さ北に向いたる別れ哉	28	冬	時候	寒さ				

504	この寒さ君何地へか去らんとす	28	冬	時候	寒さ				
505	この寒さ越後の人のなつかしき	28	冬	時候	寒さ				
506	この寒さ尾張の人のなつかしき	28	冬	時候	寒さ				
507	このたびは一人で通る寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
508	大名の通つてあとの寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
509	谷のぞく十綱の橋の寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
510	なまじひに人に逢ふ夜の寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
511	庭の月晝のやうなる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
512	狼烟見る人の寒さや城の上	28	冬	時候	寒さ				
513	旅籠屋の我につれなき寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
514	はつきりと富士の見えたる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
515	母病んで粥をたく子の寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
516	薔薇の花の此頃絶えし寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
517	舟ばたに海のぞきたる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
518	堀越に狐火見ゆる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
519	又例の羅漢の軸の寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
520	見上げたる高石かけの寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
521	水音の枕に落つる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
522	めでたさに袴つけたる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
523	山風にほうと立つたる寒さ哉	28	冬	時候	寒さ				
524	刀賣つて土手八町の寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
525	川上は川下はばつと寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
526	首切の刀磨き居る寒さかな	29	冬	時候	寒さ				
527	くらがりに大佛見ゆる寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
528	素人の平家を語る寒哉	29	冬	時候	寒さ				
529	大將の星になつたる寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
530	出女のへりて目黒の寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
531	畑荒れて墓原残る寒さかな	29	冬	時候	寒さ				
532	鼻垂れの子が賣れ残る寒哉	29	冬	時候	寒さ				
533	半焼の家に人住む寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
534	再びは歸らぬ道の寒さかな	29	冬	時候	寒さ				
535	古刀人の味知る寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
536	待つ宵を鏡に向ふ寒さかな	29	冬	時候	寒さ				
537	道ばたで財布を探る寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
538	水涸れて橋行く人の寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				
539	山城に睨まれて居る寒さ哉	29	冬	時候	寒さ				

540	牢を出て人の顔見る寒さ哉	29	冬	時候	寒さ			
541	蝋燭の涙を流す寒さ哉	29	冬	時候	寒さ			
542	六十にして洗禮受くる寒さ哉	29	冬	時候	寒さ			
543	をさな子の泣く泣く歸る寒哉	29	冬	時候	寒さ			
544	この寒さ神だちも看とり参らせよ	30	冬	時候	寒さ			
545	四十にて子におくれたる寒さ哉	30	冬	時候	寒さ			
546	出家せんとして寺を思へば寒さ哉	30	冬	時候	寒さ			
547	新宅の柱巻きある寒さ哉	30	冬	時候	寒さ			
548	涙さへ盡きて餘りの寒さかな	30	冬	時候	寒さ			
549	焼跡の柱焦げて立つ寒さ哉	30	冬	時候	寒さ			
550	世の中のひつそりとなる寒さ哉	30	冬	時候	寒さ			
551	黒わくに知る人を見る寒哉	31	冬	時候	寒さ			
552	葬の灯の水田にうつる寒哉	31	冬	時候	寒さ			
553	知らぬ人に道譲りたる寒哉	31	冬	時候	寒さ			
554	新築の窓に墨つく寒哉	31	冬	時候	寒さ			
555	蕎麥屋出て永阪上る寒さ哉	31	冬	時候	寒さ			
556	月の雲ちぎれて飛びし寒哉	31	冬	時候	寒さ			
557	床の間に檜の青き寒さ哉	31	冬	時候	寒さ			
558	十に足らぬ子を寺へ遣る寒哉	31	冬	時候	寒さ			
559	亡き犬に犬小屋覗く寒さ哉	31	冬	時候	寒さ			
560	焼跡に小屋かけて居る寒さ哉	31	冬	時候	寒さ			
561	靈廟にかしこまりたるさふさ哉	31	冬	時候	寒さ			
562	大船の中を漕ぎ出し寒哉	32	冬	時候	寒さ			
563	片側は海はつとして寒さ哉	32	冬	時候	寒さ			
564	からびたる蝋の鑄形の寒哉	32	冬	時候	寒さ			
565	甲板に出て星を見る寒哉	32	冬	時候	寒さ			
566	廓出て仕置場に行く寒哉	32	冬	時候	寒さ			
567	扣所に呼出しを待つ寒哉	32	冬	時候	寒さ			
568	深川は埋地の多き寒さ哉	32	冬	時候	寒さ			
569	松山の城を見おろす寒哉	32	冬	時候	寒さ			
570	みとりする人は皆寐て寒哉	32	冬	時候	寒さ			
571	顔包む襟巻解けて寒さ哉	33	冬	時候	寒さ			
572	此寒さ神経一人水の中	33	冬	時候	寒さ			
573	頬腫の鏡にうつる寒さ哉	33	冬	時候	寒さ			
574	寒さうに鳥のうきけり牛久沼	22	冬	時候	寒し			
575	ふじ山の横顔寒き別れかな	22	冬	時候	寒し			

576	月寒しことわられたる獨旅	25	冬	時候	寒し				
577	月寒し宿とり外すひとり旅	25	冬	時候	寒し				
578	朝つくる大砲寒き門邊哉	26	冬	時候	寒し				
579	うねうねと兀山寒し三河道	26	冬	時候	寒し				
580	風吹て禿寒がる屏風哉	26	冬	時候	寒し				
581	風吹て雲寒々し海の上	26	冬	時候	寒し				
582	から尻のうしろは寒き姿かな	26	冬	時候	寒し				
583	枯れ残る角寒げ也鉦の聲	26	冬	時候	寒し				
584	寒き日を御製にたよる民の春	26	冬	時候	寒し				
585	寒ければ木の葉衣を參らせん	26	冬	時候	寒し				
586	ちらちらと明星寒し山の上	26	冬	時候	寒し				
587	月寒し木葉衣を風わたる	26	冬	時候	寒し				
588	通されて子牛の穴の鼻寒し	26	冬	時候	寒し				
589	入棺の釘の響きや夜ぞ寒き	26	冬	時候	寒し				
590	旭のうつる河岸裏寒し角田川	26	冬	時候	寒し				
591	ぼつちりと味噌皿寒し膳の上	26	冬	時候	寒し				
592	足もとに寒し大きな月一つ	27	冬	時候	寒し				
593	黒船の雪にもならで寒げなり	27	冬	時候	寒し				
594	寒き日を土の達磨に向ひける	27	冬	時候	寒し				
595	月落ちて入り江は寒し舟一つ	27	冬	時候	寒し				
596	人一人二人寒しや大廣間	27	冬	時候	寒し				
597	物もなき神殿寒し大々鼓	27	冬	時候	寒し				
598	吉原の裏道寒し卵塔場	27	冬	時候	寒し				
599	足柄はさぞ寒かつたでござんしよう	28	冬	時候	寒し				
600	石垣や松這ひ出でゝ水寒し	28	冬	時候	寒し				
601	掛けられて汝に浮世の風寒し	28	冬	時候	寒し				
602	掛られて汝に此世の風寒し	28	冬	時候	寒し				
603	寒き日を書もてはいる廁かな	28	冬	時候	寒し				
604	寒き夜や妹がり行けば温鈍賣	28	冬	時候	寒し				
605	寒けれど不二見て居るや阪の上	28	冬	時候	寒し				
606	寒さうに金魚の浮きし日向哉	28	冬	時候	寒し				
607	囚人の頸筋寒し馬の上	28	冬	時候	寒し				
608	藤原の出口に寒し牢屋敷	28	冬	時候	寒し				
609	佛焚いて佛壇寒し味噌の皿	28	冬	時候	寒し				
610	家寒く有磯の海に向ひけり	29	冬	時候	寒し				
611	江に向いて一膳飯の店寒し	29	冬	時候	寒し				

612	音寒き海より上る朝日哉	29	冬	時候	寒し				
613	狼の糞見て寒し白根越	29	冬	時候	寒し				
614	川上也川下もばつとして寒し	29	冬	時候	寒し				
615	客稀に大丸寒し釜の湯氣	29	冬	時候	寒し				
616	苦し寒し風を呑み込む阪の上	29	冬	時候	寒し				
617	剣に舞へば蠟燭寒き焰哉	29	冬	時候	寒し				
618	剣に舞へば蠟燭寒き酒宴かな	29	冬	時候	寒し				
619	寒けれど酒もあり温泉もある處	29	冬	時候	寒し				
620	寒けれど富士見る旅は羨まし	29	冬	時候	寒し				
621	寒さうに語る夕日の木こり哉	29	冬	時候	寒し				
622	寒さうに皆きぬきぬの顔許り	29	冬	時候	寒し				
623	寒さうに夜伽の人の假寐哉	29	冬	時候	寒し				
624	説教は寒いか里の嫁御達	29	冬	時候	寒し				
625	堂寒し羅寒五百の眼の光	29	冬	時候	寒し				
626	瀧涸れて日向に寒し山の不動尊	29	冬	時候	寒し				
627	月近く覗いて寒し山の寺	29	冬	時候	寒し				
628	何やらの足跡寒き厨かな	29	冬	時候	寒し				
629	原荒れて明星寒し菟布の屋根	29	冬	時候	寒し				
630	故里の入口寒し亂塔場	29	冬	時候	寒し				
631	山寒し樵夫一人下りて行く	29	冬	時候	寒し				
632	酔ざめの車に乗れば足寒し	29	冬	時候	寒し				
633	我寒し君はた歸りきませとよ	29	冬	時候	寒し				
634	いもくひながら四谷歸る夜の寒かりし	30	冬	時候	寒し				
635	いも喰ひながら四谷戻る夜の寒かりし	30	冬	時候	寒し				
636	追剥の出るか出るかと衿寒き	30	冬	時候	寒し				
637	雲もなき不二見て寒し江戸の町	30	冬	時候	寒し				
638	寒からう痒からう人に逢ひたからう	30	冬	時候	寒し				
639	汐引いて棒杭寒き入江かな	30	冬	時候	寒し				
640	堂寒し五百羅漢の眼の光	30	冬	時候	寒し				
641	毒籠を静めて淵の色寒し	30	冬	時候	寒し				
642	人住まぬ別荘寒し櫛木原	30	冬	時候	寒し				
643	將門の都睨みし山寒し	30	冬	時候	寒し				
644	御灯青く通夜の公卿衆の顔寒き	30	冬	時候	寒し				
645	御船前に眞榊隠れ灯の寒き	30	冬	時候	寒し				
646	御船前や眞榊隠れ灯の寒き	30	冬	時候	寒し				
647	武藏野の明星寒し葱畑	30	冬	時候	寒し				

648	召したまふ御聲もなくて寒き夜や	30	冬	時候	寒し				
649	物部の手に劍寒し喪のしるし	30	冬	時候	寒し				
650	雪の無き富士見て寒し江戸の町	30	冬	時候	寒し				
651	赦されて囚人薄き衣寒し	30	冬	時候	寒し				
652	犬吠えて夫呼び起す寒夜哉	31	冬	時候	寒し				
653	寫し見る鏡中の人吾寒し	31	冬	時候	寒し				
654	飼猿よこの頃木曾の月寒し	31	冬	時候	寒し				
655	寒き夜を猶むつまじく契るべし	31	冬	時候	寒し				
656	背戸寒く日本海に向ひけり	31	冬	時候	寒し				
657	背戸の外は日本海の波寒し	31	冬	時候	寒し				
658	亡き人のまほろし寒し化粧の間	31	冬	時候	寒し				
659	松寒し樓門兀て矢大臣	31	冬	時候	寒し				
660	牢を出て再び寒し娑婆の風	31	冬	時候	寒し				
661	寒き日を穴八幡に上りけり	32	冬	時候	寒し				
662	寒き夜の町の噂や篝星	32	冬	時候	寒し				
663	寒き夜や妹か門邊の温飴賣	32	冬	時候	寒し				
664	寒さうな外の草木やガラス窓	32	冬	時候	寒し				
665	行き馴れし墓の小道や杉寒し	32	冬	時候	寒し				
666	寒き夜の錢湯遠き場末哉	33	冬	時候	寒し				
667	先生のお留守寒しや上根岸	33	冬	時候	寒し				
668	泥舟の二つ竝んで川寒し	33	冬	時候	寒し				
669	寒き夜や家に歸れば鮫鱈汁	35	冬	時候	寒し				
670	清潭の居る山寒し獅子の声	35	冬	時候	寒し				
671	藪ごしやはだか参りの鈴冴る	25	冬	時候	冴				
672	門付の三味遠き夜やかねさゆる	26	冬	時候	冴				
673	冴る夜や大星一つ流れ行く	26	冬	時候	冴				
674	裏山や月冴えて笹の音は何	28	冬	時候	冴				
675	鐘冴ゆる夜かゝげても灯の消んとす	29	冬	時候	冴				
676	琵琶冴えて星落來る臺哉	29	冬	時候	冴				
677	星冴えて篝火白き砦哉	29	冬	時候	冴				
678	借り家や冴ゆる夜近き汽車の音	30	冬	時候	冴				
679	冴ゆる夜や女ひそかに劍習ふ	30	冬	時候	冴				
680	女房泣く聲冴えて御所の夜更けたり	30	冬	時候	冴				
681	冴ゆる夜の北斗を焦す狼烟哉	31	冬	時候	冴				
682	諏訪の海不二の影より氷りけり	25	冬	時候	凍る				
683	千足袋の其まゝ氷る株かな	26	冬	時候	凍る				

684	夜嵐や網代に氷る星の影	26	冬	時候	凍る				
685	蘆の根のしつかり氷る入江哉	27	冬	時候	凍る				
686	染汁の紫こぼる小川かな	27	冬	時候	凍る				
687	染汁の紫氷る小溝かな	27	冬	時候	凍る				
688	谷川の石も一つに氷りけり	27	冬	時候	凍る				
689	ともし行く灯や凍らんと禰宜が袖	27	冬	時候	凍る				
690	今年中氷りつきけり諏訪の舟	28	冬	時候	凍る				
691	氷りけり諏訪の捨舟今年中	28	冬	時候	凍る				
692	手凍えて筆動かず夜や更けぬらん	28	冬	時候	凍る				
693	四辻や打水氷る朝日影	28	冬	時候	凍る				
694	歌の濱も上野の嶋も氷りけり	29	冬	時候	凍る				
695	靴凍てゝ墨塗るべくもあらぬ哉	29	冬	時候	凍る				
696	凍る田や八郎稻荷本願寺	29	冬	時候	凍る				
697	凍る手や菜の總の紅に	29	冬	時候	凍る				
698	蒟蒻も舌も此夜を凍りけり	29	冬	時候	凍る				
699	冷飯のこほりたるに茶をかけるべく	29	冬	時候	凍る				
700	漏らさじと戀のしがらみ氷るらん	29	冬	時候	凍る				
701	手凍えてしばしば筆の落んとす	30	冬	時候	凍る				
702	袴著て手の凍えたる童哉	30	冬	時候	凍る				
703	崩御遊ばさる其夜星落ち雲こぼる	30	冬	時候	凍る				
704	狼や鞆丸凍る旅の人	31	冬	時候	凍る				
705	凍え死ぬ人さへあるに猫の戀	31	冬	時候	凍る				
706	土凍てゝ南天の實のこぼれけり	31	冬	時候	凍る				
707	墨汁も筆も氷りぬ書を讀まん	31	冬	時候	凍る				
708	枯菊や凍たる土に立ち盡す	32	冬	時候	凍る				
709	凍えたる手をあぶりけり弟子大工	32	冬	時候	凍る				
710	凍えたる指のしびれや風の絲	32	冬	時候	凍る				
711	精出せば氷る間も無し水車	32	冬	時候	凍る				
712	土凍てし愛宕の山や吹さらし	32	冬	時候	凍る				
713	星満つる胡の空や角こぼる	32	冬	時候	凍る				
714	頬凍て子の歸り来る夕餉哉	32	冬	時候	凍る				
715	道凍てはだし詣の通りけり	32	冬	時候	凍る				
716	割下水きたなき水の氷りけり	32	冬	時候	凍る				
717	凍てついて鼠に鷲の失敗す	33	冬	時候	凍る				
718	凍筆をホヤにかざして焦しけり	33	冬	時候	凍る				
719	日のあたる石にさはればつめたさよ	27	冬	時候	つめたし				

720	白石の墓もつめたき無縁哉	32	冬	時候	つめたし				
721	冬の夜や君が門べを幾もどり	26	冬	時候	冬の夜				
722	冬の夜や星流れこむ海のはて	26	冬	時候	冬の夜				
723	冬の夜の稻妻薄し星の中	28	冬	時候	冬の夜				
724	冬の夜の更けてなみふるともし哉	28	冬	時候	冬の夜				
725	詩一章柿二顆冬の夜は更ぬ	30	冬	時候	冬の夜				
726	冬の夜やいり物くふて詩會あり	30	冬	時候	冬の夜				
727	人を囓む鼠出でけり夜半の冬	33	冬	時候	冬の夜				
728	春待つや着物着たがる娘の子	26	冬	時候	春を待つ				
729	春待つや小田の雁金首立てゝ	26	冬	時候	春を待つ				
730	春を待つ雑煮をまつと人や思	26	冬	時候	春を待つ				
731	春待つや只四五寸の梅の苗	28	冬	時候	春を待つ				
732	春待つや椿の荅籠の鳥	29	冬	時候	春を待つ				
733	春を待つ迄に我はや老いにけり	29	冬	時候	春を待つ				
734	小説を草して獨り春を待つ	31	冬	時候	春を待つ				
735	寒園に梅咲く春も待ちあへず	34	冬	時候	春を待つ				
736	北窓に春まつ梅の老木哉	35	冬	時候	春を待つ				
737	あかゞりや一寸われて春近し	28	冬	時候	春近し				
738	ひもじさの餅にありつく睦月かな	28	冬	時候	一月				
739	ひもじさの餅にうれしき睦月哉	28	冬	時候	一月				
740	初霜や朝日を含む本願寺	26	冬	天文	初霜				
741	初霜や兒の手柏のふたおもて	26	冬	天文	初霜				
742	初霜や束ねよせたる菊の花	27	冬	天文	初霜				
743	初霜に負けて倒れし菊の花	28	冬	天文	初霜				
744	初霜や鏡にうつる鬢の上	28	冬	天文	初霜				
745	明残る月の光りかしものつや	20	冬	天文	霜				
746	幾霜に根をかため行小松哉	25	冬	天文	霜				
747	牛若の下駄の跡あり橋の霜	25	冬	天文	霜				
748	寒菊や霜の重みに倒れけん	25	冬	天文	霜				
749	緋の蕪にはかなき霜の命かな	25	冬	天文	霜				
750	繪のやうな紅葉ちる也霜の上	25	冬	天文	霜				
751	朝な朝な霜おく旅の紙衣哉	26	冬	天文	霜				
752	風吹てのら猫叫ぶ屋根の霜	26	冬	天文	霜				
753	風吹て蒲團に霜を置く夜哉	26	冬	天文	霜				
754	三條の霜に手をつく泪哉	26	冬	天文	霜				
755	霜ふんで鹿曉の山にたつ	26	冬	天文	霜				

756	雀とまる釣瓶の底や霜のあと	26	冬	天文	霜				
757	一むれの牛のあとあり橋の霜	26	冬	天文	霜				
758	故郷の霜の味見よ赤かぶら	26	冬	天文	霜				
759	古寺や百鬼夜行の霜のあと	26	冬	天文	霜				
760	いたいけに霜置く薔薇の蒼哉	27	冬	天文	霜				
761	塩濱の霜かきならず朝日かな	27	冬	天文	霜				
762	霜の夜や赤子に似たる猫の声	27	冬	天文	霜				
763	南天をこぼさぬ霜の静かさよ	27	冬	天文	霜				
764	旭のさすや紅うかぶ霜の富士	27	冬	天文	霜				
765	鶉の朝日に飛ぶや霜の原	27	冬	天文	霜				
766	兵營や霜に荒れたる國府の臺	27	冬	天文	霜				
767	ほつかりと日のあたりけり霜の塔	27	冬	天文	霜				
768	瘦菊に霜置かぬ朝の曇りかな	27	冬	天文	霜				
769	蓬生や霜に崩るゝ古築地	27	冬	天文	霜				
770	猪のかき崩しけり霜の岨	27	冬	天文	霜				
771	曉や御庭の霜の捨篋	28	冬	天文	霜				
772	尼寺の錠かゝりけり門の霜	28	冬	天文	霜				
773	有明の霜まばらなり敷俵	28	冬	天文	霜				
774	薄赤う旭のあたりけり霜の不二	28	冬	天文	霜				
775	起せども腰が抜けたか霜の菊	28	冬	天文	霜				
776	きやべつ菜に横濱近し畑の霜	28	冬	天文	霜				
777	霜こぼる焼刃を水の流れけり	28	冬	天文	霜				
778	鶏鳴くや月落ちかゝる橋の霜	28	冬	天文	霜				
779	鍋の霜日の短きも限りかな	28	冬	天文	霜				
780	橋の霜雀が下りても遊びけり	28	冬	天文	霜				
781	世の中を恨みつくして土の霜	28	冬	天文	霜				
782	赤い實の一つこぼれて霜の橋	29	冬	天文	霜				
783	赤き實の一つこぼれぬ霜の庭	29	冬	天文	霜				
784	兜脱げ酒ふるまはん鬢の箱	29	冬	天文	霜				
785	鴉鳴く四十九日や塚の霜	29	冬	天文	霜				
786	烏なく霜の野寺の明にけり	29	冬	天文	霜				
787	戀ひ死なばせめては塚の霜に訪へ	29	冬	天文	霜				
788	淋しげに霜の鳥居の立ち盡す	29	冬	天文	霜				
789	誰が家ぞ霜に折れたる萩芒	29	冬	天文	霜				
790	たが塚ぞ霜に伏したる八重葎	29	冬	天文	霜				
791	石落の葉の霜に尿する小僧哉	29	冬	天文	霜				

792	灯氷る杉の木立や路の霜	29	冬	天文	霜				
793	琵琶悲し一夜に寒き鬢の霜	29	冬	天文	霜				
794	夜嵐や吹き静まつて蕙の霜	29	冬	天文	霜				
795	遼東の霜にちびたるひづめ哉	29	冬	天文	霜				
796	凱旋や天子見そなはず鬢の霜	29	冬	天文	霜				
797	酒さめて楓橋の夢霜の鐘	30	冬	天文	霜				
798	十萬の髑髏の夢や草の霜	30	冬	天文	霜				
799	霜に寐て案山子誰をか恨むらん	30	冬	天文	霜				
800	霜や深き大黒柱ひゞく音	30	冬	天文	霜				
801	住み荒れて雀来て寐る椽の霜	30	冬	天文	霜				
802	冬瓜や霜ふりかけし皮の色	30	冬	天文	霜				
803	渡し場や下駄はいてのる舟の霜	30	冬	天文	霜				
804	狼の糞あたゝかに寺の霜	31	冬	天文	霜				
805	狼の小便したり草の霜	31	冬	天文	霜				
806	法官や僻地に老いて髭の霜	31	冬	天文	霜				
807	薬草の花紫に霜白し	31	冬	天文	霜				
808	薬草の花紫に霜早し	31	冬	天文	霜				
809	亡き妻の四九日や墓の霜	32	冬	天文	霜				
810	加賀人が酢の塩梅や霜の蟹	33	冬	天文	霜				
811	加賀人が料りて見せつ霜の蟹	33	冬	天文	霜				
812	霜の蟹や玉壺の酒の底濁り	33	冬	天文	霜				
813	鳥にやる菜をむしりけり庭の霜	33	冬	天文	霜				
814	庭石や霜に鳥なく藪柑子	35	冬	天文	霜				
815	夜まわりの無情見えけり霜柱	24	冬	天文	霜柱				
816	隠れ家や未下りの霜柱	27	冬	天文	霜柱				
817	霜柱石燈籠は倒れけり	27	冬	天文	霜柱				
818	初敷くや踏めば落ち込む霜柱	27	冬	天文	霜柱				
819	枯れ盡す菊の畠の霜柱	28	冬	天文	霜柱				
820	土ともに崩るゝ崖の霜柱	28	冬	天文	霜柱				
821	もろともに崩るゝ崖の霜柱	29	冬	天文	霜柱				
822	菊も刈り薄も刈りぬ霜柱	31	冬	天文	霜柱				
823	水仙は咲かみやみけり霜柱	31	冬	天文	霜柱				
824	人行かぬ北の家陰や霜柱	31	冬	天文	霜柱				
825	日のさゝぬ四角な庭や霜柱	31	冬	天文	霜柱				
826	梅龕の墓に花無し霜柱	32	冬	天文	霜柱				
827	蕾つく梅の苗木や霜柱	35	冬	天文	霜柱				

828	朝霜をおきあつめたる落葉哉	20	冬	天文	朝霜				
829	朝霜や藁家ばかりの村一つ	25	冬	天文	朝霜				
830	朝霜を洗ひ落せし冬菜哉	25	冬	天文	朝霜				
831	ほろほろと朝霜もゆる落葉哉	25	冬	天文	朝霜				
832	朝霜や青菜つみ出す三河嶋	26	冬	天文	朝霜				
833	朝霜の御茶の水河岸静かなり	27	冬	天文	朝霜				
834	朝霜の帆綱に光る日の出かな	27	冬	天文	朝霜				
835	朝霜やいらかにつゞく安房の海	27	冬	天文	朝霜				
836	朝霜や江戸をはなれて空の不二	27	冬	天文	朝霜				
837	朝霜やかれかれ赤き蓼の花	27	冬	天文	朝霜				
838	朝霜や静かに残る竹の月	27	冬	天文	朝霜				
839	朝霜や零したゝる塔の屋根	27	冬	天文	朝霜				
840	朝霜や零流るゝぶりき屋根	27	冬	天文	朝霜				
841	朝霜や舟流したる橋の下	27	冬	天文	朝霜				
842	朝霜や屋根のつゞきの安房の海	27	冬	天文	朝霜				
843	熱帯の草しほれけり今朝の霜	27	冬	天文	朝霜				
844	帆まばらに富士高し朝の霜かすむ	27	冬	天文	朝霜				
845	饅頭の湯氣のいきりや霜の朝	27	冬	天文	朝霜				
846	麥の芽のほのかに青し朝の霜	27	冬	天文	朝霜				
847	麥の芽のほのかに青し霜の朝	27	冬	天文	朝霜				
848	朝霜に日の昇りたる城下かな	28	冬	天文	朝霜				
849	朝霜の藁屋の上や富士の雪	28	冬	天文	朝霜				
850	朝霜や鐘引き捨てし道の端	28	冬	天文	朝霜				
851	朝霜や猶青臭き莖菜桶	28	冬	天文	朝霜				
852	朝霜や不二を見に出る廊下口	28	冬	天文	朝霜				
853	きやべつ菜に横濱近し朝の霜	28	冬	天文	朝霜				
854	吾妹子が眉に置きけり朝の霜	28	冬	天文	朝霜				
855	咲かで枯れし薔薇の蕾や朝の霜	33	冬	天文	朝霜				
856	朝霜に青き物なき小庭哉	35	冬	天文	朝霜				
857	朝霜や大佛殿の鼻柱	35	冬	天文	朝霜				
858	親牛の子牛をねぶる霜夜哉	25	冬	天文	霜夜				
859	鐘つきの衣かたしく霜夜哉	25	冬	天文	霜夜				
860	ほんのりと茶の花くもる霜夜哉	25	冬	天文	霜夜				
861	牛小屋に牛のつぐなる霜夜哉	26	冬	天文	霜夜				
862	牛の子の鼻息白き霜夜哉	26	冬	天文	霜夜				
863	牛の子の鼻いき白し霜夜哉	26	冬	天文	霜夜				

864	肅々と馬に鞭うつ霜夜かな	26	冬	天文	霜夜				
865	橋渡る音や霜夜の御所車	26	冬	天文	霜夜				
866	辻堂に狐の寐たる霜夜かな	27	冬	天文	霜夜				
867	金岡の馬静まりし霜夜哉	28	冬	天文	霜夜				
868	九つか霜夜の鐘に泣く女	29	冬	天文	霜夜				
869	犬の子を狸はぐむ霜夜かな	31	冬	天文	霜夜				
870	尿せしわらべを叱る霜夜哉	31	冬	天文	霜夜				
871	酔蟹の壺を伺ふ霜夜かな	33	冬	天文	霜夜				
872	不忍の鴨寐静まる霜夜かな	35	冬	天文	霜夜				
873	家にまつ女房もなし冬の風	24	冬	天文	冬の風				
874	北風や芋屋の煙なびきあへず	25	冬	天文	北風				
875	北風に鍋焼温飰呼びかけたり	30	冬	天文	北風				
876	北風に鍋焼温泉呼びかけたり	30	冬	天文	北風				
877	北風に向いて堀端通りかな	30	冬	天文	北風				
878	北の窓日本海を塞ぎけり	31	冬	天文	北風				
879	風に舞ひあがりたる落葉哉	22	冬	天文	凧				
880	凧や迷ひ子探す鉦の音	23	冬	天文	凧				
881	木枯に月も動くや波のかけ	24	冬	天文	凧				
882	木枯やあら緒くひこむ菅の笠	24	冬	天文	凧				
883	木枯や木はみな落ちて壁の骨	24	冬	天文	凧				
884	木枯や富士をめかけて舟一つ	24	冬	天文	凧				
885	凧に三味も枯木の一寸哉	25	冬	天文	凧				
886	凧に尻をむけけり離れ鴛	25	冬	天文	凧				
887	凧にのつて虚空を行き給へ	25	冬	天文	凧				
888	木枯に鼻をとらるな京の人	25	冬	天文	凧				
889	凧にはひつくばるや土龜山	25	冬	天文	凧				
890	木枯に火影おそろしがらす窓	25	冬	天文	凧				
891	凧にもたれてはしる白帆哉	25	冬	天文	凧				
892	凧や岩につまづく波のおと	25	冬	天文	凧				
893	凧やいりあひくづす夕鴉	25	冬	天文	凧				
894	凧や追手も見えずはなれ馬	25	冬	天文	凧				
895	凧や枯色見する塔一つ	25	冬	天文	凧				
896	凧や京にそがひの家かまつ	25	冬	天文	凧				
897	凧や鐵となる吾妻橋	25	冬	天文	凧				
898	凧や虚空をかける氣車の音	25	冬	天文	凧				
899	凧や虚空をはしる氣車の音	25	冬	天文	凧				

900	木枯やさゝは餘計にゆれながら	25	冬	天文	閑				
901	木枯やしのみ付たるふしの雲	25	冬	天文	閑				
902	凧や自在に釜のきしる音	25	冬	天文	閑				
903	凧や船頭も見えずはしり船	25	冬	天文	閑				
904	凧やちぎつてすつるふじの雪	25	冬	天文	閑				
905	凧や刃物の疵のところどころ	25	冬	天文	閑				
906	凧や帽ひるがへる京の町	25	冬	天文	閑				
907	凧や夜着きて町を通る人	25	冬	天文	閑				
908	吹付てはては凧の雨もなし	25	冬	天文	閑				
909	凧に汽車かけり行く別れ哉	26	冬	天文	閑				
910	凧にのびる小松のきほひ哉	26	冬	天文	閑				
911	凧に吹き落されな馬の尻	26	冬	天文	閑				
912	凧にふとる蒼や寒椿	26	冬	天文	閑				
913	凧の暮れかゝりけり鳩の海	26	冬	天文	閑				
914	凧の十日許りは休みけり	26	冬	天文	閑				
915	凧の吹けども吹けども柳かな	26	冬	天文	閑				
916	凧や淺間の煙吹ききつて	26	冬	天文	閑				
917	凧やいとまたまはる近衛兵	26	冬	天文	閑				
918	凧や入相ひゞく牛の角	26	冬	天文	閑				
919	凧や海を流るゝ隅田川	26	冬	天文	閑				
920	凧や木曾川落ちる夜の音	26	冬	天文	閑				
921	凧や木曾川落つる夜の音	26	冬	天文	閑				
922	凧や紅はげる妙義山	26	冬	天文	閑				
923	凧や十六七の尼の顔	26	冬	天文	閑				
924	凧や白菊瘦せて庭の隅	26	冬	天文	閑				
925	凧や神馬の齒くきあらは也	26	冬	天文	閑				
926	凧や蝉も榮螺もから許り	26	冬	天文	閑				
927	凧や空ものすき遠光り	26	冬	天文	閑				
928	凧や空よりかける十六騎	26	冬	天文	閑				
929	凧や血汐したゝる牛の股	26	冬	天文	閑				
930	凧や血にさびついた鼠罾	26	冬	天文	閑				
931	凧や新嶋守の立ち姿	26	冬	天文	閑				
932	凧や一かたまりの人の聲	26	冬	天文	閑				
933	凧や一むれさわぐわつはども	26	冬	天文	閑				
934	凧やほこり吹きゝる江戸の町	26	冬	天文	閑				
935	凧や星吹きこぼす海の上	26	冬	天文	閑				

936	凧や眞砂をふらす星月夜	26	冬	天文	凧				
937	凧や窓を開けば星の数	26	冬	天文	凧				
938	物は何凧の笠雪の簑	26	冬	天文	凧				
939	物は何凧の簑雪の笠	26	冬	天文	凧				
940	凧がいやとは餘り無分別	27	冬	天文	凧				
941	凧に大提灯の静かさよ	27	冬	天文	凧				
942	凧に叫吶の獅子の構へかな	27	冬	天文	凧	吶(うん<口+云>)			
943	凧に大佛暮るゝ上野かな	27	冬	天文	凧				
944	凧に吹かれて寒し鰻の面	27	冬	天文	凧				
945	凧に吹かれて来たか二人連	27	冬	天文	凧				
946	凧に吹かれに来たか二人連	27	冬	天文	凧				
947	凧によく聞けば千々の響き哉	27	冬	天文	凧				
948	凧の明家を猫のより處	27	冬	天文	凧				
949	凧の上野に近きいほりかな	27	冬	天文	凧				
950	凧の木の間木の間や二千場	27	冬	天文	凧				
951	凧の中より月の升起けり	27	冬	天文	凧				
952	凧ののぞくがらすや室の花	27	冬	天文	凧				
953	凧も負けて大鼓の木魂かな	27	冬	天文	凧				
954	凧も負て太鼓の會式かな	27	冬	天文	凧				
955	凧や海は虚空にひろがりて	27	冬	天文	凧				
956	凧や鐘撞く法師五六人	27	冬	天文	凧				
957	凧や木もなき山の堂一つ	27	冬	天文	凧				
958	凧や木立の奥の不二の山	27	冬	天文	凧				
959	凧や道哲の鉦打ちしきる	27	冬	天文	凧				
960	凧や波のほさきの走り舟	27	冬	天文	凧				
961	凧や晝は淋しき廓道	27	冬	天文	凧				
962	凧や律を楯に家鴨二羽	27	冬	天文	凧				
963	凧や山突兀として松一木	27	冬	天文	凧				
964	凧や落書兀げる仁王門	27	冬	天文	凧				
965	すわ夜汽車凧山へ吹き返し	27	冬	天文	凧				
966	人去てあと凧の上野かな	27	冬	天文	凧				
967	から尻に凧あるゝ廣野哉	28	冬	天文	凧				
968	から尻に凧つよき廣野哉	28	冬	天文	凧				
969	凧に尖らぬ頭ぞなかりける	28	冬	天文	凧				
970	凧に向ふて登る峠かな	28	冬	天文	凧				
971	凧の馬吹き飛ばす廣野哉	28	冬	天文	凧				

972	凧の外は落葉の月夜哉	28	冬	天文	凧				
973	凧や犬吠え立つる外が濱	28	冬	天文	凧				
974	凧や海へ吹かるゝ人の聲	28	冬	天文	凧				
975	凧やがうがうとして瀧落つる	28	冬	天文	凧	がうがう<さんずい+号+虎>			
976	木枯やかちりつたる馬の鞍	28	冬	天文	凧				
977	凧や鐘引きすてし道の端	28	冬	天文	凧				
978	凧や君がまぼろし吹きちらす	28	冬	天文	凧				
979	凧や雲吹き落す海のはて	28	冬	天文	凧				
980	凧や鹿の餌賣れぬ豆腐殻	28	冬	天文	凧				
981	凧や十年賣れぬ古佛	28	冬	天文	凧				
982	凧や月の光りを吹き散らす	28	冬	天文	凧				
983	凧や胴の破れし太鼓橋	28	冬	天文	凧				
984	凧や鼠の腐る狐罨	28	冬	天文	凧				
985	凧や髻いかめしき騎馬の人	28	冬	天文	凧				
986	凧や船沈みたるあたりより	28	冬	天文	凧				
987	凧やものもうつらぬ窓の月	28	冬	天文	凧				
988	凧やよろよろ薄よろよると	28	冬	天文	凧				
989	凧を空へ吹かせて谷の家	28	冬	天文	凧				
990	ひうひうと凧鳴るや庵の空	28	冬	天文	凧				
991	古御所や凧更けて笑ひ聲	28	冬	天文	凧				
992	うすものに吹く凧の風もなし	29	冬	天文	凧				
993	君が行くは凧吹かぬ處よな	29	冬	天文	凧				
994	君待つ夜また凧の雨になる	29	冬	天文	凧				
995	凧に笠押しむけていとま乞	29	冬	天文	凧				
996	凧の逆にまはるや水車	29	冬	天文	凧				
997	凧の草吹きわたる廣野哉	29	冬	天文	凧				
998	凧の草をふきゆく廣野哉	29	冬	天文	凧				
999	凧の浄林の釜恙なきや	29	冬	天文	凧				
1000	凧の中に灯ともす都哉	29	冬	天文	凧				
1001	凧の奈良に人なし鹿のむれ	29	冬	天文	凧				
1002	凧や觀ずれば皆法の聲	29	冬	天文	凧				
1003	凧やさかさに刎ねる水車	29	冬	天文	凧				
1004	木枯やさめんとしては牛の夢	29	冬	天文	凧				
1005	凧や襦宜歸り行く森の中	29	冬	天文	凧				
1006	凧や野の宮荒れて犬くゞり	29	冬	天文	凧				
1007	凧や燃えてころがる鉋屑	29	冬	天文	凧				

1008	凧や我に向いて波立ちあがる	29	冬	天文	凧				
1009	凧夜を荒れて虚空火を見る浅間山	29	冬	天文	凧				
1010	四絃迫れば凧さつと燭を吹く	29	冬	天文	凧				
1011	椎の木に凧強し十二月	29	冬	天文	凧				
1012	琵琶迫れば凧さつと燭を吹く	29	冬	天文	凧				
1013	凧に誤つて火を失す後陣哉	30	冬	天文	凧				
1014	凧の北に國なし日本海	30	冬	天文	凧				
1015	凧の寺は釣鐘一つなり	30	冬	天文	凧				
1016	凧や芭蕉の緑吹き盡す	31	冬	天文	凧				
1017	凧や松葉吹き散る能舞臺	31	冬	天文	凧				
1018	凧に三河島菜の葉張りかな	33	冬	天文	凧				
1019	凧の吹くや泡なき蟹の口	33	冬	天文	凧				
1020	凧や鰯乏しき鰯網	33	冬	天文	凧				
1021	凧や暖室の花紅に	33	冬	天文	凧				
1022	凧や燈爐にいもを焼く夜半	33	冬	天文	凧				
1023	凧や麓の方に鍛冶の音	33	冬	天文	凧				
1024	凧や病の舌に梨の味	33	冬	天文	凧				
1025	木枯の茶堂人無き埃かな	34	冬	天文	凧				
1026	木枯や石引き入るゝ庭普請	34	冬	天文	凧				
1027	木枯や落ちなんとする岩に堂	34	冬	天文	凧				
1028	木枯や皆からびたる力餅	34	冬	天文	凧				
1029	木枯や紫摧け紅敗れ	34	冬	天文	凧				
1030	いろいろの時雨は過ぎて冬の雨	26	冬	天文	冬の雨				
1031	米つきの裸あはれや冬の雨	26	冬	天文	冬の雨				
1032	聲氷る庭の小鳥や寒の雨	26	冬	天文	冬の雨				
1033	冬の雨米つきの裸あはれなり	26	冬	天文	冬の雨				
1034	古濠やだらりだらりと冬の雨	28	冬	天文	冬の雨				
1035	古濠やぢやらりぢやらりと冬の雨	28	冬	天文	冬の雨				
1036	廢朝や馬も通らず寒の雨	30	冬	天文	冬の雨				
1037	空合や隅田の時雨不二の雪	21	冬	天文	時雨				
1038	アメリカも共にしぐれん海の音	22	冬	天文	時雨				
1039	海と山しくるゝ音や前うしろ	22	冬	天文	時雨				
1040	五百年の夢をさまして小夜しくれ	22	冬	天文	時雨				
1041	嶋も居らず嶋立つ澤の初時雨	22	冬	天文	時雨				
1042	時雨るゝや海と空とのあはひより	22	冬	天文	時雨				
1043	しぐれきてはては松風海の音	22	冬	天文	時雨				

1044	しぐれせぬ處はあらずはりま灘	22	冬	天文	時雨				
1045	四國路へわたる時雨や播磨灘	22	冬	天文	時雨				
1046	染返す時雨時雨のみみぢ哉	23 ~ 25	冬	天文	時雨				
1047	有明を小窓ひとつに時雨けり	24	冬	天文	時雨				
1048	だんだんに燈のほそりけりさよ時雨	24	冬	天文	時雨				
1049	あたらしき火のとほりけり初時雨	25	冬	天文	時雨				
1050	いつからを時雨といはん太陽曆	25	冬	天文	時雨				
1051	いつしかに桑の葉黒し初しぐれ	25	冬	天文	時雨				
1052	色里や時雨さかぬも三年ごし	25	冬	天文	時雨				
1053	薄暗し不二の裏行初しぐれ	25	冬	天文	時雨				
1054	内川や外川かけて夕しぐれ	25	冬	天文	時雨				
1055	馬糞のからびぬはなしむら時雨	25	冬	天文	時雨				
1056	面白やふじにとりつく幾時雨	25	冬	天文	時雨				
1057	買ふてくる釣瓶の底やはつしぐれ	25	冬	天文	時雨				
1058	からかさを千鳥はしるや小夜時雨	25	冬	天文	時雨				
1059	時雨るゝや笥を傳ふ山の雲	25	冬	天文	時雨				
1060	しくるゝや弘法死して一千年	25	冬	天文	時雨				
1061	時雨るゝや灯火にはねる家根のもり	25	冬	天文	時雨				
1062	しぐるゝやともしにはねるやねのもり	25	冬	天文	時雨				
1063	時雨るゝや紅葉を持たぬ寺もなし	25	冬	天文	時雨				
1064	時雨るゝや横にならびし岨の松	25	冬	天文	時雨				
1065	時雨來る雲の上なりふしの雪	25	冬	天文	時雨				
1066	しぐれずに空行く風や神送	25	冬	天文	時雨				
1067	時雨より外の誠や厩の雨	25	冬	天文	時雨				
1068	四方より釣鐘なぶるしぐれ哉	25	冬	天文	時雨				
1069	浄林の釜にむかしを時雨けり	25	冬	天文	時雨				
1070	順禮の數珠もんで行く時雨哉	25	冬	天文	時雨				
1071	新宿に荷馬ならぶや夕時雨	25	冬	天文	時雨				
1072	新聞で見るや故郷の初しぐれ	25	冬	天文	時雨				
1073	旅人の京に入る日や初時雨	25	冬	天文	時雨				
1074	旅人の京に入る夜や初時雨	25	冬	天文	時雨				
1075	旅人の京へ入る日や初時雨	25	冬	天文	時雨				
1076	爪琴の下手を上手にしぐれけり	25	冬	天文	時雨				
1077	ほろ酔の端唄なまるや小夜時雨	25	冬	天文	時雨				
1078	三日月を時雨てゐるや沖の隅	25	冬	天文	時雨				
1079	三日頃の月をしくるゝや沖の隅	25	冬	天文	時雨				

1080	三日月をしぐるゝ雲や沖の隅	25	冬	天文	時雨				
1081	湯のたぎる家のぐるりを時雨けり	25	冬	天文	時雨				
1082	世の中の誠を不二に時雨けり	25	冬	天文	時雨				
1083	浪人を一夜にふるす時雨哉	25	冬	天文	時雨				
1084	生憎に鳥も見えず初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1085	灯かすかに沖は時雨の波の音	26	冬	天文	時雨				
1086	あかるみの松にのぼるや小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1087	穴熊の耳にしぐるゝ夕哉	26	冬	天文	時雨				
1088	逢阪の上に行きあふしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1089	あぶらやにふらずもがなのしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1090	有明の又しくれけりーくらみ	26	冬	天文	時雨				
1091	醫者が来て發句よむ也初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1092	磯しくれ花も紅葉もなかりけり	26	冬	天文	時雨				
1093	一村は初すりやんで夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1094	路次口に油こほしぬ初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1095	いろいろの戀をしくるゝ嵯峨野哉	26	冬	天文	時雨				
1096	鶯のお宿尋ねん初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1097	鶯のかくれ家見えて初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1098	牛車歸る大津のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1099	牛つなく酒屋の門のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1100	牛つんで渡る小船や夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1101	牛に乗て矢橋へこえん初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1102	牛の尾に壁のやぶれをしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1103	牛の尾もぬらす名所のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1104	牛一つ見えてしぐるゝ尾上哉	26	冬	天文	時雨				
1105	牛むれて歸る小村のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1106	薄墨にしくるゝ山の姿哉	26	冬	天文	時雨				
1107	うちまぎれ行くや松風小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1108	運慶か仁王の腕にしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1109	落付て眞直にふるしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1110	大江山鬼の角よりしくれける	26	冬	天文	時雨				
1111	面白や垣結ふ人に初時雨	26	冬	天文	時雨				
1112	蠣殻の屋根に泣く夜や初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1113	かけ橋や笠の端めぐる時雨雲	26	冬	天文	時雨				
1114	傘提げてこゝにも一人時雨待つ	26	冬	天文	時雨				
1115	傘提げて只しぐれ待つ思ひあり	26	冬	天文	時雨				

1116	笠塚に笠のいはれをしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1117	風吹て湖水をめぐる時雨哉	26	冬	天文	時雨				
1118	風渡る大竹藪の時雨哉	26	冬	天文	時雨				
1119	歸り花それも浮世のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1120	枯蓮のいかに枯れよとしぐるらん	26	冬	天文	時雨				
1121	含満や時雨の狸石地藏	26	冬	天文	時雨				
1122	きそひ打つ五山の鐘や夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1123	狐火は消えて野寺の朝しくれ	26	冬	天文	時雨				
1124	首立てゝ家鴨つれたつしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1125	恠談の蠟燭青し小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1126	廻廊に燈籠の星や小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1127	傾城のうそも上手にさよしくれ	26	冬	天文	時雨				
1128	御遷宮一月こえてしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1129	酒の荷のまつほと匂ふしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1130	小夜しくれ小鴨のさわぐ入江哉	26	冬	天文	時雨				
1131	小夜しくれとのみ申の聲遠し	26	冬	天文	時雨				
1132	猿一つ鳶にすがりてしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1133	しぐるゝと人はいるなり寐惚顔	26	冬	天文	時雨				
1134	しくるゝや藜の杖のそまる迄	26	冬	天文	時雨				
1135	しくるゝや東へ下る白拍子	26	冬	天文	時雨				
1136	しくるゝやいつこの御所の牛車	26	冬	天文	時雨				
1137	しくるゝやいつまで赤き烏瓜	26	冬	天文	時雨				
1138	しくるゝや石にこぼるゝ青松葉	26	冬	天文	時雨				
1139	しくるゝや妹がりはいる蛇の目傘	26	冬	天文	時雨				
1140	しくるゝや芋堀るあとの溜り水	26	冬	天文	時雨				
1141	しくるゝや刀引きぬく居合拔	26	冬	天文	時雨				
1142	しくるゝや祇園清水智恩院	26	冬	天文	時雨				
1143	しくるゝや熊の手のひら煮る音	26	冬	天文	時雨				
1144	しくるゝや胡弓もしらぬ坊か妻	26	冬	天文	時雨				
1145	しくるゝや雀のさわぐ八重葎	26	冬	天文	時雨				
1146	しくるゝや旅人細き大井川	26	冬	天文	時雨				
1147	しくるゝや同隣も草雙紙	26	冬	天文	時雨				
1148	しぐるゝや隣の家に運座あり	26	冬	天文	時雨				
1149	時雨るゝや灘の嵐の波かしら	26	冬	天文	時雨				
1150	しくるゝや奈良は千年二千年	26	冬	天文	時雨				
1151	しくるゝや檐より落つる枯あやめ	26	冬	天文	時雨				

1152	しくるゝや古き都の白牡丹	26	冬	天文	時雨				
1153	しぐるゝや平家にならぶ太平記	26	冬	天文	時雨				
1154	しくるゝや松原通る馬の鈴	26	冬	天文	時雨				
1155	しくるゝや昔の夢を花の下	26	冬	天文	時雨				
1156	しくるゝや空しくこゝに二百年	26	冬	天文	時雨				
1157	しくるゝや物書く筆の薄にじみ	26	冬	天文	時雨				
1158	しくるゝや山こす小鳥幾百羽	26	冬	天文	時雨				
1159	しくるゝや夕日の動く西の空	26	冬	天文	時雨				
1160	しくるゝや芳野の山の歸り花	26	冬	天文	時雨				
1161	しくれけり梢に夕日持ちながら	26	冬	天文	時雨				
1162	しくれけり菟蓐玉の一むしろ	26	冬	天文	時雨				
1163	しくれして鎧の袖の曇り哉	26	冬	天文	時雨				
1164	しくれずに歸る山路や馬の沓	26	冬	天文	時雨				
1165	しくれたる人の咄や四疊半	26	冬	天文	時雨				
1166	しくれては熊野を出る烏哉	26	冬	天文	時雨				
1167	しくれとも雪ともしらす走り雲	26	冬	天文	時雨				
1168	しぐれなとあれよ餘りに静かなり	26	冬	天文	時雨				
1169	七湯の軒に雲おくしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1170	十萬戸煙ののぼるしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1171	白砂の山もあるのにしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1172	水仙は垣根に青し初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1173	杉なりの俵の山をしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1174	杉の葉もしくれて立てり繩簾	26	冬	天文	時雨				
1175	背戸あけて家鴨よびこむしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1176	千軍萬馬ひつそりとして小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1177	膳まはり物淋しさよ夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1178	宗鑑が粥煮るけさのしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1179	宗祇去り芭蕉歿して幾時雨	26	冬	天文	時雨				
1180	宗匠に善きはあらし初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1181	宗匠の四國へ渡るしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1182	空に飛ぶ山や時雨の來りけり	26	冬	天文	時雨				
1183	大夫にもならで此松しくれけり	26	冬	天文	時雨				
1184	蛸の手の切口見えて夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1185	縦横に絲瓜一つをしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1186	塔高し時雨の空の天王寺	26	冬	天文	時雨				
1187	唾壺をたゝく隣や小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				

1188	定に入僧のあるらん小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1189	月花の愚をしくれけり二百年	26	冬	天文	時雨				
1190	月一つ忘れて湖のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1191	月見えてうそや誠のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1192	つくは山かのもこのものしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1193	寺あれば紅葉もありてむら時雨	26	冬	天文	時雨				
1194	出女の聲にふり出す時雨かな	26	冬	天文	時雨				
1195	遠巻の篝火消て小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1196	遠山を二つに分けて日と時雨	26	冬	天文	時雨				
1197	名所は古人の歌にしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1198	泪しぐるゝや色にいでにけり我戀は	26	冬	天文	時雨				
1199	奈良千年伽藍伽藍の時雨哉	26	冬	天文	時雨				
1200	主は駕籠家隸の袖にしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1201	ぬれながら人もいはず横時雨	26	冬	天文	時雨				
1202	化物も淋しかるらん小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1203	箱庭の寸馬豆人をしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1204	初しくれ都の友へ状を書く	26	冬	天文	時雨				
1205	初しくれ夜船にのりし女哉	26	冬	天文	時雨				
1206	花火して時雨の雲のうつり哉	26	冬	天文	時雨				
1207	花も昔月の昔としくれけり	26	冬	天文	時雨				
1208	比枝の雲夜はしぐるゝともし哉	26	冬	天文	時雨				
1209	比枝一つ京と近江のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1210	一しくれ京をはつれて通りけり	26	冬	天文	時雨				
1211	人しのぶみこしの松のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1212	琵琶の音にさそひ出しけり小夜しくれ	26	冬	天文	時雨				
1213	晝中のあからあからとしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1214	伏勢の藪に顔出すしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1215	富士を出て箱根をつたふ時雨哉	26	冬	天文	時雨				
1216	舟つなく百本杭のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1217	舟一つ遠州灘のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1218	ふりかへて我身の上のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1219	古池やしくるゝ音の夜もすから	26	冬	天文	時雨				
1220	古寺や魑の顔にしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1221	露店の大傘や夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1222	櫓くべて法師もてなすしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1223	頬あてや横にしぐるゝ舟の中	26	冬	天文	時雨				

1224	蒔砂に簾の波や初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1225	松風に篔の音もしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1226	松か岡香の烟にしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1227	待つにあらず待たぬでもなし初時雨	26	冬	天文	時雨				
1228	松葉しく茶の湯の庭の初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1229	窓推すや時雨ながらの夕月夜	26	冬	天文	時雨				
1230	迷ひ出る時雨の雲や關か原	26	冬	天文	時雨				
1231	みぞれともならで越路のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1232	湖に月をおとすやむらしくれ	26	冬	天文	時雨				
1233	湖や底にしくるゝ星の數	26	冬	天文	時雨				
1234	身にしれと紙衣の穴をしくれけり	26	冬	天文	時雨				
1235	簀笠に狂ひいでけり初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1236	簀笠に狂ひ出でたり初時雨	26	冬	天文	時雨				
1237	身ぶるひやけふもをくらき時雨雲	26	冬	天文	時雨				
1238	木兔は淋しき晝のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1239	武藏野や夕日の筑波しくれ不二	26	冬	天文	時雨				
1240	名木の紅梅老て初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1241	目覺むれは猶降つてゐるしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1242	もの凄き鳥なく山のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1243	谷中には新墓多し初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1244	山城のしくれて明る彦根哉	26	冬	天文	時雨				
1245	山鳥の尾を垂れてゐるしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1246	夕月のおもて過行しくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1247	義仲を夢見る木曾のしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1248	路次口に油こぼすや初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1249	井戸堀の裸しくるゝ焚火哉	26	冬	天文	時雨				
1250	猪の岩鼻はしるしくれ哉	26	冬	天文	時雨				
1251	繪馬堂の彩色はげて初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1252	繪馬堂や彩色兀て初しくれ	26	冬	天文	時雨				
1253	桶の蓋とればしくるゝ豆腐哉	26	冬	天文	時雨				
1254	寺もなき鐘つき堂の時雨かな	26	冬	天文	時雨				
1255	牛のせて渡る小舟や夕しくれ	26	冬	天文	時雨				
1256	しぐれうとうとして暮れにけり	26	冬	天文	時雨				
1257	曙をしくれて居るや安房の山	27	冬	天文	時雨				
1258	幾時雨石山の石に苔もなし	27	冬	天文	時雨				
1259	掛稻にしくるゝ山の小村かな	27	冬	天文	時雨				

1260	金杉や相合傘の初時雨	27	冬	天文	時雨				
1261	此頃はどこの時雨に泣いて居る	27	冬	天文	時雨				
1262	菟蓐にしぐれ初めけり策の中	27	冬	天文	時雨				
1263	しくるゝや鶏頭黒く菊白し	27	冬	天文	時雨				
1264	しくるゝや何を湯出鱈色に出る	27	冬	天文	時雨				
1265	しくるゝや岬をめぐる船の笛	27	冬	天文	時雨				
1266	しぐれけり豆腐買ひけり晴れにけり	27	冬	天文	時雨				
1267	しぐれしか裏の竹山旭さす	27	冬	天文	時雨				
1268	時雨にもあはず三度の酉の市	27	冬	天文	時雨				
1269	十月や十日も過ぎて初時雨	27	冬	天文	時雨				
1270	竹藪を出れば嵯峨なり夕時雨	27	冬	天文	時雨				
1271	手拭の妙法講をしぐれけり	27	冬	天文	時雨				
1272	なき人のまことを今日にしぐれけり	27	冬	天文	時雨				
1273	帆柱に月持ちながら時雨かな	27	冬	天文	時雨				
1274	山崎や時雨の月の朝朗	27	冬	天文	時雨				
1275	山里や嫁入しぐるゝ馬の上	27	冬	天文	時雨				
1276	山の端や月にしぐるゝ須磨の浦	27	冬	天文	時雨				
1277	夕日照る時雨の森の銀杏かな	27	冬	天文	時雨				
1278	いつの間に星なくなつて時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1279	傾ける傘の裏行く時雨かな	28	冬	天文	時雨				
1280	汽車此夜不二足柄としぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1281	京さして山の時雨の迷ひ雲	28	冬	天文	時雨				
1282	傾城の外はしくるゝとも知らず	28	冬	天文	時雨				
1283	傾城は知らじ三夜さのむら時雨	28	冬	天文	時雨				
1284	傾城やしぐれふるとも知らで寐る	28	冬	天文	時雨				
1285	劍に舞へばさつとしぐるゝ砦かな	28	冬	天文	時雨				
1286	五六艘五平太船のしぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1287	しぐるとも御笠参らすよしもなし	28	冬	天文	時雨				
1288	しくるるや上野谷中の杉木立	28	冬	天文	時雨				
1289	しくるゝや紅薄き薔薇の花	28	冬	天文	時雨				
1290	しくるゝや腰湯ぬるみて雁の声	28	冬	天文	時雨				
1291	しぐるゝや寫本の上に雨のしみ	28	冬	天文	時雨				
1292	しくるゝや隣の小松庵の菊	28	冬	天文	時雨				
1293	しぐるゝや右は龜山星か岡	28	冬	天文	時雨				
1294	しぐるれど御笠参らすよしもなし	28	冬	天文	時雨				
1295	しぐれけり月代已に杉の上	28	冬	天文	時雨				

1296	しくれつゝも菊健在也我宿は	28	冬	天文	時雨				
1297	塩鯛の塩ほろほろと時雨かな	28	冬	天文	時雨				
1298	島守のあらめの衣しぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1299	上人を戴する舟ありむら時雨	28	冬	天文	時雨				
1300	白菊の少しあからむ時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1301	新發智の青き頭を初時雨	28	冬	天文	時雨				
1302	大佛の鐘が鳴るなり小夜時雨	28	冬	天文	時雨				
1303	大名の柩ぬれたる時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1304	旅僧の牛に乗つたる時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1305	旅人の牛にのつたる時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1306	旅人や橋にしぐるゝ馬の上	28	冬	天文	時雨				
1307	提灯の見えつかくれつしぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1308	月出るやしぐるゝ雲の裏手より	28	冬	天文	時雨				
1309	月やうそ嵐やまこと初時雨	28	冬	天文	時雨				
1310	土佐の海南もなしにしぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1311	土佐の國南もなしにしぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1312	鶏の子の草原あさる時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1313	橋は夕日竹屋の渡ししぐれけり	28	冬	天文	時雨				
1314	初しぐれ君が病ひのまじなひに	28	冬	天文	時雨				
1315	花賣の片荷しぐれて歸りけり	28	冬	天文	時雨				
1316	盤渉にしぐるゝ須磨の板屋哉	28	冬	天文	時雨				
1317	盤渉にしぐるゝ須磨の夕哉	28	冬	天文	時雨				
1318	ひつじ田に三畝の緑をしぐれけり	28	冬	天文	時雨	ひつじ<禾+魯>			
1319	火ともしの火ともしかねつむら時雨	28	冬	天文	時雨				
1320	三井寺に颯と湖水の時雨哉	28	冬	天文	時雨				
1321	大和路は時雨ふるらし氣車の覆	28	冬	天文	時雨				
1322	山本の里と申して初時雨	28	冬	天文	時雨				
1323	行きつかぬうちにしぐるゝ矢走哉	28	冬	天文	時雨				
1324	吉原や晝のやうなる小夜時雨	28	冬	天文	時雨				
1325	老いぼれしくひつき犬をしぐれけり	29	冬	天文	時雨				
1326	大牛の路に塞がる時雨哉	29	冬	天文	時雨				
1327	櫻の木に時雨鳴くなり谷の坊	29	冬	天文	時雨				
1328	櫻の木に時雨鳴るなり谷の坊	29	冬	天文	時雨				
1329	烏鳶をかへり見て日くしぐれんか	29	冬	天文	時雨				
1330	枯枝に鳶と烏の時雨哉	29	冬	天文	時雨				
1331	きぬぎぬを引きとめられてしぐれけり	29	冬	天文	時雨				

1332	鶏頭を伐るにものうし初時雨	29	冬	天文	時雨				
1333	戀ともなしくれそめたる袂哉	29	冬	天文	時雨				
1334	西行も虎もしぐれておはしけり	29	冬	天文	時雨				
1335	さうさうとしぐるゝ音や四つの絲	29	冬	天文	時雨	さうさう<口+曹>			
1336	小夜時雨上野を虚子の來つゝあらん	29	冬	天文	時雨				
1337	しぐるゝや蒟蒻冷えて臍の上	29	冬	天文	時雨				
1338	しぐるゝや殘燈かすかに詩仙臺	29	冬	天文	時雨				
1339	しくるゝや妻、子を負ふて車推す	29	冬	天文	時雨				
1340	しぐるゝや日暮るや塔は見えながら	29	冬	天文	時雨				
1341	しぐるゝやむれて押あふ桶の鮎	29	冬	天文	時雨				
1342	しくれしてねぢけぬ菊の枝もなし	29	冬	天文	時雨				
1343	杉の空しぐるゝ駕の見えて行	29	冬	天文	時雨				
1344	砂川の時雨吸こんで水もなし	29	冬	天文	時雨				
1345	砂原の時雨吸いこんで水もなし	29	冬	天文	時雨				
1346	禪寺のつくづく古き時雨哉	29	冬	天文	時雨				
1347	土山や小浪が笠にしぐれふる	29	冬	天文	時雨				
1348	吊柿の二筋三筋しぐれけり	29	冬	天文	時雨				
1349	ともし火の一つ残りて小夜時雨	29	冬	天文	時雨				
1350	野の中やひとりしぐるゝ石地藏	29	冬	天文	時雨				
1351	掃溜に青菜の屑をしぐれけり	29	冬	天文	時雨				
1352	初時雨木もりのかぶす腐りけり	29	冬	天文	時雨				
1353	原中や夕日さしつゝむら時雨	29	冬	天文	時雨				
1354	夕鳥一羽おくれてしぐれけり	29	冬	天文	時雨				
1355	世の中はしぐるゝに君も瘦せつらん	29	冬	天文	時雨				
1356	時雨に遠く小春に近く秋晴れぬ	30	冬	天文	時雨				
1357	辨當提げて役所を出れば夕時雨	30	冬	天文	時雨				
1358	松にしぐれ杉に鶯鳴く夕日哉	30	冬	天文	時雨				
1359	門とざす狸横町の時雨哉	30	冬	天文	時雨				
1360	追立つるかたはの馬や夕時雨	31	冬	天文	時雨				
1361	返り咲く花何々ぞ初時雨	31	冬	天文	時雨				
1362	鶏頭の黒きにそゝぐ時雨かな	31	冬	天文	時雨				
1363	干柿の二筋三筋しぐれけり	31	冬	天文	時雨				
1364	傘曲る喰物横町小夜時雨	32	冬	天文	時雨				
1365	旅衣不破の時雨にぬらしけり	32	冬	天文	時雨				
1366	歌詠んで又泣きたまふ時雨哉	33	冬	天文	時雨				
1367	鶏頭の狼藉として時雨哉	33	冬	天文	時雨				

1368	鶏頭やこたへこたへて幾時雨	33	冬	天文	時雨				
1369	山下りて雪は霰と變りけり	22	冬	天文	霰				
1370	半分はみぞれて行くや唐子山	25	冬	天文	霰				
1371	みぞるゝやふけて冬田の薄明り	26	冬	天文	霰				
1372	みぞるゝやふけて水田の薄明り	26	冬	天文	霰				
1373	大船の階子をあげる霰かな	27	冬	天文	霰				
1374	獺の橋杭つたふミぞれ哉	27	冬	天文	霰				
1375	人もなし黒木の鳥居霰ふる	27	冬	天文	霰				
1376	うつくしき霰ふる也電氣燈	28	冬	天文	霰				
1377	涸れ沼の泥にみぞるゝ夕かな	28	冬	天文	霰				
1378	みぞるゝや水道橋の薪舟	28	冬	天文	霰				
1379	霰にもなりぬべらなり宵の雨	28	冬	天文	霰				
1380	棕櫚の葉のばさりばさりとみぞれけり	29	冬	天文	霰				
1381	棕櫚の葉にばさりばさりとみぞれけり	31	冬	天文	霰				
1382	さげて行く鍋へ打ち込む霰哉	23 ~ 25	冬	天文	霰				
1383	板屋根に眠りをさます霰かな	23	冬	天文	霰				
1384	順禮の笠を霰のはしりかな	24	冬	天文	霰				
1385	青竹をつたふ霰のすべり哉	25	冬	天文	霰				
1386	うらなひの鬚にうちこむ霰哉	25	冬	天文	霰				
1387	門附の編笠しをるあられ哉	25	冬	天文	霰				
1388	かるさうに提げゆく鍋の霰哉	25	冬	天文	霰				
1389	呉竹の奥に音あるあられ哉	25	冬	天文	霰				
1390	瀧壺の渦にはねこむ霰哉	25	冬	天文	霰				
1391	夜廻りの木に打ちこみし霰哉	25	冬	天文	霰				
1392	夜廻りの鐵棒はしる霰哉	25	冬	天文	霰				
1393	有明の霰ふるなり本願寺	26	冬	天文	霰				
1394	風吹て霰空虚にほどばしる	26	冬	天文	霰				
1395	かたかたは霰ふるなり鳩の月	26	冬	天文	霰				
1396	呉竹の名に音たてゝ霰哉	26	冬	天文	霰				
1397	柴漬になぐりこんたる霰哉	26	冬	天文	霰				
1398	大佛のからからと鳴る霰哉	26	冬	天文	霰				
1399	竹垣の外へころげる霰かな	26	冬	天文	霰				
1400	陣笠のそりや狂はん玉霰	26	冬	天文	霰				
1401	燈心のたばにこぼさぬ霰かな	26	冬	天文	霰				
1402	何段に杉の木陰のあられ哉	26	冬	天文	霰				
1403	一しきり霰のふりてしくれ哉	26	冬	天文	霰				

1404	藻汐草かきあつめたる霰哉	26	冬	天文	霰				
1405	りきむ程猶はね返す霰かな	26	冬	天文	霰				
1406	りきむ程猶はね返る霰哉	26	冬	天文	霰				
1407	板塀によりもつかれぬ霰かな	27	冬	天文	霰				
1408	賣れ残る炭をおるせば霰かな	27	冬	天文	霰				
1409	大粒の霰降るなり石畳	27	冬	天文	霰				
1410	甲板に霰の音の暗さかな	27	冬	天文	霰				
1411	呉竹の横町狭き霰かな	27	冬	天文	霰				
1412	竹買ふて裏河岸戻る霰かな	27	冬	天文	霰				
1413	八陣の石崩れたる霰哉	27	冬	天文	霰				
1414	八陣の石は崩れてあられ哉	27	冬	天文	霰				
1415	降る程の霰隠れて小石原	27	冬	天文	霰				
1416	星暗く霰うつなり小野木笠	27	冬	天文	霰				
1417	曉の霰のたまるとし穴	28	冬	天文	霰				
1418	逢阪や霰たばしる牛の角	28	冬	天文	霰				
1419	石橋の上にたまらぬ霰哉	28	冬	天文	霰				
1420	岩關の岩にけし飛ぶ霰哉	28	冬	天文	霰				
1421	大粒な霰ふるなり薄氷	28	冬	天文	霰				
1422	すさまじや霰ふりこむ鳩の海	28	冬	天文	霰				
1423	捨橋の中にたばしる霰哉	28	冬	天文	霰				
1424	捨舟の中にたばしる霰かな	28	冬	天文	霰				
1425	蕎麥の雪棉の霰はまばらなり	28	冬	天文	霰				
1426	大佛のまじろきもせぬ霰哉	28	冬	天文	霰				
1427	旅僧の笠破れたる霰哉	28	冬	天文	霰				
1428	薙刀を車輪にまはず霰哉	28	冬	天文	霰				
1429	炮烙に豆のはぢきや玉あられ	28	冬	天文	霰	烙(ろく<火+緑のつくり>)			
1430	古塀の終に倒るゝ霰かな	28	冬	天文	霰				
1431	ものすごき音や霰の雲ばなれ	28	冬	天文	霰				
1432	猪の人をかけたる霰かな	28	冬	天文	霰				
1433	霰笠を打つてすくはる小順禮	29	冬	天文	霰				
1434	音のして霰も見えず藪の中	29	冬	天文	霰				
1435	音のして藁火に消ゆる霰哉	29	冬	天文	霰				
1436	四絃一齋霰たばしる疊かな	29	冬	天文	霰				
1437	竹賣の通りかゝりし霰哉	29	冬	天文	霰				
1438	竹藪に伏勢起る霰かな	29	冬	天文	霰				
1439	時々霰となつて風強し	29	冬	天文	霰				

1440	鍋焼きの行燈を打つ霰かな	29	冬	天文	霰				
1441	はらはらと音して月の霰哉	29	冬	天文	霰				
1442	帆柱や大きな月にふる霰	29	冬	天文	霰				
1443	湖の氷にはぢく霰哉	29	冬	天文	霰				
1444	槍持の横つらを打つ霰哉	29	冬	天文	霰				
1445	藁灰にまぶれてしまふ霰かな	29	冬	天文	霰				
1446	霰やんで笠ぬげば月空に在り	30	冬	天文	霰				
1447	から城に鶺鴒さわぐ霰かな	30	冬	天文	霰				
1448	口こはき馬に乗たる霰哉	31	冬	天文	霰				
1449	城門の釘大いなる霰哉	31	冬	天文	霰				
1450	鶴の巢を傾けてふる霰哉	31	冬	天文	霰				
1451	筆に聲あり霰の竹を打つ如し	31	冬	天文	霰				
1452	木兔の鳴きやむ杉の霰哉	31	冬	天文	霰				
1453	鷺の子の兔をつかむ霰かな	31	冬	天文	霰				
1454	犬吠ゆる白虎山下の霰かな	33	冬	天文	霰				
1455	魚棚に鮫並べたる霰かな	34	冬	天文	霰				
1456	霜よけの俵破れし霰かな	34	冬	天文	霰				
1457	初雪やかくれおほせぬ馬の糞	18	冬	天文	初雪				
1458	初雪や椽へもて出る置こたつ	22	冬	天文	初雪				
1459	初雪や窓あけてしめあけてしめ	22	冬	天文	初雪				
1460	誰かある初雪の深さ見て参れ	25	冬	天文	初雪				
1461	初雪の重さ加減やこもの上	25	冬	天文	初雪				
1462	初雪の瓦屋よりも藁屋哉	25	冬	天文	初雪				
1463	初雪や軽くふりまく茶の木原	25	冬	天文	初雪				
1464	初雪や奇麗に笹の五六枚	25	冬	天文	初雪				
1465	初雪や小鳥のつゝく石燈籠	25	冬	天文	初雪				
1466	初雪や我子に簀と笠させて	25	冬	天文	初雪				
1467	初雪をふるへばみのゝ霰かな	25	冬	天文	初雪				
1468	初雪によしや女の雪丸げ	26	冬	天文	初雪				
1469	初雪のふるとは見えてつみもせず	26	冬	天文	初雪				
1470	初雪や靴門内に入るべからず	26	冬	天文	初雪				
1471	初雪や靴門内へ入るべからず	26	冬	天文	初雪				
1472	初雪や畑より歸る牛の角	26	冬	天文	初雪				
1473	初雪や半分氷る諏訪の海	26	冬	天文	初雪				
1474	初雪や百本杭の杭の杭のさき	26	冬	天文	初雪				
1475	初雪やふじの山よりたゞの山	26	冬	天文	初雪				

1476	初雪を獨り物にせん草の庵	26	冬	天文	初雪				
1477	灰すてゝ日に初雪の待たれけり	26	冬	天文	初雪				
1478	入船の初雪載せて來るかな	27	冬	天文	初雪				
1479	入舟や何處の初雪載せて來る	27	冬	天文	初雪				
1480	海の上に初雪白し大鳥居	27	冬	天文	初雪				
1481	海の中に初雪積みぬ大鳥居	27	冬	天文	初雪				
1482	紙漉や初雪ちらりちらり降る	27	冬	天文	初雪				
1483	錦帶橋長し初雪降り足らず	27	冬	天文	初雪				
1484	初雪に祇園清水あらはれぬ	27	冬	天文	初雪				
1485	初雪の藍にも染まであはれなり	27	冬	天文	初雪				
1486	初雪の奇麗になりぬ大江山	27	冬	天文	初雪				
1487	初雪の下に火を焚く小舟かな	27	冬	天文	初雪				
1488	初雪の中に光るや金の鯨	27	冬	天文	初雪				
1489	初雪の流れて青し朝日川	27	冬	天文	初雪				
1490	初雪の中を淀川流れけり	27	冬	天文	初雪				
1491	初雪や秋葉の山も千代川も	27	冬	天文	初雪				
1492	初雪やあちらこちらの寺の屋根	27	冬	天文	初雪				
1493	初雪や異人ばかりの靴の跡	27	冬	天文	初雪				
1494	初雪や伊豫のお鼻は十八里	27	冬	天文	初雪				
1495	初雪や海を隔てゝ何處の山	27	冬	天文	初雪				
1496	初雪や鴉の羽に消えて行く	27	冬	天文	初雪				
1497	初雪や唐人の歌女郎の歌	27	冬	天文	初雪				
1498	初雪や雀よるこぶ手水鉢	27	冬	天文	初雪				
1499	初雪や百萬石の城の跡	27	冬	天文	初雪				
1500	初雪や丸薬程にまるめける	27	冬	天文	初雪				
1501	見渡せば初雪つもる四里四方	27	冬	天文	初雪				
1502	見渡せば初雪ふりぬ四里四方	27	冬	天文	初雪				
1503	歸るさや初雪やんで十日月	28	冬	天文	初雪				
1504	初雪の大雪になるそ口をしき	28	冬	天文	初雪				
1505	初雪のはらりと降りし小不二哉	28	冬	天文	初雪				
1506	初雪や橋の擬玉珠に鳴く鴉	28	冬	天文	初雪				
1507	ちらちらと初雪ふりぬ波の上	29	冬	天文	初雪				
1508	初雪の年の内にはふらざりし	31	冬	天文	初雪				
1509	白猫の行衛わからず雪の朝	18	冬	天文	雪				
1510	なつかしや雪の傘にてかくす顔	18	冬	天文	雪				
1511	雪ふりや棟の白猫聲はかり	18	冬	天文	雪				

1512	積みあまる富士の雪降る都かな	22	冬	天文	雪				
1513	雪箱をこやしに生る小松かな	22	冬	天文	雪				
1514	雪の跡さては酒屋か豆腐屋か	22	冬	天文	雪				
1515	雪のある山も見えけり上り阪	22	冬	天文	雪				
1516	折々は窓に聲あり夜の雪	22	冬	天文	雪				
1517	大雪やあちらこちらに富士いくつ	23	冬	天文	雪				
1518	大雪や玉のふしどに猪こゞへ	23	冬	天文	雪				
1519	銀世界すんでそろそろ泥世界	23	冬	天文	雪				
1520	白雪の中に音ある流れかな	23	冬	天文	雪				
1521	白雪をつんで小舟の流れけり	23	冬	天文	雪				
1522	竹の雪ふるひ落すやむら雀	23	冬	天文	雪				
1523	ふんで行く東方朔の雪のあと	23	冬	天文	雪				
1524	豊年のみつぎの雪か銀世界	23	冬	天文	雪				
1525	雪の日や枯れ木も花の一盛り	23	冬	天文	雪				
1526	雪ふりや源左衛門は大もつけ	23	冬	天文	雪				
1527	鴛鴦ばかりあたゝかさうや雪の中	23	冬	天文	雪				
1528	枯あしの雪をこぼすやをしのはね	24	冬	天文	雪				
1529	笹の葉のみだれ具合や雪模様	24	冬	天文	雪				
1530	しばらくは笹も動かず雪模様	24	冬	天文	雪				
1531	明石から雪にくれ行淡路嶋	25	冬	天文	雪				
1532	赤煉瓦雪にならびし日比谷哉	25	冬	天文	雪				
1533	曙や都うもれて雪の底	25	冬	天文	雪				
1534	一里きて酒屋でふるふみのゝゆき	25	冬	天文	雪				
1535	狂ひ來たきほひ残るや木々の雪	25	冬	天文	雪				
1536	くれ竹の力押えて雪重し	25	冬	天文	雪				
1537	くれ竹の雪ひつかつき伏しにけり	25	冬	天文	雪				
1538	此日哉雪にくれ行淡路嶋	25	冬	天文	雪				
1539	小娘にさしかけやらん雪の傘	25	冬	天文	雪				
1540	さらさらと竹に音あり夜の雪	25	冬	天文	雪				
1541	静かさや雪にくれ行く淡路嶋	25	冬	天文	雪				
1542	白雪におされて月のぼやけ哉	25	冬	天文	雪				
1543	白きもの又常盤なりふじの雪	25	冬	天文	雪				
1544	炭賣の門くゞりけり雪の朝	25	冬	天文	雪				
1545	せかせかとたゝけば崩る門の雪	25	冬	天文	雪				
1546	關守の雪に火を焼く鈴鹿哉	25	冬	天文	雪				
1547	第一八雪なり第二巨燵なり	25	冬	天文	雪				

1548	高繩や雪ある山は教へよき	25	冬	天文	雪				
1549	竹折れる音の深さやよるの雪	25	冬	天文	雪				
1550	とんとんと叩け八崩る門の雪	25	冬	天文	雪				
1551	馬車かへるあと静かなり御所の雪	25	冬	天文	雪				
1552	母様に見よとて晴れしふじの雪	25	冬	天文	雪				
1553	一ツ葉の手柄見せけり雪の朝	25	冬	天文	雪				
1554	灯の青うすいて家あり藪の雪	25	冬	天文	雪				
1555	灯の青うすいて奥あり藪の雪	25	冬	天文	雪				
1556	吹きつけたきほひのこるや木々の雪	25	冬	天文	雪				
1557	鯨釣や沖はあやしき雪模様	25	冬	天文	雪				
1558	ふらばふれ雪に鈴鹿の關こえん	25	冬	天文	雪				
1559	むつかしき姿も見えず雪の松	25	冬	天文	雪				
1560	雪空や藁火に竹のはしる音	25	冬	天文	雪				
1561	雪に穴を失ふて熊の聲悲し	25	冬	天文	雪				
1562	雪の脚寶永山へかゝりけり	25	冬	天文	雪				
1563	雪の跡一筋長し若菜摘	25	冬	天文	雪				
1564	雪の中うたひに似たる翁哉	25	冬	天文	雪				
1565	雪の日や白帆きたなき淡路島	25	冬	天文	雪				
1566	雪の山大海原をかこみけり	25	冬	天文	雪				
1567	雪の夜や簀の人行く遠明り	25	冬	天文	雪				
1568	猪の雪につまづく木の根かな	25	冬	天文	雪				
1569	有明に雪つむ四條五條かな	26	冬	天文	雪				
1570	青みけり八千八水雪の中	26	冬	天文	雪				
1571	うき出るや一夜に雪の千松嶋	26	冬	天文	雪				
1572	馬の尻雪吹きつけてあはれなり	26	冬	天文	雪				
1573	裏窓の雪に顔出す女かな	26	冬	天文	雪				
1574	面白や家はやかかれて雪の旅	26	冬	天文	雪				
1575	面白やかさなりあふて雪の傘	26	冬	天文	雪				
1576	風少しそふて雪ふるさかり哉	26	冬	天文	雪				
1577	風吹て雪なき空のもの凄し	26	冬	天文	雪				
1578	黒々と雪に影あり松の月	26	冬	天文	雪				
1579	傾城曰く歸らしやんすか此雪に	26	冬	天文	雪				
1580	これにさへ雪はつもりぬさし柳	26	冬	天文	雪				
1581	嶋の雪辨天堂の破風赤し	26	冬	天文	雪				
1582	白雪の筆捨山に墨つけん	26	冬	天文	雪				
1583	杉の雪一町奥に仁王門	26	冬	天文	雪				

1584	炭賣や深山の雪もつけて来る	26	冬	天文	雪				
1585	わびしさや圍爐裏に煮える櫓の雪	26	冬	天文	雪				
1586	あら笑止や又雪のふりかゝり舟	26	冬	天文	雪				
1587	宇治川や雪の夜明の下り舟	26	冬	天文	雪				
1588	炭竈の煙にそまの雪の袖	26	冬	天文	雪				
1589	炭かまの雪にうもれぬ烟かな	26	冬	天文	雪				
1590	製紙場の雪にうもれぬ烟かな	26	冬	天文	雪				
1591	竹折れて雪は隣へこほしけり	26	冬	天文	雪				
1592	ちろちろと夕餉たく火や苔の雪	26	冬	天文	雪				
1593	苔舟に煙立ちけり雪の朝	26	冬	天文	雪				
1594	寐ころんで牛も雪待つけしき哉	26	冬	天文	雪				
1595	灯ちらちら木の間に雪の家一つ	26	冬	天文	雪				
1596	火やほしき漁村の雪に鳴く千鳥	26	冬	天文	雪				
1597	富士ひとりめづらしからず雪の中	26	冬	天文	雪				
1598	筆買ひにとて雪ふんで十二町	26	冬	天文	雪				
1599	松杉の上野は黒し雪の中	26	冬	天文	雪				
1600	松の雪ほたりほたりとをしい事	26	冬	天文	雪				
1601	松原の見こしに白し雪の山	26	冬	天文	雪				
1602	簀笠に雪待ち顔の案山子哉	26	冬	天文	雪				
1603	目をくばる雪のあしたや海の色	26	冬	天文	雪				
1604	屋根の雪鴉の嘴のみじかさよ	26	冬	天文	雪				
1605	雪の跡木履草鞋の別れかな	26	冬	天文	雪				
1606	雪の中へ車推し出す御公家町	26	冬	天文	雪				
1607	雪の野にところところの藁屋哉	26	冬	天文	雪				
1608	雪の日や海の上行く鷺一羽	26	冬	天文	雪				
1609	雪の門叩けば酒の匂ひけり	26	冬	天文	雪				
1610	雪晴れて筑波我を去ること三尺	26	冬	天文	雪				
1611	雪見るや金をまうける道すがら	26	冬	天文	雪				
1612	雪やあらぬ海の上行く鷺一羽	26	冬	天文	雪				
1613	我庵のものぞ上野の杉の雪	26	冬	天文	雪				
1614	惜い事降る程消えて海の雪	26	冬	天文	雪				
1615	富士ひとりめづらしからず雪の朝	26	冬	天文	雪				
1616	むつかしき姿もなしに雪の松	26	冬	天文	雪				
1617	有明の雪の清水灯残れり	27	冬	天文	雪				
1618	一村は雪にうもれて煙かな	27	冬	天文	雪				
1619	鐘撞いて雪になりけり三井の雲	27	冬	天文	雪				

1620	上州の山に雪見るあしたかな	27	冬	天文	雪				
1621	新庭やほつちり高き雪の笹	27	冬	天文	雪				
1622	千年の大寺一つ雪野かな	27	冬	天文	雪				
1623	筑波嶺の雪にかゝやく朝日かな	27	冬	天文	雪				
1624	寺一つむつくりとして雪の原	27	冬	天文	雪				
1625	日あたりや雀の崩す檐の雪	27	冬	天文	雪				
1626	引汐や薄雪つもる沖の石	27	冬	天文	雪				
1627	雪の跡人別れしと見ゆるかな	27	冬	天文	雪				
1628	雪の富士五重の塔のさはりけり	27	冬	天文	雪				
1629	雪の山壁の崩れに見ゆる哉	27	冬	天文	雪				
1630	雪や來ん衛士の篝火影さわぐ	27	冬	天文	雪				
1631	夜の雪杉の木の間の伽藍哉	27	冬	天文	雪				
1632	學寮へつゞくや雪の道一つ	28	冬	天文	雪				
1633	金殿のともし火細し夜の雪	28	冬	天文	雪				
1634	くるりくるり丸木の舟の雪もなし	28	冬	天文	雪				
1635	白雪の下に灯ともす木曾路かな	28	冬	天文	雪				
1636	杉垣の上に雪持つ小家哉	28	冬	天文	雪				
1637	杉垣の上に雪もつ小寺かな	28	冬	天文	雪				
1638	大佛の片肌雪に解けにけり	28	冬	天文	雪				
1639	大佛の片肌雪の解けにけり	28	冬	天文	雪				
1640	高繩と知られて雪の尾上哉	28	冬	天文	雪				
1641	竹藪の梢に遠し雪の山	28	冬	天文	雪				
1642	辻堂に火を焚く僧や夜の雪	28	冬	天文	雪				
1643	つらなりていくつも丸し雪の岡	28	冬	天文	雪				
1644	二三尺雪積む野邊の地藏哉	28	冬	天文	雪				
1645	庭の雪見るや厠の行き戻り	28	冬	天文	雪				
1646	兀山の雪にもならであはれなり	28	冬	天文	雪				
1647	春は芽ばれ薪にきらん雪の梅	28	冬	天文	雪				
1648	古關や雪にうもれて鹿の聲	28	冬	天文	雪				
1649	古庭の雪間をはしる鼯かな	28	冬	天文	雪				
1650	松の雪見るや厠の行き戻り	28	冬	天文	雪				
1651	松の雪われて落ちけり水の中	28	冬	天文	雪				
1652	武藏野やあちらこちらの雪の山	28	冬	天文	雪				
1653	山里や雪積む下の水の音	28	冬	天文	雪				
1654	雪雲の空にたゞよふ裾野哉	28	冬	天文	雪				
1655	雪空の一隅赤き入日かな	28	冬	天文	雪				

1656	雪積むや次第下りの屋根續き	28	冬	天文	雪				
1657	雪ながら氷る小道や星月夜	28	冬	天文	雪				
1658	雪ながら山紫の夕かな	28	冬	天文	雪				
1659	雪の旅おもしろからんさりながら	28	冬	天文	雪				
1660	夜の雪やしきりに叩く医者が門	28	冬	天文	雪				
1661	夜の雪やせわしく叩く醫者の門	28	冬	天文	雪				
1662	いくたびも雪の深さを尋ねけり	29	冬	天文	雪				
1663	市中や雪ちらちらと晝嵐	29	冬	天文	雪				
1664	うつむいて谷みる熊や雪の岩	29	冬	天文	雪				
1665	湖青し雪の山々鴉飛ぶ	29	冬	天文	雪				
1666	えいえいと攻め寄る雪の砦かな	29	冬	天文	雪				
1667	大雪の上にぽっかり朝日かな	29	冬	天文	雪				
1668	大雪や關所にかゝる五六人	29	冬	天文	雪				
1669	合羽つゞく雪の夕の石部驛	29	冬	天文	雪				
1670	刈り残す薄の株の雪高し	29	冬	天文	雪				
1671	勘當の子を思ひ出す夜の雪	29	冬	天文	雪				
1672	五六人熊擔ひ來る雪の森	29	冬	天文	雪				
1673	聲悲し鴉の腹に雪を吹く	29	冬	天文	雪				
1674	障子明けよ上野の雪を一目見ん	29	冬	天文	雪				
1675	杉垣の上から雪の上野哉	29	冬	天文	雪				
1676	仲町や禿もまじり雪搔す	29	冬	天文	雪				
1677	南天に雪吹きつけて雀鳴く	29	冬	天文	雪				
1678	念入れて雪の積みたる伏籠哉	29	冬	天文	雪				
1679	走り來る禿に聞けば夜の雪	29	冬	天文	雪				
1680	一つ家のともし火低し雪の原	29	冬	天文	雪				
1681	灯のともる東照宮や杉の雪	29	冬	天文	雪				
1682	風雪を吹きつけて馬逡巡す	29	冬	天文	雪				
1683	不盡の山雪盛り上げし姿哉	29	冬	天文	雪				
1684	ふりやむや雪に灯ともる峰の寺	29	冬	天文	雪				
1685	古園や桃も李も雪の花	29	冬	天文	雪				
1686	古庭の雪に見出す葵哉	29	冬	天文	雪				
1687	濠と共に曲がりて長し雪の松	29	冬	天文	雪				
1688	水涸れて雪つもりたる筧哉	29	冬	天文	雪				
1689	水汲むや雪の合羽の女とは	29	冬	天文	雪				
1690	簀はあれど笠はあれど雪にわれ病めり	29	冬	天文	雪				
1691	蕙帆に雪積む利根の夜明哉	29	冬	天文	雪				

1692	雪皚々王城の松美なる哉	29	冬	天文	雪				
1693	雪三尺王城の松美なる哉	29	冬	天文	雪				
1694	雪ながら竹垂れかゝる手水鉢	29	冬	天文	雪				
1695	雪の家に寐て居と思ふ許りにて	29	冬	天文	雪				
1696	雪の夜や隅田の渡し舟はあれど	29	冬	天文	雪				
1697	雪ふるよ障子の穴を見てあれば	29	冬	天文	雪				
1698	雪女旅人雪に埋れけり	29	冬	天文	雪				
1699	夜明からふれども雪の積まぬげな	29	冬	天文	雪				
1700	吉原や眼にあまりたる雪の不盡	29	冬	天文	雪				
1701	夜の雪やどこ迄小き足の跡	29	冬	天文	雪				
1702	夜の雪辻堂に寐て美女を夢む	29	冬	天文	雪				
1703	浪人の赤子がゝへて夜の雪	29	冬	天文	雪				
1704	鴛鴦の羽に薄雪つもる静さよ	29	冬	天文	雪				
1705	狼のちらと見えけり雪の山	30	冬	天文	雪				
1706	狼の見えて隠れぬ雪の山	30	冬	天文	雪				
1707	狼の吾を見て居る雪の岨	30	冬	天文	雪				
1708	大雪になるや夜討も遂に来ず	30	冬	天文	雪				
1709	大雪や狼人に近く鳴く	30	冬	天文	雪				
1710	黒き旗に雪ふりかゝり人稀也	30	冬	天文	雪				
1711	静かさに雪積りけり三四尺	30	冬	天文	雪				
1712	ちらちらと障子の穴に見ゆる雪	30	冬	天文	雪				
1713	ちらちらと雪になりしか又止みぬ	30	冬	天文	雪				
1714	二三人火を焚く雪の木の間哉	30	冬	天文	雪				
1715	舟呼べば答あり待てば雪ちらちら	30	冬	天文	雪				
1716	水鉢や雀囓みあふ雪の竹	30	冬	天文	雪				
1717	雪此夜積まんといひて寐ぬる哉	30	冬	天文	雪				
1718	雪こよひ積まんといひて寐ぬる哉	30	冬	天文	雪				
1719	雪となり雨となり旗半ばなり	30	冬	天文	雪				
1720	雪に明けて星のあたりや君か馬	30	冬	天文	雪				
1721	雪にくれて狼の聲近くなる	30	冬	天文	雪				
1722	雪をささぐ蓮花一千四百丈	30	冬	天文	雪	ささぐ<敬+手>			
1723	居つゞけに禿は雪の兎かな	30	冬	天文	雪				
1724	井戸端や水汲む女雪をかこつ	30	冬	天文	雪				
1725	案内乞ふ合羽の雪や知らぬ人	31	冬	天文	雪				
1726	逢ふ人の皆大雪と申しけり	31	冬	天文	雪				
1727	大雪の鴉も飛ばぬ野山哉	31	冬	天文	雪				

1728	隠れ住む古主を訪ふや雪の村	31	冬	天文	雪				
1729	瓦斯燈や柳につもる夜の雪	31	冬	天文	雪				
1730	風そふて木の雪落る夜半の音	31	冬	天文	雪				
1731	松明に雪のちらつく山路かな	31	冬	天文	雪				
1732	亡き妻を夢に見る夜や雪五尺	31	冬	天文	雪				
1733	蓑笠や小門を出づる雪の人	31	冬	天文	雪				
1734	雪深し熊を誘ふおとしあな	31	冬	天文	雪	おとしあな<こざとへん+井>			
1735	遼東の雪に馴れたる軍馬哉	31	冬	天文	雪				
1736	移徙やきのふ植ゑたる松の雪	31	冬	天文	雪				
1737	藁頭巾の雪ふるふたる戸口哉	31	冬	天文	雪				
1738	空城や簷もたかぬ夜の雪	32	冬	天文	雪				
1739	足跡の盡きし戸口や雪の原	32	冬	天文	雪				
1740	足跡の盡きし小家や雪の原	32	冬	天文	雪				
1741	牛部屋に顔出す牛や雪の朝	32	冬	天文	雪				
1742	梅探る吾妻の森や雪深き	32	冬	天文	雪				
1743	大雪や石垣長き淀の城	32	冬	天文	雪				
1744	背戸の雪水汲む道は絶にけり	32	冬	天文	雪				
1745	掃溜や今物捨し雪の上	32	冬	天文	雪				
1746	松島や小島に雪に雪	32	冬	天文	雪				
1747	井戸端に雪語り居る朝日哉	32	冬	天文	雪				
1748	井戸端の雪皆搔てしまひけり	32	冬	天文	雪				
1749	井戸端や鍋も盥も雪の上	32	冬	天文	雪				
1750	雁なくや小窓にやみの雪明り	25	冬	天文	雪明				
1751	我菴や上野をかざす雪明り	26	冬	天文	雪明				
1752	むく方へ風のもてくる吹雪かな	21	冬	天文	吹雪				
1753	こしかたも行くへもわかぬ吹雪哉	23	冬	天文	吹雪				
1754	寒からん不盡の隣の一吹雪	23	冬	天文	吹雪				
1755	一隻の小舟にあまる吹雪哉	23~25	冬	天文	吹雪				
1756	禪寺や吹雪くる夜を納豆打	23~25	冬	天文	吹雪				
1757	興居嶋へ魚舟いそぐ吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1758	子をかばふ鶴たちまどふ吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1759	酒かひのあぜ道さがす吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1760	十一騎面もふらぬ吹雪かな	25	冬	天文	吹雪				
1761	菅笠の裏にもつもる吹雪かな	25	冬	天文	吹雪				
1762	すじかへに不二の山から雪吹哉	25	冬	天文	吹雪				
1763	高城の石かけ畫がく吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				

1764	浪ぎははさらに横ふくふゞき哉	25	冬	天文	吹雪				
1765	不盡山をひねもすめくる吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1766	吹雪來んとして鐘冴ゆる嵐哉	25	冬	天文	吹雪				
1767	兩院へ車分れる吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1768	猪の岩ふみはづす吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1769	猪の牙ふりたてる吹雪哉	25	冬	天文	吹雪				
1770	あら鷹の眼血ばしる吹雪かな	26	冬	天文	吹雪				
1771	椽側になくや吹雪のむら雀	26	冬	天文	吹雪				
1772	おし力もたれ力の吹雪かな	26	冬	天文	吹雪				
1773	輿のひまに袖あて給ふ吹雪哉	26	冬	天文	吹雪				
1774	通天の橋裏白きふゞき哉	26	冬	天文	吹雪				
1775	ともし火を中にあら野の吹雪哉	26	冬	天文	吹雪				
1776	平然と牛歸りくる吹雪哉	26	冬	天文	吹雪				
1777	大船の空にまかるゝ吹雪哉	27	冬	天文	吹雪				
1778	蛸隠す夜の吹雪の小籠かな	27	冬	天文	吹雪				
1779	うしろ向て塔見あげたる吹雪哉	28	冬	天文	吹雪				
1780	音もせずなりぬ吹雪の馬の鈴	28	冬	天文	吹雪				
1781	阪道や吹雪に下る四手駕	28	冬	天文	吹雪				
1782	峠より人の下り來る吹雪哉	28	冬	天文	吹雪				
1783	吹き亂す吹雪の鷹の鈴暮れたり	28	冬	天文	吹雪				
1784	むり向いて塔見あげたる吹雪哉	28	冬	天文	吹雪				
1785	町近く來るや吹雪の鹿一つ	29	冬	天文	吹雪				
1786	町近く來るよ吹雪の鹿一つ	29	冬	天文	吹雪				
1787	惱み伏す主をはげます吹雪哉	31	冬	天文	吹雪				
1788	町に入る吹雪の籠や旅の人	31	冬	天文	吹雪				
1789	武藏野も空も一つに吹雪哉	31	冬	天文	吹雪				
1790	病む人に戸あけて見する吹雪哉	31	冬	天文	吹雪				
1791	うすうすとうつる朝日や初氷	26	冬	天文	初氷				
1792	馬渡るかたや湖水の初氷	26	冬	天文	初氷				
1793	田鼠のはしる音あり初氷	26	冬	天文	初氷				
1794	諏訪の神の狐と現じ初氷	32	冬	天文	初氷				
1795	もてなし八あつからすこの氷かな	21	冬	天文	氷				
1796	もてなしは薄くてあつき氷かな	21	冬	天文	氷				
1797	濁り井の氷に泥はなかりけり	24	冬	天文	氷				
1798	角池の四隅に残る氷かな	25	冬	天文	氷				
1799	水鉢にしかみついたる氷かな	25	冬	天文	氷				

1800	飯粒の板にひゝつく氷哉	25	冬	天文	氷				
1801	浮くや金魚唐紅の薄氷	26	冬	天文	氷				
1802	恐ろしき鴉の嘴や厚氷	26	冬	天文	氷				
1803	鴨あるく池一はいの氷かな	26	冬	天文	氷				
1804	さびを聞け氷を叩く竹柄杓	26	冬	天文	氷				
1805	白鷺の片足あげる氷哉	26	冬	天文	氷				
1806	諏訪の海女もわたる氷哉	26	冬	天文	氷				
1807	水鉢の氷をたゞく搗木哉	26	冬	天文	氷				
1808	大船や動けばわれる薄氷	27	冬	天文	氷				
1809	獺の橋杭つたふ氷哉	27	冬	天文	氷				
1810	聞き送る君が下駄遠き氷かな	27	冬	天文	氷				
1811	金魚死して涸れ残る水の氷哉	27	冬	天文	氷				
1812	さゆる夜の氷をはしる礫かな	27	冬	天文	氷				
1813	不忍に朝日かゝやく氷かな	27	冬	天文	氷				
1814	竹竿や妹が掛けたる氷面鏡	27	冬	天文	氷				
1815	檐下や金魚の池の薄氷	27	冬	天文	氷				
1816	果も見えず氷を走る礫かな	27	冬	天文	氷				
1817	古沼の境もなしに氷かな	27	冬	天文	氷				
1818	古沼の水田つゞきに氷かな	27	冬	天文	氷				
1819	曉の氷すり碎く硯かな	28	冬	天文	氷				
1820	崖道を氷室へはこぶ氷哉	28	冬	天文	氷				
1821	獺の橋裏わたる氷かな	28	冬	天文	氷				
1822	刈株に水をはなるゝ氷かな	28	冬	天文	氷				
1823	漕川に竹垂れかゝる氷かな	28	冬	天文	氷				
1824	小夜更けて氷を叩く隣かな	28	冬	天文	氷				
1825	小夜更て氷を叩く月夜哉	28	冬	天文	氷				
1826	しんとして榛名の池の氷哉	28	冬	天文	氷				
1827	鶺鴒の刈株つたふ氷かな	28	冬	天文	氷				
1828	元山をめぐらす浦の氷哉	28	冬	天文	氷				
1829	はりはりと白水落つる氷かな	28	冬	天文	氷				
1830	人住まぬ屋敷の池の氷かな	28	冬	天文	氷				
1831	ひゞわれる音や旭のさす田の氷	28	冬	天文	氷				
1832	古濠の小鴨も居らぬ氷かな	28	冬	天文	氷				
1833	溝川に竹垂れかゝる氷かな	28	冬	天文	氷				
1834	水鳥の小舟に上る氷かな	28	冬	天文	氷				
1835	上げ汐の氷にのぼる夜明哉	29	冬	天文	氷				

1836	裏不二の小さく見ゆる氷哉	29	冬	天文	氷				
1837	枯菰折れも盡さで氷哉	29	冬	天文	氷				
1838	氷伐る人かしがまし朝嵐	29	冬	天文	氷				
1839	汐落ちて氷の高き渚哉	29	冬	天文	氷				
1840	汐落ちてみを杭高き氷哉	29	冬	天文	氷				
1841	沼の隅に枯蘆残る氷哉	29	冬	天文	氷				
1842	日かゝやく諏訪の氷の人馬哉	29	冬	天文	氷				
1843	水鳥の浮木に竝ぶ氷哉	29	冬	天文	氷				
1844	森の中に池あり氷厚き哉	29	冬	天文	氷				
1845	山陰に日のさゝぬ池の氷哉	29	冬	天文	氷				
1846	透き通る氷の中の紅葉哉	31	冬	天文	氷				
1847	潮流の北より來たる氷哉	31	冬	天文	氷				
1848	東臺の松杉青き氷哉	31	冬	天文	氷				
1849	水鉢の氷捨てたる葉蘭哉	31	冬	天文	氷				
1850	水鉢の氷を碎く星月夜	31	冬	天文	氷				
1851	明神の狐と現じ氷哉	31	冬	天文	氷				
1852	旅人や諏訪の氷を踏で見る	32	冬	天文	氷				
1853	禪堂に氷りついてあり僧一人	33	冬	天文	氷				
1854	漫々たる江を流れ行く氷かな	34	冬	天文	氷				
1855	夜着半分猿にかす夜や鐘氷る	24	冬	天文	鐘氷る				
1856	たらちねの夢に泣く夜や鐘氷る	25	冬	天文	鐘氷る				
1857	湖の静かに三井の鐘氷る	26	冬	天文	鐘氷る				
1858	鐘氷る夜床下にうなる金の精	29	冬	天文	鐘氷る				
1859	鐘の聲嵐もこほる夜也けり	29	冬	天文	鐘氷る				
1860	御停止や鳥啼いて晝の鐘こほる	30	冬	天文	鐘氷る				
1861	猩々の三七日頃か鐘氷る	31	冬	天文	鐘氷る				
1862	ふし見ゆる軒端をつゝる氷柱哉	25	冬	天文	氷柱				
1863	板やねや氷柱吹き折る朝嵐	26	冬	天文	氷柱				
1864	枯れ蔓の檐に動かぬつらゝ哉	26	冬	天文	氷柱				
1865	水晶に朝日かゝやく氷柱哉	26	冬	天文	氷柱				
1866	大佛の鼻水たらす氷柱哉	26	冬	天文	氷柱				
1867	つらゝして轆轤の雫絶えにけり	26	冬	天文	氷柱				
1868	佛立つ大磐石の氷柱哉	27	冬	天文	氷柱				
1869	旭のさすや檐の氷柱の長短	28	冬	天文	氷柱				
1870	枇杷の實の僅に青き氷柱哉	31	冬	天文	氷柱				
1871	枯れてさがる檐の葱の氷柱哉	32	冬	天文	氷柱				

1872	枯盡くす絲瓜の棚の氷柱哉	35	冬	天文	氷柱				
1873	驛遠く月氷る野を急ぎけり	32	冬	天文	月氷る				
1874	宿りそこね月氷る野を急ぎけり	32	冬	天文	月氷る				
1875	劍さきの霜もこぼるや冬の月	23	冬	天文	冬の月				
1876	ぬぎすてた下駄に霜あり冬の月	24	冬	天文	冬の月				
1877	ぬぎすてた木履の霜や冬の月	24	冬	天文	冬の月				
1878	破れ障子まゝよ木枯冬の月	24	冬	天文	冬の月				
1879	冬の月一夜はふしの矢にけり	25	冬	天文	冬の月				
1880	冬の月一夜はふじにうせにけり	25	冬	天文	冬の月				
1881	牛糞の光て寒し冬の月	26	冬	天文	冬の月				
1882	吹きすさむ凧白し冬の月	26	冬	天文	冬の月				
1883	浪人のおこそ頭巾や冬の月	26	冬	天文	冬の月				
1884	鶯の凍へ死ぬらん冬の月	27	冬	天文	冬の月				
1885	うしろからひそかに出たり冬の月	27	冬	天文	冬の月				
1886	水門に鼯死居る冬の月	27	冬	天文	冬の月				
1887	辻番のともし火青し冬の月	27	冬	天文	冬の月				
1888	初冬の月裏門にかゝりけり	27	冬	天文	冬の月				
1889	門くづれて仁王裸に冬の月	27	冬	天文	冬の月				
1890	木の影や我影動く冬の月	28	冬	天文	冬の月				
1891	冬の月五重の塔の裸なり	28	冬	天文	冬の月				
1892	赤子泣く眞宗寺や冬の月	29	冬	天文	冬の月				
1893	きぬぎぬや冬の有明寒鴉	29	冬	天文	冬の月				
1894	葬禮の提灯多し冬の月	29	冬	天文	冬の月				
1895	しっぽくをくふて出づれば冬の月	29	冬	天文	冬の月				
1896	辻君の白手拭や冬の月	29	冬	天文	冬の月				
1897	不盡の山白くて冬の月夜哉	29	冬	天文	冬の月				
1898	屋根の上に火事見る人や冬の月	29	冬	天文	冬の月				
1899	廁出て雨戸あくれば冬の月	30	冬	天文	冬の月				
1900	魚河岸や鮫に霜置く冬の月	32	冬	天文	冬の月				
1901	門待の車夫の鬮や冬の月	32	冬	天文	冬の月				
1902	玉山の髣髴として冬の月	32	冬	天文	冬の月				
1903	なき魂も通ふか寒き月の冴	21	冬	天文	寒月				
1904	なき魂も通ふや寒き月の下	21	冬	天文	寒月				
1905	破れ障子まゝよ木枯寒の月	24	冬	天文	寒月				
1906	寒月に悲し過ぎたり善光寺	25	冬	天文	寒月				
1907	寒月に悲しすぎたり両大師	25	冬	天文	寒月				

1908	寒月や氷ふみわる靴の音	25	冬	天文	寒月				
1909	寒月や地藏の首のあり處	25	冬	天文	寒月				
1910	寒月や人去るあとの能舞臺	25	冬	天文	寒月				
1911	萬山の木のはの音や寒の月	25	冬	天文	寒月				
1912	眞黒な杉の林や寒の月	25	冬	天文	寒月				
1913	あはれさを裸にしたり寒の月	26	冬	天文	寒月				
1914	寒月や海にこぼるゝ玉霰	26	冬	天文	寒月				
1915	寒月や北風氷る諏訪の海	26	冬	天文	寒月				
1916	寒月や空をつんざく五剣山	26	冬	天文	寒月				
1917	寒月や立枯の芭蕉ものものし	26	冬	天文	寒月				
1918	寒月や何やら通る風の音	26	冬	天文	寒月				
1919	寒月や原渺々として寺一つ	26	冬	天文	寒月				
1920	寒月や一筋光る田舎道	26	冬	天文	寒月				
1921	寒月や藪道戻る武者ぶるひ	26	冬	天文	寒月				
1922	寒月や山を出る時猶寒し	26	冬	天文	寒月				
1923	薙刀に寒月高し法師武者	26	冬	天文	寒月				
1924	木兔や寒月落て塔高し	26	冬	天文	寒月				
1925	寒月や細殿荒れて猫の聲	27	冬	天文	寒月				
1926	寒月や雲盡きて猶風はげし	28	冬	天文	寒月				
1927	寒月や造船場の裸船	28	冬	天文	寒月				
1928	寒月や石塔の影杉の影	28	冬	天文	寒月				
1929	寒月や猫の眼光る庭の隅	28	冬	天文	寒月				
1930	寒月や吹き落されて岩の間	28	冬	天文	寒月				
1931	寒月や一本杉の一本	29	冬	天文	寒月				
1932	虎吼ゆる晝に寒月と題すべく	31	冬	天文	寒月				
1933	寒月や枯木の上の一つ星	32	冬	天文	寒月				
1934	稲刈りて力無き冬の朝日かな	25	冬	天文	冬の日				
1935	稲かりて力無き冬の初日哉	25	冬	天文	冬の日				
1936	玉川に短き冬の日脚哉	25	冬	天文	冬の日				
1937	冬の日之二見近く通りけり	25	冬	天文	冬の日				
1938	牛部屋や冬の入日の壁の穴	26	冬	天文	冬の日				
1939	冬の日の小藪の隅に落ちにけり	26	冬	天文	冬の日				
1940	冬の日筆の林に暮れて行く	26	冬	天文	冬の日				
1941	冬の日刈田のはてに暮れんとす	27	冬	天文	冬の日				
1942	冬の日暮れんとすなり八ツ下り	27	冬	天文	冬の日				
1943	見下すや冬の日向の十箇村	27	冬	天文	冬の日				

1944	冬の日の落ちて明るし城の松	28	冬	天文	冬の日				
1945	冬の日の雀下りけり飯時分	28	冬	天文	冬の日				
1946	冬の日のとゞかずなりし小村哉	28	冬	天文	冬の日				
1947	冬の日や馬の背中に落ちかゝる	28	冬	天文	冬の日				
1948	冬の日や馬の背中へ落ちかゝる	28	冬	天文	冬の日				
1949	冬の日やわつかの雲のすきに入る	28	冬	天文	冬の日				
1950	易をよむ冬の日あしや牢の中	29	冬	天文	冬の日				
1951	易を読む冬の日さしや牢の中	29	冬	天文	冬の日				
1952	鞆丸の垢取る冬の日向哉	29	冬	天文	冬の日				
1953	石門を斜に冬の日影哉	29	冬	天文	冬の日				
1954	煎餅の日影短し冬の町	29	冬	天文	冬の日				
1955	煎餅干す日影短し冬の町	29	冬	天文	冬の日				
1956	鳥飛んで冬の日落る林哉	29	冬	天文	冬の日				
1957	梟の眼に冬の日午なり	29	冬	天文	冬の日				
1958	冬の日の入りて明るし城の松	29	冬	天文	冬の日				
1959	冬の日の短けれども石部迄	29	冬	天文	冬の日				
1960	山中に冬の日昇ること遅し	29	冬	天文	冬の日				
1961	ガラス越に冬の日あたる病間哉	32	冬	天文	冬の日				
1962	冬の日のあたらずなりし乾飯かな	34	冬	天文	冬の日				
1963	冬の日のよくあたる椽やおもちや箱	34	冬	天文	冬の日				
1964	冬の日やよらで過ぎ行く餅の茶屋	34	冬	天文	冬の日				
1965	雪雲の縁を色どる冬日かな	34	冬	天文	冬の日				
1966	六疊の奥迄冬の日ざしかな	34	冬	天文	冬の日				
1967	冬の山出る日入る日の力なき	25	冬	天文	冬山				
1968	あちら向く姿や冬の山一つ	27	冬	天文	冬山				
1969	冬山やごぼごぼと汽車の麓行く	27	冬	天文	冬山				
1970	狼に逢はで越えけり冬の山	29	冬	天文	冬山				
1971	冬山の底に温泉の烟哉	29	冬	天文	冬山				
1972	狼にも逢はで越えけり冬の山	30	冬	天文	冬山				
1973	こゝらにも人住みけるよ冬の山	31	冬	天文	冬山				
1974	馬糞も共に枯れたる冬野かな	25	冬	天文	冬野				
1975	馬糞も一つに枯れる冬野哉	25	冬	天文	冬野				
1976	門許り残る冬野の伽藍かな	26	冬	天文	冬野				
1977	ゆらゆらと立つや冬野の女郎花	26	冬	天文	冬野				
1978	学校の旗竿高き冬野かな	27	冬	天文	冬野				
1979	貝塚に石器を拾ふ冬野哉	27	冬	天文	冬野				

1980	冬の野に一本杉のたかさかな	27	冬	天文	冬野				
1981	星絶えず飛んで冬野のひろさ哉	27	冬	天文	冬野				
1982	赤いこと冬野の西の富士の山	29	冬	天文	冬野				
1983	雉つけて歸る一騎や冬の原	31	冬	天文	冬野				
1984	素歸りの車をねぎる冬野哉	33	冬	天文	冬野				
1985	馬子一人夕日に歸る枯野哉	22	冬	天文	枯野				
1986	花もなき原も名に立つ枯野哉	23 ~ 25	冬	天文	枯野				
1987	秋ちらほら野菊にのこる枯野哉	24	冬	天文	枯野				
1988	僧一人横にしくるゝ枯野哉	24	冬	天文	枯野				
1989	三日月を相手にあるく枯野哉	24	冬	天文	枯野				
1990	夕日負ふ六部背高き枯野かな	24	冬	天文	枯野				
1991	馬糞のほゝけて白き枯野哉	25	冬	天文	枯野				
1992	馬糞も共にやかるゝ枯野哉	25	冬	天文	枯野				
1993	熊笹の緑にのこる枯の哉	25	冬	天文	枯野				
1994	白旗や枯野の末の幾流れ	25	冬	天文	枯野				
1995	薄とも蘆ともつかず枯れにけり	25	冬	天文	枯野				
1996	とりまいて人の火をたく枯野哉	25	冬	天文	枯野				
1997	松杉や枯野の中の不動堂	25	冬	天文	枯野				
1998	森こえて枯野に来るや旅鳥	25	冬	天文	枯野				
1999	一村は竹緑なる枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2000	犬吠て枯野の伽藍月寒し	26	冬	天文	枯野				
2001	牛歸る枯野のはてや家一つ	26	冬	天文	枯野				
2002	牛車十程ならば枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2003	風吹てうしろ見返る枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2004	狐火や那須の枯野に小雨ふる	26	冬	天文	枯野				
2005	里の子の犬引て行枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2006	旅人の蜜柑くひ行く枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2007	何うらむさまか枯野の女郎花	26	冬	天文	枯野				
2008	野は枯れて残りし牛と地藏哉	26	冬	天文	枯野				
2009	信長の榎淋しき枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2010	信長の榎残りて枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2011	人妻のぬす人にあふ枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2012	一つ家に日の入りかゝる枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2013	一つ家に日の落ちかゝる枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2014	ほそぼそと三日月光る枯野哉	26	冬	天文	枯野				
2015	道二つ牛分れ行く枯野哉	26	冬	天文	枯野				

2016	山遠く川流れたる枯野哉	26	冬	天文	枯野			
2017	商人の敵地にはいる枯野かな	27	冬	天文	枯野			
2018	蟻程に枯野の家の並びかな	27	冬	天文	枯野			
2019	汽車道の此頃出来し枯野かな	27	冬	天文	枯野			
2020	その果に小松の並び枯野かな	27	冬	天文	枯野			
2021	大木の雲に聳ゆる枯野哉	27	冬	天文	枯野			
2022	旅人の咄しして行く枯野かな	27	冬	天文	枯野			
2023	野は枯れて杉二三本の社かな	27	冬	天文	枯野			
2024	野は枯れて隣の國の山遠し	27	冬	天文	枯野			
2025	伸び上れば海原見ゆる枯野かな	27	冬	天文	枯野			
2026	日のさすや枯野のはての本願寺	27	冬	天文	枯野			
2027	都出て枯野へ上る渡しかな	27	冬	天文	枯野			
2028	女狐の石になつたる枯野哉	27	冬	天文	枯野			
2029	馬見えて雉子の逃る枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2030	氣車あらはに枯野を走る烟哉	28	冬	天文	枯野			
2031	五六人行くや枯野の一つ道	28	冬	天文	枯野			
2032	辻駕に狐乗せたる枯野かな	28	冬	天文	枯野			
2033	辻堂のあとになりたる枯野かな	28	冬	天文	枯野			
2034	鶯一羽はるかに落つる枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2035	鳥飛て荷馬おどろく枯野かな	28	冬	天文	枯野			
2036	鳥飛んで荷馬驚く枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2037	船曳の斜めにそろふ枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2038	満月の半分出かゝる枯野かな	28	冬	天文	枯野			
2039	蕙帆の白帆にまじる枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2040	村人の都へ通ふ枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2041	めづらしく女に逢ひし枯野哉	28	冬	天文	枯野			
2042	足もとに青草見ゆる枯野かな	29	冬	天文	枯野			
2043	馬消えて鶯舞上る枯野哉	29	冬	天文	枯野			
2044	馬に乗つて北門出れば枯野哉	29	冬	天文	枯野			
2045	鉦も打たで行くや枯野の小順禮	29	冬	天文	枯野			
2046	鳥飛び牛去りて枯野たそかるゝ	29	冬	天文	枯野			
2047	枯野原團子の茶屋もなかりけり	29	冬	天文	枯野			
2048	汽車道に鳩の下り居る枯野哉	29	冬	天文	枯野			
2049	葬禮の旗ひるがへる枯野哉	29	冬	天文	枯野			
2050	四方八方枯野を人の通りける	29	冬	天文	枯野			
2051	提灯の一つ家に入る枯野哉	29	冬	天文	枯野			

2052	提灯の星にまじりて枯野哉	29	冬	天文	枯野				
2053	何もなし墓原ばかり枯野原	29	冬	天文	枯野				
2054	低き木に月上りたる枯埜哉	29	冬	天文	枯野				
2055	一つ家に鉦打ち鳴らす枯野哉	29	冬	天文	枯野				
2056	更くる夜の枯野に低し篝星	29	冬	天文	枯野				
2057	三日月や枯野を歸る人と犬	29	冬	天文	枯野				
2058	めいめいに松明を持つ枯野哉	29	冬	天文	枯野				
2059	草鞋薄し枯野の小道茨を踏む	29	冬	天文	枯野				
2060	わらんべの犬抱いて行く枯野哉	29	冬	天文	枯野				
2061	君と共に葦摘みし野は枯れにけり	30	冬	天文	枯野				
2062	葬禮の二組つゞく枯野哉	30	冬	天文	枯野				
2063	旅二人話盡きたる枯野哉	30	冬	天文	枯野				
2064	旅二人話盡きぬる枯野哉	30	冬	天文	枯野				
2065	旅二人話なくて越す枯野哉	30	冬	天文	枯野				
2066	たまたまに蝶見てうれし枯野道	30	冬	天文	枯野				
2067	人もなし夕日落ちこむ枯野原	30	冬	天文	枯野				
2068	道連の無口なりける枯野哉	30	冬	天文	枯野				
2069	金州の南門見ゆる枯野哉	31	冬	天文	枯野				
2070	生垣に外は枯野や球遊び	32	冬	天文	枯野				
2071	二つ三つ石ころげたる枯野哉	32	冬	天文	枯野				
2072	眞直にふじまでゆかん冬田哉	25	冬	天文	冬田				
2073	いなむらの崩れて黒き冬田哉	26	冬	天文	冬田				
2074	刈あとの株に海苔つく冬田哉	26	冬	天文	冬田				
2075	雁落ちて冬田に崩す一文字	26	冬	天文	冬田				
2076	つらつらと雁並びたる冬田かな	27	冬	天文	冬田				
2077	長々と冬田に低し雁の列	27	冬	天文	冬田				
2078	稗時に案山子の残る冬田かな	27	冬	天文	冬田				
2079	蜜柑剥いて皮を投げ込む冬田かな	27	冬	天文	冬田				
2080	身を投げて蠢死なんとす冬田かな	27	冬	天文	冬田				
2081	吉原の廓見えたる冬田かな	27	冬	天文	冬田				
2082	あぜ許り見えて重なる冬田哉	28	冬	天文	冬田				
2083	うね許り見えて重なる冬田哉	28	冬	天文	冬田				
2084	汽車道の一段高き冬田哉	28	冬	天文	冬田				
2085	氣車道の目標高き冬田かな	28	冬	天文	冬田				
2086	駒込の阪を下れば冬田かな	28	冬	天文	冬田				
2087	科頭に鳥のとまる冬田かな	28	冬	天文	冬田				

2088	菜畑もまじりて廣き冬田哉	28	冬	天文	冬田				
2089	見下せば晩稻の残る冬田哉	28	冬	天文	冬田				
2090	畦こえて鮎の見えぬ冬田哉	29	冬	天文	冬田				
2091	雁さわぐ冬の田面の月もなし	29	冬	天文	冬田				
2092	きぬぎぬの大門出れば冬田哉	29	冬	天文	冬田				
2093	其はてに海の見えたる冬田哉	29	冬	天文	冬田				
2094	吉原の冬田まばゆき朝日哉	29	冬	天文	冬田				
2095	水多き冬田の慈姑枯れて立つ	30	冬	天文	冬田				
2096	水きたなく水草見ゆる冬田哉	30	冬	天文	冬田				
2097	水深く水草見ゆる冬田哉	30	冬	天文	冬田				
2098	此邊も税の増したる冬田哉	31	冬	天文	冬田				
2099	道哲の寺を過ぐれば冬田哉	31	冬	天文	冬田				
2100	行き行きて本所はなるゝ冬田哉	32	冬	天文	冬田				
2101	家めぐる冬田の水の寒さかな	34	冬	天文	冬田				
2102	貧乏な村をとりまく冬田かな	34	冬	天文	冬田				
2103	冬田廣く遙かに見ゆる小城かな	34	冬	天文	冬田				
2104	緒の切れし下駄捨てゝある冬田かな	34	冬	天文	冬田				
2105	鮎死で瀬のほそりけり冬の川	25	冬	天文	冬の川				
2106	冬川の涸れて蛇籠の寒さ哉	25	冬	天文	冬の川				
2107	大石のころがる冬の河原かな	27	冬	天文	冬の川				
2108	冬川に捨てたる犬の屍かな	27	冬	天文	冬の川				
2109	冬川に塞がる程の芥船	27	冬	天文	冬の川				
2110	冬川の菜屑啄む家鴨かな	27	冬	天文	冬の川				
2111	冬川や砂にひつゝく水車	27	冬	天文	冬の川				
2112	冬川や菜屑流るゝ村はづれ	27	冬	天文	冬の川				
2113	よるべなき冬の野川の小魚かな	27	冬	天文	冬の川				
2114	雲絶えて源涸れぬ冬の川	28	冬	天文	冬の川				
2115	橋杭にかゝる藻屑や冬の川	28	冬	天文	冬の川				
2116	橋杭に残る藻屑や冬の川	28	冬	天文	冬の川				
2117	冬川に鴨の毛かゝる芥かな	28	冬	天文	冬の川				
2118	冬川の河原ばかりとなりけり	28	冬	天文	冬の川				
2119	水筋は涸れて芥や冬の川	28	冬	天文	冬の川				
2120	冬川の向に見ゆる湯本かな	29	冬	天文	冬の川				
2121	冬川や家鴨四五羽に足らぬ水	29	冬	天文	冬の川				
2122	冬川や家鴨七羽に足らぬ水	29	冬	天文	冬の川				
2123	冬川や魚の群れ居る水たまり	29	冬	天文	冬の川				

2124	冬川や小魚むれ居る水たまり	29	冬	天文	冬の川				
2125	物やあらん鳥集まる冬の川	29	冬	天文	冬の川				
2126	冬川の砂とる土手の普請哉	33	冬	天文	冬の川				
2127	冬川や繩をくり行く渡し船	33	冬	天文	冬の川				
2128	冬川や繩つたひ行く渡し船	33	冬	天文	冬の川				
2129	冬の川石飛び渡り越えにけり	33	冬	天文	冬の川				
2130	雲墮ちて泥静まりぬ冬の水	28	冬	天文	冬の水				
2131	我は京へ神は出雲へ道二つ	30	冬	人事	神の旅				
2132	さそひあふ末社の神や旅でたち	32	冬	人事	神の旅				
2133	先發や出雲へかゝるさゐの神	32	冬	人事	神の旅				
2134	辨當の小豆の飯や神の旅	32	冬	人事	神の旅				
2135	どの馬で神は歸らせたまふらん	25	冬	人事	神送				
2136	遠ざかり行く松風や神送り	25	冬	人事	神送				
2137	裏門はあけたまゝなり神送	26	冬	人事	神送				
2138	風吹て鈴鹿は寒し神送	26	冬	人事	神送				
2139	神送り出雲へ向ふ雲の脚	28	冬	人事	神送				
2140	御旅立竈の神を見送らん	31	冬	人事	神送				
2141	赤幟疱瘡の神を送りけり	32	冬	人事	神送				
2142	神の留守うすうす後家の噂哉	26	冬	人事	神の留守				
2143	うつせみの羽衣の宮や神の留守	27	冬	人事	神の留守				
2144	ちゝめくや神のお留守の鳩雀	27	冬	人事	神の留守				
2145	狛犬の片足折れぬ神の留守	28	冬	人事	神の留守				
2146	野社はもとより神の留守にして	29	冬	人事	神の留守				
2147	穴荒て狐も留守よ神の供	30	冬	人事	神の留守				
2148	神の留守を風吹く宮の渡舟	30	冬	人事	神の留守				
2149	遊びあるく病の神のお留守もり	32	冬	人事	神の留守				
2150	此頃は發句の神の御留守哉	32	冬	人事	神の留守				
2151	古禿倉もとより神の留守にして	32	冬	人事	神の留守				
2152	結びおきて結ぶの神は旅立ちぬ	32	冬	人事	神の留守				
2153	神集め神の結びし縁なれや	31	冬	人事	神集め				
2154	鶏もうたひ参らす神迎	25	冬	人事	神迎				
2155	乘掛の旅僧見たり神迎	27	冬	人事	神迎				
2156	お留守には何事もなし神迎	32	冬	人事	神迎				
2157	牛も念佛聞くや十夜の戻り道	26	冬	人事	十夜				
2158	鬼婆々の角を折たる十夜哉	26	冬	人事	十夜				
2159	慈悲も知らず殺生も知らず十夜哉	26	冬	人事	十夜				

2160	澁色の袈裟きた僧の十夜哉	26	冬	人事	十夜				
2161	澁染のけさきた僧の十夜かな	26	冬	人事	十夜				
2162	鄙人のかしこ過ぎたる十夜哉	26	冬	人事	十夜				
2163	薪わりも姪の僧もつ十夜哉	26	冬	人事	十夜				
2164	薪わりも甥の僧もつ十夜哉	26	冬	人事	十夜				
2165	旅僧のとまり合せて十夜哉	28	冬	人事	十夜				
2166	月影や外は十夜の人通り	28	冬	人事	十夜				
2167	野の道や十夜戻りの小提灯	29	冬	人事	十夜				
2168	誓ひには漏れぬ十夜の盲哉	31	冬	人事	十夜				
2169	達磨忌に海鼠つくつくなかめけり	25	冬	人事	達磨忌				
2170	達磨忌や混沌として時雨不二	25	冬	人事	達磨忌				
2171	達磨忌や戸棚探れは生海鼠哉	25	冬	人事	達磨忌				
2172	達磨忌や闇にもならず晴もせず	25	冬	人事	達磨忌				
2173	達磨忌は去年のけふの心哉	26	冬	人事	達磨忌				
2174	達磨忌や赤きもの皆吹落し	26	冬	人事	達磨忌				
2175	達磨忌やけふ煙草屋の店開き	26	冬	人事	達磨忌				
2176	達磨忌やにつとも笑まぬ寒椿	26	冬	人事	達磨忌				
2177	達磨忌や更けて熟柿の落つる音	26	冬	人事	達磨忌				
2178	達磨忌や枳殻寺に提唱す	32	冬	人事	達磨忌				
2179	畦道や月も上りて大熊手	27	冬	人事	酉の市				
2180	世の中も淋しくなりぬ三の酉	27	冬	人事	酉の市				
2181	傾城の顔見て過ぬ酉の市	31	冬	人事	酉の市				
2182	縁喜取る早出の人や酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2183	お酉様の熊手飾るや招き猫	32	冬	人事	酉の市				
2184	お宮迄行かて歸りぬ酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2185	傾城に約束のあり酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2186	子をつれし裏店者や酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2187	雑鬧や熊手押あふ酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2188	酉の市小き熊手をねぎりけり	32	冬	人事	酉の市				
2189	遙かに望めば熊手押あふ酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2190	夕餉すみて根岸を出るや酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2191	吉原てはくれし人や酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2192	吉原を始めて見るや酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2193	女つれし書生も出たり酉の市	32	冬	人事	酉の市				
2194	竈から猫の見て居る亥子哉	26	冬	人事	亥の子				
2195	雪空の雪にもならで亥子かな	27	冬	人事	亥の子				

2196	故郷の大根うまき亥子哉	29	冬	人事	亥の子			
2197	御玄猪や火燵もあけぬ長屋住	32	冬	人事	亥の子			
2198	なき人のたましいうけん芭蕉庵	23	冬	人事	芭蕉忌			
2199	新暦で何をさゝげん芭蕉祭	25	冬	人事	芭蕉忌			
2200	芭蕉忌に芭蕉の像もなかりけり	29	冬	人事	芭蕉忌			
2201	芭蕉忌に参らずひとり柿を喰ふ	30	冬	人事	芭蕉忌			
2202	芭蕉忌の下駄多き庵や町はづれ	30	冬	人事	芭蕉忌			
2203	蒟蒻に發句書かばや翁の日	31	冬	人事	芭蕉忌			
2204	旅に病んで芭蕉忌と書く日記哉	31	冬	人事	芭蕉忌			
2205	芭蕉忌に何の儀式もなかりけり	31	冬	人事	芭蕉忌			
2206	芭蕉忌に坊主頭の披露哉	31	冬	人事	芭蕉忌			
2207	芭蕉忌や其角嵐雪右左	31	冬	人事	芭蕉忌			
2208	芭蕉忌や芭蕉に媚びる人いやし	31	冬	人事	芭蕉忌			
2209	芭蕉忌や吾に派もなく傳もなし	31	冬	人事	芭蕉忌			
2210	無落款の芭蕉の像を祭りけり	31	冬	人事	芭蕉忌			
2211	芭蕉忌や古池や蛙飛びこむ水の音	33	冬	人事	芭蕉忌			
2212	芭蕉忌や我俳諧の奈良茶飯	33	冬	人事	芭蕉忌			
2213	初すりの新嘗祭を知らぬかな	27	冬	人事	新嘗祭			
2214	何くうてかうもやせたか鉢敲	23~25	冬	人事	鉢叩			
2215	面白ふたゝかば泣かん鉢叩	25	冬	人事	鉢叩			
2216	此頃は聲もかれけり鉢たゝき	25	冬	人事	鉢叩			
2217	なき父に似た聲もあり鉢叩	25	冬	人事	鉢叩			
2218	鉢叩経しらぬわが罪深し	25	冬	人事	鉢叩			
2219	鉢叩頭巾をとれははげたりな	25	冬	人事	鉢叩			
2220	鉢叩雪のふる日はうかれけり	25	冬	人事	鉢叩			
2221	鉢叩雪のふる夜をうかれけり	25	冬	人事	鉢叩			
2222	花にのんだ春の瓢か鉢叩	25	冬	人事	鉢叩			
2223	本陣にめして聞かばや鉢叩	25	冬	人事	鉢叩			
2224	煩悩の犬も吠えけり鉢叩	25	冬	人事	鉢叩			
2225	ものくはでかうもやせたか鉢敲	25	冬	人事	鉢叩			
2226	宵やみに紛れて出たり鉢敲	25	冬	人事	鉢叩			
2227	面白う叩け時雨の鉢叩き	26	冬	人事	鉢叩			
2228	京の夜も此頃さびて鉢叩き	26	冬	人事	鉢叩			
2229	半椀の粥ふるまはん鉢叩き	26	冬	人事	鉢叩			
2230	ふれよ雪ふれよと叩く鉢叩き	26	冬	人事	鉢叩			
2231	飯くはぬ腹にひゞくや鉢叩き	26	冬	人事	鉢叩			

2232	夜嵐の千本通り鉢敲き	27	冬	人事	鉢叩				
2233	夜寒の千本通り鉢敲き	27	冬	人事	鉢叩				
2234	鉢叩き敲きわつたる音すなり	28	冬	人事	鉢叩				
2235	足音や待つ夜も更けて鉢叩	29	冬	人事	鉢叩				
2236	横町へ曲りぬ雪の鉢叩	29	冬	人事	鉢叩				
2237	うらなひの來ぬ夜となりぬ鉢叩	30	冬	人事	鉢叩				
2238	落柿舎の日記に句あり鉢叩	33	冬	人事	鉢叩				
2239	髪置や僧になるべき子は持たず	26	冬	人事	髪置				
2240	髪置めでたく古りし筒井筒	26	冬	人事	髪置				
2241	髪置や惣領の甚六にて候	27	冬	人事	髪置				
2242	三年にして歸ればわが子髪置す	30	冬	人事	髪置				
2243	袴着や一坐に直る惣領子	26	冬	人事	袴着				
2244	袴著や八幡宮の氏子だち	35	冬	人事	袴着				
2245	同じ名のあるじ手代や夷子講	25	冬	人事	夷講				
2246	大鍋に吹革祭の蜜柑かな	26	冬	人事	鞆祭				
2247	餅ぬくき蜜柑つめたき祭りかな	27	冬	人事	鞆祭				
2248	烏帽子著よふいこ祭のあるし振	35	冬	人事	鞆祭				
2249	臘八や俄かに見ゆる人のやせ	26	冬	人事	臘八				
2250	臘八や眠たがる目に雲白し	28	冬	人事	臘八				
2251	臘八や河豚と海鼠は従弟どし	29	冬	人事	臘八				
2252	臘八や彌勒の鼯雷の如し	29	冬	人事	臘八				
2253	旅僧のとまり合せて大師講	28	冬	人事	大師講				
2254	臘八のあとにかしましくりすます	25	冬	人事	クリスマス				
2255	八人の子供むつまじクリスマス	29	冬	人事	クリスマス				
2256	クリスマスに小き會堂のあはれなる	30	冬	人事	クリスマス				
2257	子供がちにクリスマスの人集ひけり	30	冬	人事	クリスマス				
2258	會堂に國旗立てたりクリスマス	31	冬	人事	クリスマス				
2259	贈り物の數を盡してクリスマス	32	冬	人事	クリスマス				
2260	蕪引く頃となりけり春星忌	30	冬	人事	蕪村忌				
2261	蕪村忌に會して終に年忘	30	冬	人事	蕪村忌				
2262	蕪村忌や蕪よせたる浪花人	30	冬	人事	蕪村忌				
2263	蕪村忌の風呂吹くふや鴨の側	31	冬	人事	蕪村忌				
2264	蕪村忌の風呂吹盛るや臺所	31	冬	人事	蕪村忌				
2265	蕪村忌におくれて蕪とゝきけり	32	冬	人事	蕪村忌				
2266	蕪村忌に呉春が画きし蕪哉	32	冬	人事	蕪村忌				
2267	蕪村忌の寫眞寫すや椎の陰	32	冬	人事	蕪村忌				

2268	蕪村忌の寫眞をとるや椎の影	32	冬	人事	蕪村忌				
2269	蕪村忌の人あつまりぬ上根岸	32	冬	人事	蕪村忌				
2270	蕪村忌の日も近づきぬ蕪漬	32	冬	人事	蕪村忌				
2271	蕪村忌の日も近よりぬ蕪漬	32	冬	人事	蕪村忌				
2272	蕪村忌の風呂吹くふや四十人	32	冬	人事	蕪村忌				
2273	蕪村忌の風呂吹足らぬ人數哉	32	冬	人事	蕪村忌				
2274	あらたまる明治の御代や春星忌	33	冬	人事	蕪村忌				
2275	蕪村忌に蕪村の軸もなかりけり	33	冬	人事	蕪村忌				
2276	蕪村忌や奥のはたはた攝の蕪	33	冬	人事	蕪村忌				
2277	蕪村忌や風呂吹の題蕪の題	33	冬	人事	蕪村忌				
2278	風呂吹や蕪村百十八回忌	33	冬	人事	蕪村忌				
2279	風呂吹をくふや蕪村の像の前	33	冬	人事	蕪村忌				
2280	里神樂夜は篝火に白みけり	25	冬	人事	神楽				
2281	常闇を破る神樂の大鼓哉	25	冬	人事	神楽				
2282	篝火に霜うつくしや里神樂	26	冬	人事	神楽				
2283	たふとさに寒し神樂の舞少女	26	冬	人事	神楽				
2284	ゆゝしさや内外の宮の神々樂	26	冬	人事	神楽				
2285	ゆゝしさや内外の宮の初かぐら	26	冬	人事	神楽				
2286	夜神樂の面の古びや火の映り	31	冬	人事	神楽				
2287	顔見せやぬす人になる顔はたれ	25	冬	人事	顔見世				
2288	顔見せや朝霜匂ふ紅の花	26	冬	人事	顔見世				
2289	顔見せや朔日の月ありやなし	26	冬	人事	顔見世				
2290	顔見せや我子の夢をまたげ行く	27	冬	人事	顔見世				
2291	顔見せのこゝも田之助鬮肩哉	31	冬	人事	顔見世				
2292	顔見せの樂屋覗けはお染哉	33	冬	人事	顔見世				
2293	顔見せや鏡に見ゆる雛の數	33	冬	人事	顔見世				
2294	顔見世や定九郎の傘お輕の鏡	33	冬	人事	顔見世				
2295	君網買へわれ餅買はん年の市	25	冬	人事	年の市				
2296	凧の吹かてさわがし年の市	25	冬	人事	年の市				
2297	賣れ残る奥山松に市の月	26	冬	人事	年の市				
2298	風吹て淺草さびし年の市	26	冬	人事	年の市				
2299	昆布さげて人波わくる年の市	26	冬	人事	年の市				
2300	年の市鮭ぬす人を追はへけり	26	冬	人事	年の市				
2301	年の市まけよといへばおこりけり	26	冬	人事	年の市				
2302	明神の鳥居へつゞく年の市	26	冬	人事	年の市				
2303	雷神の物買ひにくる年の市	26	冬	人事	年の市				

2304	馬に乗て和尚行くなり年の市	27	冬	人事	年の市			
2305	押さるゝや年の市小夜嵐	27	冬	人事	年の市			
2306	徴發の馬つゞきけり年の市	27	冬	人事	年の市			
2307	雨雲の人にかゝるや年の市	28	冬	人事	年の市			
2308	いそがしや人押しわける年の市	28	冬	人事	年の市			
2309	馬の尻に行きあたりけり年の市	28	冬	人事	年の市			
2310	年の市十町許りつゞきけり	28	冬	人事	年の市			
2311	年の市橋へ出ぬけて月夜かな	28	冬	人事	年の市			
2312	齒朶を買ふついでに箸をねぎりけり	31	冬	人事	年の市			
2313	蓬萊をいろいろに飴り直しけり	26	冬	人事	年用意			
2314	曆賈侍町の静かなり	26	冬	人事	曆売			
2315	捨てられて風にのつたる曆哉	25	冬	人事	古曆			
2316	初曆めでたくこゝに古曆	25	冬	人事	古曆			
2317	古曆雑用帳にまぎれけり	25	冬	人事	古曆			
2318	一年の風吹きわたる古曆	26	冬	人事	古曆			
2319	あつめ來て紙衣に縫はん古曆	27	冬	人事	古曆			
2320	何となう奈良なつかしや古曆	27	冬	人事	古曆			
2321	何となく奈良なつかしや古曆	27	冬	人事	古曆			
2322	古曆花も紅葉も枕紙	27	冬	人事	古曆			
2323	來年の曆もはりぬ古曆	30	冬	人事	古曆			
2324	白梅にうすもの着せん煤拂	20	冬	人事	煤払			
2325	煤はらひしてくる年のまたれけり	21	冬	人事	煤払			
2326	白梅に覆しておかんすゝ拂	23~25	冬	人事	煤払			
2327	古はくらしらんぶの煤拂	25	冬	人事	煤払			
2328	犬張子くづれて出たり煤拂	25	冬	人事	煤払			
2329	風吹て北の隣の煤拂	25	冬	人事	煤払			
2330	此ころはやとはれもしつ煤拂	25	冬	人事	煤払			
2331	塩焼くや煤はくといふ日もなうて	25	冬	人事	煤払			
2332	煤拂のほこりの中やふじの山	25	冬	人事	煤払			
2333	すとうぶや上からつゞく煤拂	25	冬	人事	煤払			
2334	牛はいよいよ黒かれとこそ煤拂	26	冬	人事	煤払			
2335	來あはした人も煤はく庵哉	26	冬	人事	煤払			
2336	梢から鳥見て居る煤拂ひ	26	冬	人事	煤払			
2337	煤の日や婆々はつれ立つ寺参り	26	冬	人事	煤払			
2338	煤掃て香たけ我は岡見せん	26	冬	人事	煤払			
2339	煤拂て金魚の池の曇り哉	26	冬	人事	煤払			

2340	煤拂のほこりに曇る伽藍哉	26	冬	人事	煤払			
2341	煤拂のほこりを逃て松の鶴	26	冬	人事	煤払			
2342	煤拂や竹ふりかさす物狂ひ	26	冬	人事	煤払			
2343	煤拂ひ鏡かくされし女哉	26	冬	人事	煤払			
2344	南無阿彌陀佛の煤も拂ひけり	26	冬	人事	煤払			
2345	鼻水の黒きもあはれ煤拂	26	冬	人事	煤払			
2346	煤拂に馬引出す小家哉	27	冬	人事	煤払			
2347	煤掃のほこりかぶりし荷馬かな	27	冬	人事	煤払			
2348	別當の廐の煤を拂ひけり	27	冬	人事	煤払			
2349	沖中のほこりや船の煤拂	28	冬	人事	煤払			
2350	煤拂ひ又古下駄の流れ来る	28	冬	人事	煤払			
2351	煤拂て蕪村の幅のかゝりけり	28	冬	人事	煤払			
2352	煤拂のこゝだけ許せ四疊半	28	冬	人事	煤払			
2353	煤拂のこゝは許せよ四疊半	28	冬	人事	煤払			
2354	煤拂の此間は許せ四疊半	28	冬	人事	煤払			
2355	煤拂の門をおとなふ女かな	28	冬	人事	煤払			
2356	煤拂や神も佛も草の上	28	冬	人事	煤払			
2357	煤はくとおぼしき船の埃かな	28	冬	人事	煤払			
2358	千年の煤もはらはず佛だち	28	冬	人事	煤払			
2359	大佛の雲もついでに煤拂ひ	28	冬	人事	煤払			
2360	佛壇に風呂敷かけて煤拂	28	冬	人事	煤払			
2361	冠の煤掃くこともなかりけり	29	冬	人事	煤払			
2362	煤掃いて樓に上れば川廣し	29	冬	人事	煤払			
2363	寝て聞くやあちらこちらの煤拂	29	冬	人事	煤払			
2364	一年の心の煤を拂はゞや	30	冬	人事	煤払			
2365	枯菊に煤掃き落す小窓哉	30	冬	人事	煤払			
2366	煤掃いて柱隠しの跡白し	30	冬	人事	煤払			
2367	煤掃の音はたとやむ晝餉哉	30	冬	人事	煤払			
2368	煤拂の音ひたとやむ晝餉哉	30	冬	人事	煤払			
2369	煤掃の過ぎて會あり芭蕉菴	30	冬	人事	煤払			
2370	煤掃の箒けたゝまし成らぬ戀	30	冬	人事	煤払			
2371	煤掃の日をふれまはる差配哉	30	冬	人事	煤払			
2372	煤掃や長持をぬく女業	30	冬	人事	煤払	ぬく < 臼 + 人 >		
2373	煤拂を申合せし長屋哉	30	冬	人事	煤払			
2374	長屋中申し合せて煤拂	30	冬	人事	煤払			
2375	長屋中申合せぬ煤掃ひ	30	冬	人事	煤払			

2376	ひそやかに煤掃く家や嵯峨の奥	30	冬	人事	煤払				
2377	病む人の佛間にこもる煤はらひ	30	冬	人事	煤払				
2378	煤掃や冠の箱籬の箱	31	冬	人事	煤払				
2379	煤拂の埃しづまる葉蘭哉	32	冬	人事	煤払				
2380	天井無き家中屋敷や煤拂	32	冬	人事	煤払				
2381	羅漢寺の佛の數や煤拂	33	冬	人事	煤払				
2382	年木樵重たくとても雪の枝	25	冬	人事	年木樵				
2383	淺茅生の小野の奥より年木樵	26	冬	人事	年木樵				
2384	むつかしや六十年の年木樵	26	冬	人事	年木樵				
2385	齒朶賣と竝んで出たり大原女	26	冬	人事	齒朶売				
2386	月の夜を思ひ出しけり年忘	25	冬	人事	年忘				
2387	吾妹子と二人ならんで年わすれ	25	冬	人事	年忘				
2388	一日は耳や塞が年わすれ	26	冬	人事	年忘				
2389	掛聲を何とすかさ年わすれ	26	冬	人事	年忘				
2390	風吹て酒さめやすし年わすれ	26	冬	人事	年忘				
2391	言の葉も枯れけり年の忘れ草	26	冬	人事	年忘				
2392	さらでだにましてや老の年忘	26	冬	人事	年忘				
2393	大臣の猶うとましや年忘れ	27	冬	人事	年忘				
2394	死にかけしこともありしか年忘れ	28	冬	人事	年忘				
2395	年忘れ折々猫の啼いて来る	28	冬	人事	年忘				
2396	我庭の年忘れ草枯れにけり	28	冬	人事	年忘				
2397	年忘橙剥いて酒酌まん	29	冬	人事	年忘				
2398	年忘酒泉の太守鼓打つ	30	冬	人事	年忘				
2399	大殿の笑ひ聞えつ年忘	31	冬	人事	年忘				
2400	耳遠く目うすし何を年忘	31	冬	人事	年忘				
2401	早稻田派の忘年會や神樂阪	31	冬	人事	年忘				
2402	年忘一斗の酒を盡しけり	32	冬	人事	年忘				
2403	眼鏡橋門松舟の着きにけり	28	冬	人事	門松売				
2404	寐て居れば松や松やと賣に来る	29	冬	人事	門松売				
2405	芋殻賣の門松賣に來りたり	29	冬	人事	門松売				
2406	竝べたる門松店や寺の前	31	冬	人事	門松売				
2407	はつかしや餅なき日に音たてん	26	冬	人事	餅搗				
2408	餅つきの隣へ遠し草の庵	26	冬	人事	餅搗				
2409	餅つきや亭主のすきな赤禪	26	冬	人事	餅搗				
2410	餅の音虚空にひゞく十萬戸	26	冬	人事	餅搗				
2411	餅をつく日から立けり口の春	26	冬	人事	餅搗				

2412	餅搗の烟にぎはふ城下かな	28	冬	人事	餅搗				
2413	餅を搗く音やお城の山かつら	29	冬	人事	餅搗				
2414	餅ついて春待顔の小猫かな	32	冬	人事	餅搗				
2415	粟餅も搗き海苔餅も搗きにけり	34	冬	人事	餅搗				
2416	四海波静かに餅の音高し	34	冬	人事	餅搗				
2417	病牀に聞くや夜明の餅の音	34	冬	人事	餅搗				
2418	百歳の春も隣や餅の音	34	冬	人事	餅搗				
2419	眼さますや日三竿に餅の音	34	冬	人事	餅搗				
2420	餅搗にあはず鐵道唱歌かな	34	冬	人事	餅搗				
2421	名物ノ餅ヲ搗キ居ルノドカサヨ	35	冬	人事	餅搗				
2422	餅切ると指切りし妹に胸さわぐ	30	冬	人事	餅				
2423	隣住む貧士に餅を分ちけり	35	冬	人事	餅				
2424	節季候の札の辻にて分れけり	25	冬	人事	節季候				
2425	節季候や五條をわたる足拍子	26	冬	人事	節季候				
2426	節季候を追はへてありくめのと哉	26	冬	人事	節季候				
2427	耳遠し節季候何と申やら	26	冬	人事	節季候				
2428	節季候の馬につれだつ小道かな	27	冬	人事	節季候				
2429	節季候の節季候を呼ぶ明家かな	27	冬	人事	節季候				
2430	掛乞の大街道となりけり	25	冬	人事	掛乞				
2431	掛乞の竹椽叩く烟管哉	25	冬	人事	掛乞				
2432	掛乞の帽子忘れし寒さ哉	25	冬	人事	掛乞				
2433	掛乞の闇の眞中走りけり	25	冬	人事	掛乞				
2434	掛乞に根岸の道を教へけり	26	冬	人事	掛乞				
2435	掛乞の月を見ずしてはしりけり	26	冬	人事	掛乞				
2436	掛乞を祈りかへすや小山伏	26	冬	人事	掛乞				
2437	掛乞の馬に蹴られし都かな	27	冬	人事	掛乞				
2438	大阪や掛乞だらけ橋だらけ	28	冬	人事	掛乞				
2439	掛乞の留守を叩くや竹の門	28	冬	人事	掛乞				
2440	また生きて借錢乞に叱らるゝ	29	冬	人事	掛乞				
2441	掛乞の曰く主人の曰くかな	34	冬	人事	掛乞				
2442	掛乞の乏しき掛や新世帯	34	冬	人事	掛乞				
2443	掛乞の二度来る除夜となりけり	34	冬	人事	掛乞				
2444	掛乞や京の女の親子連	34	冬	人事	掛乞				
2445	姥等とよ小町がはてをこれ見よや	26	冬	人事	姥等				
2446	傾城の紋は何紋衣配り	26	冬	人事	衣配				
2447	くそまりつ櫛けづりしつ年仕舞	26	冬	人事	年仕舞				

2448	西山へ年とりに行く一人かな	28	冬	人事	西山			
2449	君か代のことたま探る岡見哉	22	冬	人事	岡見			
2450	我家はかくれて見えぬ岡見哉	25	冬	人事	岡見			
2451	妹か家の我家に續く岡見哉	26	冬	人事	岡見			
2452	妹が家の我家へつゞく岡見哉	26	冬	人事	岡見			
2453	斥候の故郷望む岡見かな	27	冬	人事	岡見			
2454	深川や木更津舟の年籠	32	冬	人事	年籠			
2455	節分や親子の年の近うなる	25	冬	人事	追儼			
2456	節分やよむたびちがふ豆の數	25	冬	人事	追儼			
2457	にくらしき客に豆うつねらひ哉	25	冬	人事	追儼			
2458	大津画の鬼に豆うつねらひ哉	26	冬	人事	追儼			
2459	風吹て鬼逃げて行くけはひあり	26	冬	人事	追儼			
2460	乾鮭の頭めでたし鬼退治	33	冬	人事	追儼			
2461	柁をさす頼朝の心かな	25	冬	人事	柁挿す			
2462	柁さゝん津々浦々の阜頭の先	26	冬	人事	柁挿す			
2463	君が代や柁もさゝす二十年	27	冬	人事	柁挿す			
2464	二軒家のあるじを問へば厄拂	26	冬	人事	厄払			
2465	四十二の古ふんどしや厄落し	34	冬	人事	厄払			
2466	割木さげし寒稽古の人むれて行く	30	冬	人事	寒稽古			
2467	寒聲やかへりてあとは風の音	21	冬	人事	寒声			
2468	寒聲や誰れ石投げる石手川	25	冬	人事	寒声			
2469	きぬぎぬに寒聲きけは哀れ也	25	冬	人事	寒声			
2470	寒聲や一むれさわぐ鴨の聲	26	冬	人事	寒声			
2471	寒聲や横頬寒き小夜嵐	26	冬	人事	寒声			
2472	寒聲は寶生流の謠かな	30	冬	人事	寒声			
2473	寒聲や歌ふて戻る裏の町	32	冬	人事	寒声			
2474	寒こりや思ひきつたる老の顔	26	冬	人事	寒垢離			
2475	寒垢離や兄におくれて母一人	31	冬	人事	寒垢離			
2476	寒垢離や兄皆逝いて母一人	31	冬	人事	寒垢離			
2477	寒垢離の水を浴ひ居る月下哉	32	冬	人事	寒垢離			
2478	寒垢離の我影はしる月夜かな	33	冬	人事	寒垢離			
2479	寒垢離や兩國渡る鈴の音	33	冬	人事	寒垢離			
2480	寒垢離に逢ひける揚屋の戻りかな	34	冬	人事	寒垢離			
2481	寒垢離の黙って走る二人かな	34	冬	人事	寒垢離			
2482	寒垢離や信心堅き弟子大工	34	冬	人事	寒垢離			
2483	寒垢離や一人行き又一人行く	34	冬	人事	寒垢離			

2484	寒垢離や二人の童子目に見ゆる	34	冬	人事	寒垢離			
2485	寒垢離や不動の火焰氷る夜に	34	冬	人事	寒垢離			
2486	あの中に鬼やまじらん寒念佛	26	冬	人事	寒念佛			
2487	風吹てもものすごき夜を寒念佛	26	冬	人事	寒念佛			
2488	寒念佛京は嵐の夜なりけり	26	冬	人事	寒念佛			
2489	鳥部野にかゝる聲なり寒念佛	26	冬	人事	寒念佛			
2490	寒念佛に行きあたりけり寒念佛	28	冬	人事	寒念佛			
2491	通るなり又寒念佛五六人	28	冬	人事	寒念佛			
2492	念佛に紛らして居る寒さ哉	29	冬	人事	寒念佛			
2493	移し植ゑて霜よけしたる芭蕉哉	31	冬	人事	霜除			
2494	おちぶれて霜も防がぬ牡丹哉	31	冬	人事	霜除			
2495	霜掩ひ蘇鐵は泣かずなりにけり	31	冬	人事	霜除			
2496	霜早き根岸の庭や霜掩ひ	31	冬	人事	霜除			
2497	霜よけの笹に風吹く畠哉	31	冬	人事	霜除			
2498	霜よけや牡丹の花の一つ咲く	31	冬	人事	霜除			
2499	神前の橘の木に霜よけす	31	冬	人事	霜除			
2500	たらちねの遺愛の蜜柑霜よけす	31	冬	人事	霜除			
2501	何の木ぞ霜よけしたる塀の内	31	冬	人事	霜除			
2502	牡丹ありし處なるべし霜掩ひ	31	冬	人事	霜除			
2503	丁寧に霜よけしたる蘇鐵かな	32	冬	人事	霜除			
2504	小松菜に霜よけしたる畠かな	34	冬	人事	霜除			
2505	舶來の大事の木なり霜掩ひ	34	冬	人事	霜除			
2506	庵破れて冬構へすべくあらぬかな	27	冬	人事	冬構			
2507	藁垣の菜畑めぐるや冬構	27	冬	人事	冬構			
2508	藁垣に菜畑かこふや冬構	27	冬	人事	冬構			
2509	藁垣の菜畑めぐりぬ冬構	27	冬	人事	冬構			
2510	藁掛けて風防ぐなり冬構	27	冬	人事	冬構			
2511	藁掛けて冬構へたり一つ家	27	冬	人事	冬構			
2512	内庭に割木つみたり冬構	29	冬	人事	冬構			
2513	ガラス戸や暖爐や庵の冬構	33	冬	人事	冬構			
2514	檜の木に取りまかれけり冬住居	29	冬	人事	冬住い			
2515	日にうとき檜の木原や冬住居	29	冬	人事	冬住い			
2516	本所區に編入されぬ冬住居	31	冬	人事	冬住い			
2517	朝晴や雲こしらへる爐の煙	25	冬	人事	炉			
2518	一つかみづゝ爐にくべるもみち哉	25	冬	人事	炉			
2519	爐開きや藁はいづこの椽の下	26	冬	人事	炉開			

2520	爐開きや越の古蓑木曾の笠	26	冬	人事	炉開				
2521	爐開きや猫の居所も一人前	26	冬	人事	炉開				
2522	爐開いて僧呼び入るゝ遊女かな	27	冬	人事	炉開				
2523	爐開きや炭も櫻の歸り花	27	冬	人事	炉開				
2524	爐開や叔父の法師の参られぬ	28	冬	人事	炉開				
2525	爐開や我に出家の心あり	29	冬	人事	炉開				
2526	爐開や赤松子われを待ち盡す	30	冬	人事	炉開				
2527	離れ家に爐開早し老一人	31	冬	人事	炉開				
2528	爐開て殘菊いけし一人哉	31	冬	人事	炉開				
2529	爐開の藁灰分つ隣かな	31	冬	人事	炉開				
2530	爐開や厠に近き四疊半	31	冬	人事	炉開				
2531	爐開や故人を會すふき膾	31	冬	人事	炉開				
2532	爐開や細君老いて針仕事	31	冬	人事	炉開				
2533	爐開に一日雇ふ大工哉	32	冬	人事	炉開				
2534	口切やあくびしに出る廊下口	26	冬	人事	口切				
2535	何もかもすみて巨燵に年暮るゝ	20	冬	人事	炬燵				
2536	雪の日や巨燵の上に眠る猫	23	冬	人事	炬燵				
2537	撰集の沙汰にくれたる巨燵哉	25	冬	人事	炬燵				
2538	兒の手を皸手に握る火燵哉	25	冬	人事	炬燵				
2539	猫老て鼠もとらず置火燵	25	冬	人事	炬燵				
2540	貧乏は掛乞も來ぬ火燵哉	25	冬	人事	炬燵				
2541	妹なくて向ひ淋しき巨燵哉	26	冬	人事	炬燵				
2542	首入れて巨燵に雪を聞く夜哉	26	冬	人事	炬燵				
2543	首入れて巨燵をまぜる女哉	26	冬	人事	炬燵				
2544	筆いれて搔き探したる巨燵哉	26	冬	人事	炬燵				
2545	いくさから便とゞきし巨燵かな	27	冬	人事	炬燵				
2546	巨燵して語れ眞田が冬の陣	27	冬	人事	炬燵				
2547	人足らぬ巨燵を見ても涙かな	27	冬	人事	炬燵				
2548	夜の雨晝の嵐や置巨燵	27	冬	人事	炬燵				
2549	われは巨燵君は行脚の姿かな	27	冬	人事	炬燵				
2550	老はものゝ戀にもうとし置火燵	28	冬	人事	炬燵				
2551	かりそめの苦説にすねる巨燵哉	28	冬	人事	炬燵				
2552	巨燵から見ゆるや橋の人通り	28	冬	人事	炬燵				
2553	丁稚叱る身は無精さの巨燵哉	28	冬	人事	炬燵				
2554	何はなくと巨燵一つを参らせん	28	冬	人事	炬燵				
2555	縫物の背中にしたる巨燵哉	28	冬	人事	炬燵				

2556	人もなし巨燵の上の草雙紙	28	冬	人事	炬燵			
2557	晝中の傾城寐たるこたつ哉	28	冬	人事	炬燵			
2558	風呂敷を掛けたる晝の巨燵かな	28	冬	人事	炬燵			
2559	みちのくの旅籠屋さびて巨燵哉	28	冬	人事	炬燵			
2560	子を抱いて巨燵に凧を揚げる人	29	冬	人事	炬燵			
2561	忍ぶかと巨燵の猫に問はれけり	29	冬	人事	炬燵			
2562	趙飛燕巨燵の上に舞はせばや	29	冬	人事	炬燵			
2563	竝べけり火燵の上の小人形	29	冬	人事	炬燵			
2564	婆々さまの話上手なこたつ哉	29	冬	人事	炬燵			
2565	晩飯と治兵衛を起す巨燵哉	29	冬	人事	炬燵			
2566	引きあふて火燵の上で泣かすなよ	29	冬	人事	炬燵			
2567	人老いぬ巨燵を本の置處	29	冬	人事	炬燵			
2568	我術の空中樓閣置巨燵	29	冬	人事	炬燵			
2569	わびしさや巨燵にのばす足のたけ	29	冬	人事	炬燵			
2570	繪草紙に身の上を泣く巨燵哉	29	冬	人事	炬燵			
2571	男の童と女の童と遊ぶ巨燵哉	29	冬	人事	炬燵			
2572	故郷の巨燵を思ふ峠かな	30	冬	人事	炬燵			
2573	巨燵あけて蓋のしてある矢倉哉	31	冬	人事	炬燵			
2574	置火燵雪の兎は解にけり	32	冬	人事	炬燵			
2575	残る鴨何番の花置火燵	32	冬	人事	炬燵			
2576	荷しまひや火燵のそはの夏衣	33	冬	人事	炬燵			
2577	佛壇も火燵もあるや四疊半	33	冬	人事	炬燵			
2578	大佛の禁に寐たる湯婆哉	27	冬	人事	たんぽ			
2579	傾城のひとり寝ねたる湯婆哉	28	冬	人事	たんぽ			
2580	舟に寐る遊女の足の湯婆哉	28	冬	人事	たんぽ			
2581	ある時は手もとへよせる湯婆哉	29	冬	人事	たんぽ			
2582	冷え盡す湯婆に足をちゞめけり	29	冬	人事	たんぽ			
2583	永襄を載き足に湯婆を踏む	29	冬	人事	たんぽ			
2584	古湯婆形海鼠に似申すよ	29	冬	人事	たんぽ			
2585	古庭や月に湯婆の湯をこぼす	29	冬	人事	たんぽ			
2586	碧梧桐のわれをいたはる湯婆哉	29	冬	人事	たんぽ			
2587	目さむるや湯婆わつかに暖かき	29	冬	人事	たんぽ			
2588	胃痛やんで足のばしたる湯婆哉	29	冬	人事	たんぽ			
2589	ひとり言ぬるき湯婆をかゝえけり	31	冬	人事	たんぽ			
2590	遼東の夢見てさめる湯婆哉	31	冬	人事	たんぽ			
2591	祝宴に湯婆かゝへて参りけり	32	冬	人事	たんぽ			

2592	湯婆燈爐あたゝかき部屋の讀書哉	32	冬	人事	たんぽ			
2593	湯婆燈爐臥床暖かに讀書かな	32	冬	人事	たんぽ			
2594	湯婆燈爐室あたゝかに讀書哉	32	冬	人事	たんぽ			
2595	ある時は背中へ入れる懐爐哉	29	冬	人事	懐炉			
2596	三十にして我老いし懐爐哉	29	冬	人事	懐炉			
2597	爐のふちに懐爐の灰をはたきけり	32	冬	人事	懐炉			
2598	懐爐冷えて上野の闇を戻りけり	34	冬	人事	懐炉			
2599	芝居見や懐爐入れたる腹の冷	34	冬	人事	懐炉			
2600	野の茶屋に懐爐の灰をかへにけり	34	冬	人事	懐炉			
2601	びろうどの青きを好む懐爐かな	34	冬	人事	懐炉			
2602	腹稿を暖めて居る懐爐かな	34	冬	人事	懐炉			
2603	ストーヴに濡れたる靴の裏をあぶる	30	冬	人事	暖炉			
2604	消燈の鐘鳴り渡る暖爐かな	30	冬	人事	暖炉			
2605	つきづきしからぬもの日本の家に暖爐	30	冬	人事	暖炉			
2606	暖爐据ゑて冬暖き日なりけり	33	冬	人事	暖炉			
2607	暖爐焚くや玻璃窓外の風の松	34	冬	人事	暖炉			
2608	病床の位置を變へたる暖爐かな	34	冬	人事	暖炉			
2609	暖爐たく部屋暖にふく壽草	35	冬	人事	暖炉			
2610	暖爐タクヤ雪粉々トシテガラス窓	35	冬	人事	暖炉			
2611	俊成の撫でへらしたり桐火桶	25	冬	人事	火桶			
2612	穂薄になでへらされし火桶哉	25	冬	人事	火桶			
2613	いたいけに童の運ぶ火桶哉	26	冬	人事	火桶			
2614	今一つ背にもほしき火桶哉	26	冬	人事	火桶			
2615	俊成のなでへらしけり桐火桶	26	冬	人事	火桶			
2616	鳳凰の夢や見るらん桐火桶	26	冬	人事	火桶			
2617	拜領の錦張りたる火桶かな	27	冬	人事	火桶			
2618	繪屏風の倒れかゝりし火桶かな	27	冬	人事	火桶			
2619	化物に似てをかしさよ古火桶	28	冬	人事	火桶			
2620	火桶張る昔女の白髪かな	28	冬	人事	火桶			
2621	文机の向きや火桶の置き處	28	冬	人事	火桶			
2622	いもあらばいも焼かうもの古火桶	29	冬	人事	火桶			
2623	太平記火桶に袖をこがしけり	29	冬	人事	火桶			
2624	火桶張る姫そ見ゆる岡の家	30	冬	人事	火桶			
2625	火桶張る姫一人や岡の家	30	冬	人事	火桶			
2626	撫でゝ見て又なでゝ見る火鉢哉	20	冬	人事	火鉢			
2627	雪院へ火鉢もて行く寒さ哉	24	冬	人事	火鉢			

2628	手の皺を引きのばし見る火鉢哉	25	冬	人事	火鉢				
2629	關守の鞆丸あふる火鉢哉	26	冬	人事	火鉢				
2630	番小屋に晝は人なき火鉢哉	26	冬	人事	火鉢				
2631	我戀は火鉢の消えし恨みかな	26	冬	人事	火鉢				
2632	傾城の足音更ける火鉢哉	27	冬	人事	火鉢				
2633	とりまくや殿居する夜の大火鉢	27	冬	人事	火鉢				
2634	古寺に火鉢大きし臺處	27	冬	人事	火鉢				
2635	丁稚叱る身は無精さの火鉢哉	28	冬	人事	火鉢				
2636	醫師の宅や火鉢に知らぬ人と對す	30	冬	人事	火鉢				
2637	いもの皮のくすぶりにて居る火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2638	小説の趣向つゞまらぬ火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2639	小説の趣向になやむ火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2640	道場の隅に火のなき火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2641	煙草盡きて酒さめぬ獨り火鉢に倚る	30	冬	人事	火鉢				
2642	丈八のお駒をなぶる火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2643	丈八の才三をしかる火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2644	手習の手凍え火鉢の火消えたる	30	冬	人事	火鉢				
2645	法律の議論はじまる火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2646	火鉢抱いて灰まぜて石を探り得たる	30	冬	人事	火鉢				
2647	火鉢抱て灰まぜて石を探り得つ	30	冬	人事	火鉢				
2648	火鉢の火消えて何やら思ふかな	30	冬	人事	火鉢				
2649	火鉢二つ二つとも缺けて客來らず	30	冬	人事	火鉢				
2650	寶生の觀世のゝしる火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2651	もの神の火鉢の上にあらはれし	30	冬	人事	火鉢				
2652	わびしさは炭團いけたる火鉢哉	30	冬	人事	火鉢				
2653	火消えて堅炭残る火鉢哉	31	冬	人事	火鉢				
2654	火鉢火なし手をひつこめる餘寒哉	32	冬	人事	火鉢				
2655	菓子箱をさし出したる火鉢哉	33	冬	人事	火鉢				
2656	煎餅かんで俳句を談す火鉢哉	33	冬	人事	火鉢				
2657	鼠追ふて餅盗みくる火鉢哉	33	冬	人事	火鉢				
2658	蒲團著て手をあぶり居る火鉢哉	33	冬	人事	火鉢				
2659	關守の木の葉燃やすや猫火鉢	28	冬	人事	猫火鉢				
2660	炭の香も茶の香もとむや四疊半	21	冬	人事	炭				
2661	山を抜く手にて起せし炭火哉	23	冬	人事	炭				
2662	奥山の木の葉もまじる粉炭哉	26	冬	人事	炭				
2663	水仙にはたきかけたる粉炭かな	26	冬	人事	炭				

2664	炭はねて更けゆく夜の静か也	26	冬	人事	炭				
2665	猿殿の小便くさいいぶり炭	27	冬	人事	炭				
2666	鋸に炭切る妹の手ぞ黒き	28	冬	人事	炭				
2667	やゝもすれば堅炭の火の消えんとす	29	冬	人事	炭				
2668	炭はねて待人遅し鼠鳴く	30	冬	人事	炭				
2669	來山は消し炭淡々はいぶり炭	30	冬	人事	炭				
2670	油買ふて炭買ふことを忘れたり	31	冬	人事	炭				
2671	炭積んで白河下る荷汽車哉	31	冬	人事	炭				
2672	炭取の粉炭をはたく埃り哉	31	冬	人事	炭				
2673	炭取の炭にまじりぬ齒朶の屑	31	冬	人事	炭				
2674	炭はねて七堂伽藍灰となりぬ	31	冬	人事	炭				
2675	炭はねて始まらんとする茶の湯哉	31	冬	人事	炭				
2676	炭はねて眼をしばたゝく泪哉	31	冬	人事	炭				
2677	其炭の火より炭屋の焼けにけり	31	冬	人事	炭				
2678	いもの皮のいぶりて炭の冤に坐す	33	冬	人事	炭				
2679	書の上に取り落したる炭團哉	26	冬	人事	炭團				
2680	玉賣りて炭團にわびる住居哉	26	冬	人事	炭團				
2681	眞黒な手鞠出てくる炭團哉	26	冬	人事	炭團				
2682	米盡きて炭團たくはふ俵かな	28	冬	人事	炭團				
2683	むつかしく炭團に炭をつぎかけし	31	冬	人事	炭團				
2684	炭竈に雀のならぶぬくみかな	25	冬	人事	炭竈				
2685	炭竈に哀れ蚊遣の煙かな	26	冬	人事	炭竈				
2686	火の絶えし小野の炭竈小夜嵐	27	冬	人事	炭竈				
2687	松伐つて月炭竈に上りけり	28	冬	人事	炭竈				
2688	炭賣のつりあひわるき片荷かな	25	冬	人事	炭売				
2689	湯の山や炭賣歸る宵月夜	25	冬	人事	炭売				
2690	炭賣の歸りは輕し二貫文	26	冬	人事	炭売				
2691	荷は置て炭賣見えず寺の門	26	冬	人事	炭売				
2692	炭賣の休むか粉炭石の上	27	冬	人事	炭売				
2693	炭賣の休むか石に粉炭かな	27	冬	人事	炭売				
2694	名處の炭賣黒く生れける	28	冬	人事	炭売				
2695	炭賣にかへてとらする小魚哉	29	冬	人事	炭売				
2696	一冬や簀の子の下の炭俵	26	冬	人事	炭俵				
2697	木の葉やく寺のうしろや普請小屋	25	冬	人事	焚火				
2698	埋火や隣の咄聞てゐる	24	冬	人事	埋火				
2699	埋火の火入に黒きしくれ哉	26	冬	人事	埋火				

2700	埋火の夢やはかなき事許り	26	冬	人事	埋火			
2701	埋火や木曾に旅寐の相撲取	26	冬	人事	埋火			
2702	只一つ星か螢か埋み火か	26	冬	人事	埋火			
2703	おらが在所は埋火の名所哉	27	冬	人事	埋火			
2704	埋火や斗酒を藏して我を俟つ	28	冬	人事	埋火			
2705	面白う埋火更けぬ維摩経	28	冬	人事	埋火			
2706	埋火に恨みしそれも昔なり	29	冬	人事	埋火			
2707	埋火やほのかにうつる人の顔	29	冬	人事	埋火			
2708	埋火や溢茶出流れて猫睡る	30	冬	人事	埋火			
2709	埋火の側に老い行く獵男哉	31	冬	人事	埋火			
2710	埋火や青墓道の一軒家	35	冬	人事	埋火			
2711	埋火や掻きさがしたる後の夢	35	冬	人事	埋火			
2712	埋火や火を警むる秣小屋	35	冬	人事	埋火			
2713	とにかくにをかしき冬の扇哉	26	冬	人事	冬の扇			
2714	かり人のつゝを落とすや鳥の聲	23	冬	人事	獵			
2715	盜人に似た獵師也夜興曳	25	冬	人事	夜興引			
2716	夜興引や寺のうしろの律道	26	冬	人事	夜興引			
2717	有明やかけ橋戻る夜興引	27	冬	人事	夜興引			
2718	夜興引や犬心得て山の道	29	冬	人事	夜興引			
2719	夜興引の犬を吠えけり寺の犬	31	冬	人事	夜興引			
2720	夜まわりのよろつく朝や川の岸	21	冬	人事	夜番			
2721	夜まわりのよろつくまへに夜の駕	21	冬	人事	夜番			
2722	雨の夜や動きもやらず網代守	26	冬	人事	網代守			
2723	曉や凍えも死なで網代守	28	冬	人事	網代守			
2724	ながらへて八十になりぬ網代守	28	冬	人事	網代守			
2725	ながらへて八十路になりぬ網代守	28	冬	人事	網代守			
2726	雪車引て笹原歸る月夜かな	26	冬	人事	橇			
2727	引きすてた雪車に来て寐る小犬哉	26	冬	人事	橇			
2728	貧しけれど雪車と雪沓と馬二匹	30	冬	人事	橇			
2729	雪車歌の聞ゆる谷や雪車見ゆる	34	冬	人事	橇			
2730	雪車下りてかじきをつける麓かな	34	冬	人事	橇			
2731	雪車引いて入る町中や雪淺し	34	冬	人事	橇			
2732	雪車引いて醫師を載せて戻りけり	34	冬	人事	橇			
2733	雪車引いて立ちどまりたる話かな	34	冬	人事	橇			
2734	雪車道や童の雪車も引き出でぬ	34	冬	人事	橇			
2735	大木を載せたる雪車のにりかな	34	冬	人事	橇			

2736	雪沓も脱がで爐邊の話かな	34	冬	人事	雪沓				
2737	雪沓や雪無き町に這入りけり	34	冬	人事	雪沓				
2738	寒燈明滅小僧すよすよと寐入りけり	29	冬	人事	寒燈				
2739	寒燈明滅小僧すよすよと眠りけり	29	冬	人事	寒燈				
2740	火事の鐘に雨戸あくれば月夜哉	30	冬	人事	火事				
2741	水に映る火事は堀端通り哉	30	冬	人事	火事				
2742	森の上に江戸の火事見ゆ夜の曇り	30	冬	人事	火事				
2743	火事の鐘雨戸あくれば月夜哉	31	冬	人事	火事				
2744	會更けて遠火事を見る歸りかな	34	冬	人事	火事				
2745	小説を書く夜も更けて火事の鐘	34	冬	人事	火事				
2746	遠火事を見つゝ下りけり九段坂	34	冬	人事	火事				
2747	水鼻にわひて山家のもみち哉	24	冬	人事	水洩				
2748	水鼻に旅順を語る老女かな	27	冬	人事	水洩				
2749	洩のせんかたもなく喪に籠る	30	冬	人事	水洩				
2750	おちぶれて人霜やけにわぶるかな	28	冬	人事	霜焼				
2751	霜やけや娘の指のおそろしき	28	冬	人事	霜焼				
2752	霜やけや武士の娘の水仕事	32	冬	人事	霜焼				
2753	霜やけの手より熬豆こぼしけり	34	冬	人事	霜焼				
2754	あかゞりを吹きうづめたる吹雪哉	25	冬	人事	鞆				
2755	あかゞりのわれる夜半や霜の鐘	26	冬	人事	鞆				
2756	あかゞりや京に生れて京の水	26	冬	人事	鞆				
2757	あかゞりや同居居は去年の夢	26	冬	人事	鞆				
2758	あかゞりやまだ新嫁のきのふけふ	26	冬	人事	鞆				
2759	あかきれやまた新嫁のきのふけふ	26	冬	人事	鞆				
2760	あかゞりや傾城老いて上根岸	28	冬	人事	鞆				
2761	姑やあかゞりの手の恐ろしき	28	冬	人事	鞆				
2762	あかゞりに油ぬりつゝ待つ夜哉	29	冬	人事	鞆				
2763	あかゞりの手をいたわりて泣く夜哉	30	冬	人事	鞆				
2764	鞆や母の看護の二十年	34	冬	人事	鞆				
2765	鞆や貧に育ちし姉娘	34	冬	人事	鞆				
2766	胼多き鞆多き手足かな	28	冬	人事	胼				
2767	勘當の胼なき足をいとしかる	30	冬	人事	胼				
2768	ひゞの顔にリスリンを多くなすりたる	30	冬	人事	胼				
2769	胼の手を引き隠したるはれ著哉	32	冬	人事	胼				
2770	胼の手に團扇もつ日を数へけり	33	冬	人事	胼				
2771	引抜た手に霜残る大根哉	25	冬	人事	大根引				

2772	大根引く音聞きに出ん夕月夜	26	冬	人事	大根引				
2773	練馬道大根引くべき日和哉	26	冬	人事	大根引				
2774	大根引く歌こそあらめ三河嶋	27	冬	人事	大根引				
2775	蕪引く妻もあるらん大根引	31	冬	人事	大根引				
2776	捷報の來し朝なり大根曳	31	冬	人事	大根引				
2777	大根引て葱淋しき畠哉	31	冬	人事	大根引				
2778	大根引て葱畠は荒れにけり	31	冬	人事	大根引				
2779	大根引く畑にそふて吟行す	31	冬	人事	大根引				
2780	大根引く畑にそふて散歩哉	31	冬	人事	大根引				
2781	門前の大根引くなり村役場	31	冬	人事	大根引				
2782	大根引くあとや蕪引く拍子ぬけ	32	冬	人事	大根引				
2783	子を負ふて大根干し居る女かな	27	冬	人事	大根干				
2784	日暮や大根掛けたる格子窓	27	冬	人事	大根干				
2785	若き尼紅梅の枝に大根干す	30	冬	人事	大根干				
2786	椽側に切干切るや繪師か妻	31	冬	人事	大根干				
2787	大根干す檐の日向や鶉の籠	32	冬	人事	大根干				
2788	よつ引てひようとぞ放す大蕪	26	冬	人事	蕪引く				
2789	よつ引てひやうとぞはなす大蕪	26	冬	人事	蕪引く				
2790	此頃は蕪引くらん天王寺	29	冬	人事	蕪引く				
2791	女どもの赤き蕪を引いて居る	29	冬	人事	蕪引く				
2792	蕪引て緋の蕪ばかり残りけり	31	冬	人事	蕪引く				
2793	故郷や蕪引く頃墓參	32	冬	人事	蕪引く				
2794	泥ともに堀出されたる蓮根かな	27	冬	人事	蓮根掘る				
2795	麥蒔た顔つきもせす二百人	25	冬	人事	麥蒔				
2796	麥蒔やたばねあげたる桑の枝	25	冬	人事	麥蒔				
2797	奈良阪や昔男の麥を蒔く	26	冬	人事	麥蒔				
2798	麥蒔くや男に似たる婆一人	26	冬	人事	麥蒔				
2799	麥を蒔く束髪娘京近し	26	冬	人事	麥蒔				
2800	名處の麥蒔くまでに古りにけり	27	冬	人事	麥蒔				
2801	麥まくやたばねあげたる桑の枝	27	冬	人事	麥蒔				
2802	麥蒔や色の黒キは娘なり	28	冬	人事	麥蒔				
2803	麥蒔や北砥部山の麓まで	28	冬	人事	麥蒔				
2804	麥蒔の赤ごしまきは娘かも	29	冬	人事	麥蒔				
2805	畑少し麥蒔いてある森の中	30	冬	人事	麥蒔				
2806	麥を蒔く畑に出でゝ吟行す	31	冬	人事	麥蒔				
2807	麥を蒔く畑に出でゝ散歩哉	31	冬	人事	麥蒔				

2808	麥を蒔く畑にそふて吟行す	31	冬	人事	麦蒔				
2809	麥を蒔く畑にそふて散歩哉	31	冬	人事	麦蒔				
2810	豆の如き人皆麥を蒔くならし	33	冬	人事	麦蒔				
2811	麥蒔の村を過ぎ行く寫生哉	33	冬	人事	麦蒔				
2812	麥を蒔く花咲爺の子孫哉	33	冬	人事	麦蒔				
2813	でんち著て狸の如き把栗かな	33	冬	人事	でんち				
2814	どてら著て長脇指の素足哉	30	冬	人事	どてら				
2815	外套の新しきズボンの穴を掩ひたる	30	冬	人事	外套				
2816	外套の剥げて遼東より歸る	30	冬	人事	外套				
2817	外套を着かねつ客のかゝへ去る	30	冬	人事	外套				
2818	外套を着かねつ客のかゝへ走る	30	冬	人事	外套				
2819	手と足に蒲團引きあふ宿屋哉	25	冬	人事	蒲團				
2820	重ねても軽きが上の薄蒲團	26	冬	人事	蒲團				
2821	傾城は瘦せて小さき蒲團哉	26	冬	人事	蒲團				
2822	こしらへて見るや蒲團の東山	26	冬	人事	蒲團				
2823	寒さうに母の寐給ふ蒲團哉	26	冬	人事	蒲團				
2824	毛蒲團の上を走るや大鼠	27	冬	人事	蒲團				
2825	灯を消せば蒲團走るや大鼠	27	冬	人事	蒲團				
2826	ものゝ香のゆかしや旅の薄蒲團	27	冬	人事	蒲團				
2827	短さに蒲團を引けば猫の聲	28	冬	人事	蒲團				
2828	薄蒲團十三錢の旅籠哉	29	冬	人事	蒲團				
2829	寄宿舍の窓にきたなき蒲團哉	29	冬	人事	蒲團				
2830	詩腸枯れて病骨を護す蒲團哉	29	冬	人事	蒲團				
2831	縮緬の紫さめし蒲團かな	29	冬	人事	蒲團				
2832	夢さめて木曾の宿屋よ薄蒲團	29	冬	人事	蒲團				
2833	わびしさや蒲團にのばす足のたけ	29	冬	人事	蒲團				
2834	兄弟の子が喧嘩する蒲團哉	30	冬	人事	蒲團				
2835	木瓜の紋なつかしき蒲團哉	30	冬	人事	蒲團				
2836	狼に引かぶりたる蒲團哉	31	冬	人事	蒲團				
2837	襟寒き絹の蒲團や銀襖	32	冬	人事	蒲團				
2838	著馴れたる蒲團や菊の古模様	32	冬	人事	蒲團				
2839	人を囓む鼠出でけり薄蒲團	33	冬	人事	蒲團				
2840	筆かりて旅の記を書く蒲團哉	33	冬	人事	蒲團				
2841	縮緬の紫さめし衾かな	29	冬	人事	衾				
2842	天竺の案内をせよ古衾	26	冬	人事	衾				
2843	御姿は夢見たまへる衾かな	30	冬	人事	衾				

2844	襟巻に顔包みたる車上かな	30	冬	人事	衿巻				
2845	縮緬の衿巻臘虎の帽子かな	30	冬	人事	衿巻				
2846	駐車場の椅子に衿巻を忘れしよ	30	冬	人事	衿巻				
2847	世の中を紙衣一つの軽さかな	25	冬	人事	紙衣				
2848	嵐雪の其角におくる紙衣哉	25	冬	人事	紙衣				
2849	つき人に見せし紙衣の袖の皺	26	冬	人事	紙衣				
2850	紙衣きて手製の納豆味甘し	26	冬	人事	紙衣				
2851	傾城の泪にやれし紙衣かな	26	冬	人事	紙衣				
2852	尻やふかん紙衣やぬはん夷紙	26	冬	人事	紙衣				
2853	千早ふる紙衣久しき命かな	26	冬	人事	紙衣				
2854	傳へ來て陶淵明の紙衣哉	26	冬	人事	紙衣				
2855	俳諧のはらわた見せる紙衣かな	26	冬	人事	紙衣				
2856	本を手に牛ひく人の紙衣哉	26	冬	人事	紙衣				
2857	飼犬に袖ひかれたる紙衣哉	27	冬	人事	紙衣				
2858	紙衣着て藪陰戻る月夜かな	27	冬	人事	紙衣				
2859	鐘つきの雲に濡れたる紙子哉	28	冬	人事	紙衣				
2860	子鼠の尿かけたる紙子哉	28	冬	人事	紙衣				
2861	子鼠の尿して行く紙子哉	28	冬	人事	紙衣				
2862	おもしろや紙衣著ずにすむ世也	29	冬	人事	紙衣				
2863	紙衣著て出づれば我に星落る	29	冬	人事	紙衣				
2864	紙衣著て河豚くふたる顔もせず	29	冬	人事	紙衣				
2865	亡き親に我はづかしき紙衣かな	29	冬	人事	紙衣				
2866	古紙衣源内殿でござらぬか	29	冬	人事	紙衣				
2867	若君の紙衣姿ぞいたはしき	29	冬	人事	紙衣				
2868	柴垣に紙衣干したる小家哉	30	冬	人事	紙衣				
2869	隠居していけ花習ふ紙衣哉	32	冬	人事	紙衣				
2870	弟に店を任せて紙衣哉	32	冬	人事	紙衣				
2871	味噌汁を膝にこぼせし紙衣哉	32	冬	人事	紙衣				
2872	世の中を厭ひもはてぬ紙衣哉	32	冬	人事	紙衣				
2873	絹布著て上に紙衣の羽織かな	34	冬	人事	紙衣				
2874	絲赤く手袋の破れつくるひし	30	冬	人事	手袋				
2875	汽車の切符買はんとして手袋脱げざる	30	冬	人事	手袋				
2876	手袋の左許りなりにける	30	冬	人事	手袋				
2877	手袋に銀貨を捜るかくしかな	34	冬	人事	手袋				
2878	手袋に手を引く兒の歩行かざる	34	冬	人事	手袋				
2879	手袋の編みさしてある病かな	34	冬	人事	手袋				

2880	身の上を足袋にやつれし女哉	25	冬	人事	足袋				
2881	菊枯て垣に足袋干す日和哉	26	冬	人事	足袋				
2882	律僧の紺足袋穿つ掃除かな	26	冬	人事	足袋				
2883	無精さや蒲團の中で足袋をぬぐ	28	冬	人事	足袋				
2884	あちら向き古足袋さして居る妻よ	29	冬	人事	足袋				
2885	君來まさんと思ひがけねば汚れ足袋	29	冬	人事	足袋				
2886	足袋ぬいであかゞり見るや夜半の鐘	29	冬	人事	足袋				
2887	足袋ぬいであかゞり見れば夜半の鐘	29	冬	人事	足袋				
2888	冬服の胸あひかぬる古着哉	30	冬	人事	冬服				
2889	四角なる冬帽に今や歸省かな	30	冬	人事	冬帽				
2890	地震て冬帽動く柱かな	30	冬	人事	冬帽				
2891	冬帽の十年にして猶屬吏なり	30	冬	人事	冬帽				
2892	冬帽の我土耳其といふを愛す	30	冬	人事	冬帽				
2893	買ふて來た冬帽の氣に入らぬ也	32	冬	人事	冬帽				
2894	頭巾きて老とよばれん初しくれ	24	冬	人事	頭巾				
2895	此度は嫁にぬはせじ角頭巾	25	冬	人事	頭巾				
2896	月花にはげた頭や古頭巾	25	冬	人事	頭巾				
2897	市中に落ちあふ妻の頭巾哉	26	冬	人事	頭巾				
2898	風吹て惠方参りの頭巾哉	26	冬	人事	頭巾				
2899	氣安さは頭巾を老の仇名にて	26	冬	人事	頭巾				
2900	茶の花をかざゞばいかに丸頭巾	26	冬	人事	頭巾				
2901	頭巾着て人大黒に似たる哉	26	冬	人事	頭巾				
2902	頭巾着て飯くふ迄に老いにけり	26	冬	人事	頭巾				
2903	頭巾ぬげば皆坊主でもなかりけり	27	冬	人事	頭巾				
2904	赤頭巾人甘んじて老いけらし	28	冬	人事	頭巾				
2905	兜着たことは昔に頭巾かな	28	冬	人事	頭巾				
2906	すれ違ひ又ふりかへる頭巾かな	28	冬	人事	頭巾				
2907	頭巾着て人と話すや橋の上	28	冬	人事	頭巾				
2908	頭巾着て女に似たる男かな	28	冬	人事	頭巾				
2909	薙刀に焚火のうつる頭巾かな	28	冬	人事	頭巾				
2910	我親に似てをかしさよ古頭巾	28	冬	人事	頭巾				
2911	ある人の頭巾姿を見そめたり	29	冬	人事	頭巾				
2912	紙ぎれに小錢を包む頭巾かな	29	冬	人事	頭巾				
2913	僧正の頭巾かぶりぬ市の月	29	冬	人事	頭巾				
2914	頭巾著て人行かふや山の道	29	冬	人事	頭巾				
2915	頭巾着て平家を語る法師哉	29	冬	人事	頭巾				

2916	頭巾脱いで名のりかけたるかたき哉	29	冬	人事	頭巾				
2917	いとし子に赤き頭巾を冠せたる	30	冬	人事	頭巾				
2918	かたき討つて頭剃りたる頭巾哉	30	冬	人事	頭巾				
2919	頭巾着て温鈍くひ居る男哉	30	冬	人事	頭巾				
2920	あしらへば善く笑ふ子や赤頭巾	31	冬	人事	頭巾				
2921	言はんとして頭巾正しぬト師	31	冬	人事	頭巾				
2922	打ちまじり同じ頭巾や村夫子	31	冬	人事	頭巾				
2923	恰好な古き頭巾を買ひ得たり	31	冬	人事	頭巾				
2924	かならずや頭巾めさるゝ祖翁の画	31	冬	人事	頭巾				
2925	かぶりそめて人に見らるゝ頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2926	舊惡の形更へたる頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2927	舊惡の心洗ふて頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2928	着心の古き頭巾にしくはなし	31	冬	人事	頭巾				
2929	戯作者のたぐひなるべし絹頭巾	31	冬	人事	頭巾				
2930	こしらへて皆氣に入らぬ頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2931	御法度の坊主頭や丸頭巾	31	冬	人事	頭巾				
2932	西行の頭巾もめさず雪の不盡	31	冬	人事	頭巾				
2933	手爐さげて頭巾の人や寄席を出る	31	冬	人事	頭巾				
2934	信心のはじめに著たる頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2935	旅僧の頭巾もめさず馬の上	31	冬	人事	頭巾				
2936	頭巾著て浄土の近き思ひあり	31	冬	人事	頭巾				
2937	頭巾著て依に上る指圖哉	31	冬	人事	頭巾				
2938	頭巾著て檜笠提けたり旅の僧	31	冬	人事	頭巾				
2939	頭巾著て物は心にさからはず	31	冬	人事	頭巾				
2940	頭巾著る忍ひ姿や落しさし	31	冬	人事	頭巾				
2941	頭巾二人橋を渡りて別れけり	31	冬	人事	頭巾				
2942	人老いて頭巾に色の好みあり	31	冬	人事	頭巾				
2943	人老いて頭巾に物の好みあり	31	冬	人事	頭巾				
2944	人丸は烏帽子芭蕉は頭巾にて	31	冬	人事	頭巾				
2945	辨慶は其頭巾こそ兜なれ	31	冬	人事	頭巾				
2946	間違へて笑ふ頭巾や客二人	31	冬	人事	頭巾				
2947	見苦しき子をいとしむや赤頭巾	31	冬	人事	頭巾				
2948	酔ふて吟す東坡の頭巾脱んとす	31	冬	人事	頭巾				
2949	忘れ置し頭巾の裏を見られけり	31	冬	人事	頭巾				
2950	笑ひかゝる兒にくれたる頭巾哉	31	冬	人事	頭巾				
2951	寺古りて義士の頭巾を藏しけり	31	冬	人事	頭巾				

2952	いつ見ても青き頭巾の酢賣哉	32	冬	人事	頭巾				
2953	大黒の頭巾を笑ふ布袋かな	32	冬	人事	頭巾				
2954	頭巾著て蕪村の墓に詣でけり	32	冬	人事	頭巾				
2955	薄物の頭巾や老の笑ひ顔	33	冬	人事	頭巾				
2956	一年の事今にある綿衣かな	26	冬	人事	綿子				
2957	頸あらはに薩摩飛白の綿子哉	29	冬	人事	綿子				
2958	綿衣黄也村醫者と見えて供一人	29	冬	人事	綿子				
2959	綿入の袂探りそなじみ金	30	冬	人事	綿子				
2960	爺と婆と江戸見に行くや綿帽子	29	冬	人事	綿帽子				
2961	穴多きケットー疵多き火鉢哉	30	冬	人事	毛布				
2962	ケットーの赤きを被り本願寺	30	冬	人事	毛布				
2963	書生富めりケットー美に盆栽など飾る	30	冬	人事	毛布				
2964	書生富めり毛布美に盆など飾る	30	冬	人事	毛布				
2965	毛布被りたるがまじりし寄席の歸り哉	30	冬	人事	毛布				
2966	毛布被る一むれ寄席の歸りかな	30	冬	人事	毛布				
2967	十年の苦學毛の無き毛布哉	33	冬	人事	毛布				
2968	真中に晷盤すゑたる毛布哉	33	冬	人事	毛布				
2969	毛布著た四五人連や象を見る	33	冬	人事	毛布				
2970	毛布著て机の下の鼯哉	33	冬	人事	毛布				
2971	やき芋の皮をふるひし毛布哉	33	冬	人事	毛布				
2972	振返る二重まはしや人違ひ	30	冬	人事	二重回し				
2973	紳士らしき掏摸らしき二重まはし哉	31	冬	人事	二重回し				
2974	二重まはしを買ひ得ずして其俗を笑ふ	31	冬	人事	二重回し				
2975	盆栽に梅の花あり冬こもり	23	冬	人事	冬籠				
2976	神の代はかくやありけん冬籠	24	冬	人事	冬籠				
2977	不自由なやうで氣まゝや冬籠	24	冬	人事	冬籠				
2978	冬籠家は落葉にうもれけり	24	冬	人事	冬籠				
2979	老が齒や海雲すゝりて冬籠	25	冬	人事	冬籠				
2980	金杉や二間ならんで冬こもり	25	冬	人事	冬籠				
2981	君にとてくはずものなし冬籠	25	冬	人事	冬籠				
2982	君味噌くれ我豆やらん冬こもり	25	冬	人事	冬籠				
2983	子をなぶり子になぶられて冬籠	25	冬	人事	冬籠				
2984	新聞の反故の山や冬こもり	25	冬	人事	冬籠				
2985	炭二俵壁にもたせて冬こもり	25	冬	人事	冬籠				
2986	手をちゞめ足をちゞめて冬籠	25	冬	人事	冬籠				
2987	ともかうもなくて病氣の冬籠	25	冬	人事	冬籠				

2988	抜け穴もありて蛙の冬籠	25	冬	人事	冬籠			
2989	鼻かげや只うつむいて冬籠	25	冬	人事	冬籠			
2990	吹きならふ煙の籠や冬こもり	25	冬	人事	冬籠			
2991	不二のぞくすきまの風や冬籠	25	冬	人事	冬籠			
2992	不盡見ゆる北窓さして冬籠	25	冬	人事	冬籠			
2993	冬こもり命うちこむ巨燧哉	25	冬	人事	冬籠			
2994	冬籠り倉にもちこむ巨燧哉	25	冬	人事	冬籠			
2995	冬こもり小ぜにをかりて笑はるゝ	25	冬	人事	冬籠			
2996	冬籠隣もしらぬ味噌の味	25	冬	人事	冬籠			
2997	冬籠なるれば廣し四疊半	25	冬	人事	冬籠			
2998	冬こもり日記に夢をかきつくる	25	冬	人事	冬籠			
2999	冬籠日記に夢を書きつける	25	冬	人事	冬籠			
3000	冬籠りほつほつかぢる芋の皮	25	冬	人事	冬籠			
3001	冬籠夜着の袖より窓の月	25	冬	人事	冬籠			
3002	ふるしきに芋の皮あり冬籠	25	冬	人事	冬籠			
3003	本の山硯の海や冬こもり	25	冬	人事	冬籠			
3004	籠の繪をかいて捧げん冬籠	25	冬	人事	冬籠			
3005	朝々の新聞も見ず冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3006	案を拍て鼠驚くや冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3007	鶯のなきいつる迄を冬籠り	26	冬	人事	冬籠			
3008	運坐とさそひ出されぬ冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3009	風吹て行燈消えぬ冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3010	唐の書や大和の書や冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3011	此下に冬籠の暮眠るらん	26	冬	人事	冬籠			
3012	書燈夜更けて鶏鳴くや冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3013	なぞなぞを解て見せけり冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3014	笛一つ釘にかけたり冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3015	河豚くはぬ人や芳野の冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3016	冬籠り琴に鼠の足のあと	26	冬	人事	冬籠			
3017	冬籠り三味線折て爐にくべん	26	冬	人事	冬籠			
3018	薪をわるいもうと一人冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3019	藁笠の古びくらべん冬籠	26	冬	人事	冬籠			
3020	一村は青菜つくりて冬籠	27	冬	人事	冬籠			
3021	一村は冬こもりたるけしきかな	27	冬	人事	冬籠			
3022	一村は留守のやうなり冬籠	27	冬	人事	冬籠			
3023	裏藪の竹盗まれし冬籠り	27	冬	人事	冬籠			

3024	かゆといふ名を覺えたか冬籠	27	冬	人事	冬籠				
3025	かゆといふ物をすゝりて冬籠り	27	冬	人事	冬籠				
3026	戀せじと冬籠り居れば蜘蛛の絲	27	冬	人事	冬籠				
3027	三味線や里ゆたかなる冬籠	27	冬	人事	冬籠				
3028	砂村や狐も鳴かず冬籠り	27	冬	人事	冬籠				
3029	豆腐屋も八百屋も遠し冬籠	27	冬	人事	冬籠				
3030	箒さはる琴のそら音や冬籠り	27	冬	人事	冬籠				
3031	冬籠り人富士石に向ひ坐す	27	冬	人事	冬籠				
3032	冬ごもり男ばかりの庵かな	27	冬	人事	冬籠				
3033	松すねて門鎖せり人冬籠る	27	冬	人事	冬籠				
3034	商人の坐敷に僧の冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3035	あぢきなや三重の病に冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3036	音もせず親子二人の冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3037	唐の春奈良の秋見て冬籠	28	冬	人事	冬籠				
3038	蜘蛛の巣の中につゝくり冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3039	雲のそく障子の穴や冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3040	五器皿を見れば味噌あり冬籠	28	冬	人事	冬籠				
3041	琴の音の聞えてゆかし冬籠	28	冬	人事	冬籠				
3042	なかなか病むを力の冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3043	一町は山のどん底に冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3044	一町は山をにらんで冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3045	人病んでせんかたなさの冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3046	二夫婦二かたまりに冬ごもり	28	冬	人事	冬籠				
3047	冬ごもり顔も洗はず書に對す	28	冬	人事	冬籠				
3048	冬ごもり金平本の二三冊	28	冬	人事	冬籠				
3049	冬ごもり煙のもるゝ壁の穴	28	冬	人事	冬籠				
3050	冬籠書齋の掃除無用なり	28	冬	人事	冬籠				
3051	冬籠書籍に竝ぶ薬かな	28	冬	人事	冬籠				
3052	冬ごもり世間の音を聞いて居る	28	冬	人事	冬籠				
3053	冬ごもり達磨は我をにらむ哉	28	冬	人事	冬籠				
3054	冬ごもり晝の布團のすぢかひに	28	冬	人事	冬籠				
3055	冬籠書搔き探す薬かな	28	冬	人事	冬籠				
3056	冬籠物くはぬ日はよもあらし	28	冬	人事	冬籠				
3057	冬ごもりをの子一人まうけゝる	28	冬	人事	冬籠				
3058	冬ごもり折ゝ猫の啼いて来る	28	冬	人事	冬籠				
3059	冬や今年今年や冬とごもりけり	28	冬	人事	冬籠				

3060	冬や今年われ古里にこもりけり	28	冬	人事	冬籠				
3061	山も見ず海も見ず船に冬こもり	28	冬	人事	冬籠				
3062	礎を起せば蟻の冬ごもり	29	冬	人事	冬籠				
3063	椽側へ出て汽車見るや冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3064	看病の我をとりまく冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3065	十年の耳ご搔きけり冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3066	主持の小さくなりて冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3067	大木の中に草家の冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3068	湯治場や冬籠りたる人の聲	29	冬	人事	冬籠				
3069	痰はきに痰のたまるや冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3070	妻なきを鼠笑ふか冬ごもり	29	冬	人事	冬籠				
3071	何となく冬籠り居れば三味の聲	29	冬	人事	冬籠				
3072	鼠にも猫にもなじむ冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3073	袴著てゆかしや人の冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3074	ひつそりと冬籠るなり一軒家	29	冬	人事	冬籠				
3075	冬籠あるじ寐ながら人に逢ふ	29	冬	人事	冬籠				
3076	冬こもり入相の鐘野から来る	29	冬	人事	冬籠				
3077	冬籠壁に歌あり發句あり	29	冬	人事	冬籠				
3078	冬籠四斗樽の底を叩きけり	29	冬	人事	冬籠				
3079	冬籠茶釜の光る茶間哉	29	冬	人事	冬籠				
3080	冬籠隣の夫婦いさかひす	29	冬	人事	冬籠				
3081	冬籠り長生きせんと思ひけり	29	冬	人事	冬籠				
3082	冬籠佛壇の花枯れにけり	29	冬	人事	冬籠				
3083	冬籠本は黄表紙人は鬚	29	冬	人事	冬籠				
3084	冬籠湯に入る我の垢を見よ	29	冬	人事	冬籠				
3085	昔さるべき女ありけり冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3086	老僧の爪の長さよ冬籠	29	冬	人事	冬籠				
3087	黒わくの手紙受け取る冬籠	30	冬	人事	冬籠				
3088	小障子の隅に日あたる冬籠	30	冬	人事	冬籠				
3089	新聞は停止せられぬ冬籠	30	冬	人事	冬籠				
3090	爲朝を呼んで来て共に冬籠れ	30	冬	人事	冬籠				
3091	戸を叩く女の聲や冬籠	30	冬	人事	冬籠				
3092	人も來ぬ根岸の奥よ冬籠	30	冬	人事	冬籠				
3093	冬籠柱にもたれ世を觀ず	30	冬	人事	冬籠				
3094	冬籠る家や鯛を焼く匂ひ	30	冬	人事	冬籠				
3095	もたれよる柱ぬくもる冬籠	30	冬	人事	冬籠				

3096	もろもろの楽器音無く冬籠る	30	冬	人事	冬籠				
3097	大磯によき人見たり冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3098	鎌倉の大根畠や冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3099	熊に似て熊の皮著る穴の冬	31	冬	人事	冬籠				
3100	侃々も諤々も聞かず冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3101	聲高に書讀む人よ冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3102	咲き絶えし薔薇の心や冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3103	雑炊のきらひな妻や冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3104	野が見ゆるガラス障子や冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3105	日あたりのよき部屋一つ冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3106	一箱の林檎ゆゝしや冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3107	冬籠盃になるゝ小鴨哉	31	冬	人事	冬籠				
3108	冬籠和尚は物をのたまはず	31	冬	人事	冬籠				
3109	冬籠る今戸の家や色ガラス	31	冬	人事	冬籠				
3110	冬こもる人の多さよ上根岸	31	冬	人事	冬籠				
3111	冬こもる灯のかすかなり西の對	31	冬	人事	冬籠				
3112	冬籠る部屋や盃の浮寐鳥	31	冬	人事	冬籠				
3113	冬こもるゆかりの人や西の對	31	冬	人事	冬籠				
3114	耳糞の蜂になるまで冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3115	宿替の蕎麥を貰ふや冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3116	山陰や暗きになれて冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3117	山に入る人便りなし冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3118	善く笑ふ夫婦ぐらしや冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3119	善く笑ふ男が來たり冬籠	31	冬	人事	冬籠				
3120	青山の學校に在り冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3121	牛喰へと勧むる人や冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3122	大津畫の鬼に見あきぬ冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3123	思ひやるおのが前世や冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3124	ガラス窓に上野も見えて冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3125	ガラス窓に鳥籠見ゆる冬こもり	32	冬	人事	冬籠				
3126	近眼の五度の目鏡や冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3127	釋迦に問て見たき事あり冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3128	何事もあきらめて居る冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3129	冬籠鑄形にたまる埃哉	32	冬	人事	冬籠				
3130	冬こもりうちむらさきをもらひけり	32	冬	人事	冬籠				
3131	蜜柑剥く爪先黄なり冬籠	32	冬	人事	冬籠				

3132	繪襖の彩色兀ぬ冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3133	女神の裸体の像や冬籠	32	冬	人事	冬籠				
3134	書きなれて書きよき筆や冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3135	唐紙の白雲形や冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3136	信州の人に訪はれぬ冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3137	先生の筆見飽きたり冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3138	鼠取の薬を買ひけり冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3139	肺を病んで讀書に耽る冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3140	蕪村の蕪太祇の炭や冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3141	筆多き硯の箱や冬籠	33	冬	人事	冬籠				
3142	冬籠裸體畫をかく頼みなき	33	冬	人事	冬籠				
3143	故郷に肺を養ふ冬こもり	33	冬	人事	冬籠				
3144	驚かす霰の音や冬籠	34	冬	人事	冬籠				
3145	泥深き小田や田螺の冬籠	34	冬	人事	冬籠				
3146	新宅は神も祭らで冬籠	35	冬	人事	冬籠				
3147	病床やおもちや併へて冬籠	35	冬	人事	冬籠				
3148	屋根低き宿うれしさよ冬籠	35	冬	人事	冬籠				
3149	命よりうまき味とや河豚汁	25	冬	人事	河豚汁				
3150	くふ時に成てすてけり河豚の汁	25	冬	人事	河豚汁				
3151	さむらいは腹さへきると河豚汁	25	冬	人事	河豚汁				
3152	鰻汁や髑髏をかざる醫者の家	25	冬	人事	河豚汁				
3153	ふぐ汁やきのふは何の薬喰	26	冬	人事	河豚汁	ふぐ<魚+屯>			
3154	鰻汁や獣うそむく裏の山	26	冬	人事	河豚汁				
3155	ふぐ汁や傷寒論は焼きすてん	26	冬	人事	河豚汁	ふぐ<魚+屯>			
3156	河豚汁高らかにこそ呼はつたり	26	冬	人事	河豚汁				
3157	我をにらむ達摩の顔や河豚汁	26	冬	人事	河豚汁				
3158	鰻汁一休去つて僧もなし	28	冬	人事	河豚汁				
3159	鰻汁心もとなき寐つき哉	28	冬	人事	河豚汁				
3160	鰻汁古白今いづくにかある	28	冬	人事	河豚汁				
3161	ゆきひらは猪か鯨か河豚汁か	29	冬	人事	河豚汁				
3162	あざ笑ふ花和尚の聲やふくと汁	31	冬	人事	河豚汁				
3163	信州の寒さを思ふ蕎麥湯哉	27	冬	人事	蕎麥湯				
3164	親鳥のぬくめ心地や玉子酒	20	冬	人事	玉子酒				
3165	ふるまはん深草殿に玉子酒	25	冬	人事	玉子酒				
3166	傾城の涙煮えけり玉子酒	26	冬	人事	玉子酒				
3167	猩々を巨燵へ呼ばん玉子酒	26	冬	人事	玉子酒				

3168	風引の若き主や卵酒	31	冬	人事	玉子酒				
3169	かせ引の妻よ夫よ玉子酒	35	冬	人事	玉子酒				
3170	煮凍につめたき腹や酒の爛	34	冬	人事	煮凍				
3171	煮凍の出来るも嬉し新世帯	34	冬	人事	煮凍				
3172	煮凍や北に向きたる臺所	34	冬	人事	煮凍				
3173	焼芋をくひくひ千鳥さく夜哉	25	冬	人事	焼薯				
3174	わびしさや焼いもの皮熊の皮	27	冬	人事	焼薯				
3175	喰ひ盡して更に焼いもの皮をかぢる	30	冬	人事	焼薯				
3176	焼いもと知るく風呂敷に烟立つ	30	冬	人事	焼薯				
3177	焼いもの水氣多きを場末かな	30	冬	人事	焼薯				
3178	鍋焼を待たんかいもを喰はんか	30	冬	人事	鍋焼				
3179	鍋焼を待ち居れば稻荷様と呼ぶ	30	冬	人事	鍋焼				
3180	鍋焼をわれ待ち居れば稻荷鮓	30	冬	人事	鍋焼				
3181	盗人らしき人が鍋焼を喰ひ居たる	30	冬	人事	鍋焼				
3182	鍋焼や火事場に遠き坂の上	34	冬	人事	鍋焼				
3183	吹雪くる夜を禪寺に納豆打ツ	25	冬	人事	納豆				
3184	納豆の味を達磨に尋ねばや	26	冬	人事	納豆				
3185	やうやうに納豆くさし寺若衆	26	冬	人事	納豆				
3186	山僧や經讀みやめて納豆打つ	27	冬	人事	納豆				
3187	起よけさ叩け納豆小僧ども	28	冬	人事	納豆				
3188	納豆や飯焚一人僧一人	28	冬	人事	納豆				
3189	納豆の聲や座禪の腹の中	29	冬	人事	納豆				
3190	骨は土納豆は石となりけらし	29	冬	人事	納豆				
3191	豆腐屋の來ぬ日はあれと納豆賣	30	冬	人事	納豆				
3192	納豆喰ふ屋敷もふゑて根岸町	30	冬	人事	納豆				
3193	納豆喰ふて兒學問に愚なり	30	冬	人事	納豆				
3194	納豆賣る聲や阿呆の武太郎	33	冬	人事	納豆				
3195	歌ふて曰く納豆賣らんか詩賣らんか	34	冬	人事	納豆				
3196	子を負ふて嬪と見ゆれ納豆賣	34	冬	人事	納豆				
3197	納豆賣新聞賣と話しけり	34	冬	人事	納豆				
3198	人も來ず時雨の宿の納豆汁	26	冬	人事	納豆汁				
3199	梅の花うかせて見はや納豆汁	26	冬	人事	納豆汁				
3200	傾城の噂を語れ納豆汁	26	冬	人事	納豆汁				
3201	摺小木に鶯來鳴け納豆汁	26	冬	人事	納豆汁				
3202	禪僧や佛を賣て納豆汁	27	冬	人事	納豆汁				
3203	納豆汁腹あたゝかに風寒し	27	冬	人事	納豆汁				

3204	納豆汁ト傳流の翁かな	27	冬	人事	納豆汁			
3205	納豆汁しばらく神に黙禱す	29	冬	人事	納豆汁			
3206	納豆汁女殺したこともあり	29	冬	人事	納豆汁			
3207	草庵の暖爐開きや納豆汁	33	冬	人事	納豆汁			
3208	白味噌や此頃飽きし納豆汁	33	冬	人事	納豆汁			
3209	我庵の煖爐開きや納豆汁	33	冬	人事	納豆汁			
3210	風呂吹や北山嵐さめやすき	26	冬	人事	風呂吹			
3211	大きなるをこそ風呂吹と申すらめ	27	冬	人事	風呂吹			
3212	大なるをこそ風呂吹と申すらめ	27	冬	人事	風呂吹			
3213	風呂吹や板額の口恐ろしき	27	冬	人事	風呂吹			
3214	黒塚や赤子の腕の風呂吹を	28	冬	人事	風呂吹			
3215	風呂吹の口をやかぬぞ口をしき	28	冬	人事	風呂吹			
3216	風呂吹に集まる法師誰々ぞ	29	冬	人事	風呂吹			
3217	風呂吹に七變人を會しけり	29	冬	人事	風呂吹			
3218	風呂吹にすべく大根の大なる	29	冬	人事	風呂吹			
3219	風呂吹の味をこそわすれ給ふらめ	29	冬	人事	風呂吹			
3220	風呂吹のさめたるに發句題すべく	29	冬	人事	風呂吹			
3221	風呂吹の冷えたるに一句題すべく	29	冬	人事	風呂吹			
3222	風呂吹は熱く麥飯はつめたく	29	冬	人事	風呂吹			
3223	風呂吹は三百年の法會哉	29	冬	人事	風呂吹			
3224	風呂吹や狂歌讀むべき僧の顔	29	冬	人事	風呂吹			
3225	風呂吹や小窓を壓す雪曇	29	冬	人事	風呂吹			
3226	風呂吹や皆鷺流の狂言師	29	冬	人事	風呂吹			
3227	風呂吹を喰ひに浮世へ百年目	29	冬	人事	風呂吹			
3228	風呂吹をはさみきるこそ拙けれ	29	冬	人事	風呂吹			
3229	人多く風呂吹の味噌足らぬかな	32	冬	人事	風呂吹			
3230	風呂吹の一きれづゝや四十人	32	冬	人事	風呂吹			
3231	風呂吹やによるり名高きによるり寺	33	冬	人事	風呂吹			
3232	風呂吹やによるりに名あるによるり寺	33	冬	人事	風呂吹			
3233	庵の窓富士に開きて薬喰	25	冬	人事	薬喰			
3234	富士山を箸にのせてや薬喰	25	冬	人事	薬喰			
3235	骨のなき泥鰌を誰の薬喰	25	冬	人事	薬喰			
3236	一休に何参らせん薬喰	26	冬	人事	薬喰			
3237	鷺に鍋のぞかせじ薬喰	26	冬	人事	薬喰			
3238	豚煮るや上野の嵐さわぐ夜に	26	冬	人事	薬喰			
3239	薬喰す人の心の老いにけり	27	冬	人事	薬喰			

3240	薬喰ひ人の心の老にけり	27	冬	人事	薬喰				
3241	戸を叩く音は狸か薬喰	28	冬	人事	薬喰				
3242	われ病んで筑波の雉の薬喰	29	冬	人事	薬喰				
3243	薬喰の鍋氷りつく朝哉	30	冬	人事	薬喰				
3244	血にかわく人の心やくすり喰	33	冬	人事	薬喰				
3245	貧血の君にさそはれくすり喰	33	冬	人事	薬喰				
3246	乾鮭にわびし日頃や薬喰	34	冬	人事	薬喰				
3247	利目あらん利目なからん薬喰	34	冬	人事	薬喰				
3248	蘭學の書生なりけり薬喰	34	冬	人事	薬喰				
3249	風入れた代り雪見や破れ窓	22	冬	人事	雪見				
3250	松の木に裏表ある雪見かな	23	冬	人事	雪見				
3251	家買つて今年は庭の雪見かな	24	冬	人事	雪見				
3252	老僧の西行に似る雪見哉	25	冬	人事	雪見				
3253	世の中を知らねば人の雪見哉	29	冬	人事	雪見				
3254	古たびの又世にいでて雪丸げ	25	冬	人事	雪丸げ				
3255	さゝやかな力や妹が雪まるげ	26	冬	人事	雪丸げ				
3256	女房のかひがひしさよ雪丸げ	26	冬	人事	雪丸げ				
3257	手袋の指破れたり雪まるげ	34	冬	人事	雪丸げ				
3258	昨日見た處にはなし雪だるま	23	冬	人事	雪仏				
3259	運慶が子供遊びや雪佛	25	冬	人事	雪仏				
3260	太平の刀ためすや雪佛	25	冬	人事	雪仏				
3261	かけ落と叫び給ふな雪佛	26	冬	人事	雪仏				
3262	掛乞をにらむやうなり雪佛	26	冬	人事	雪仏				
3263	雪佛眼二つは黒かりし	26	冬	人事	雪仏				
3264	雪佛われからにらみ崩れけり	26	冬	人事	雪仏				
3265	竹馬は子猿の藝や猿まはし	33	冬	人事	竹馬				
3266	竹馬は小猿の藝や叱られし	33	冬	人事	竹馬				
3267	留守狐お供狐を送りけり	32	冬	動物	狐				
3268	こさふくや沖は鯨の汐曇り	25	冬	動物	鯨				
3269	日本一ほめる鯨のをはり哉	25	冬	動物	鯨				
3270	引きあげて一村くもる鯨哉	25	冬	動物	鯨				
3271	小嶋かと思れば汐吹く鯨哉	26	冬	動物	鯨				
3272	鯨よる大海原の静かさよ	27	冬	動物	鯨				
3273	百艘の舟にとりまく鯨哉	28	冬	動物	鯨				
3274	大きさも知らず鯨の二三寸	29	冬	動物	鯨				
3275	聲かけて鯨に向ふ小舟哉	29	冬	動物	鯨				

3276	荒磯や鯨の舟を待つ妻子	30	冬	動物	鯨				
3277	お長屋の老人會や鯨汁	30	冬	動物	鯨				
3278	鯨突に通り合せし旅路哉	30	冬	動物	鯨				
3279	鯨突きに日本海へ行く舟か	30	冬	動物	鯨				
3280	鯨突く小舟は沖に見えずなりぬ	30	冬	動物	鯨				
3281	鯨突く日本海の舟小し	30	冬	動物	鯨				
3282	鯨逃げて北斗かゝやく海暗し	30	冬	動物	鯨				
3283	鯨逃げて空しく歸る小舟かな	30	冬	動物	鯨				
3284	鯨煮つゝ銚打ちし一伍一什を話す	30	冬	動物	鯨	銚(もり<金+劣>)			
3285	鯨吼えて北斗静かなり海の上	30	冬	動物	鯨				
3286	七尺の男なりけり鯨賣	30	冬	動物	鯨				
3287	房州の沖を過行く鯨哉	30	冬	動物	鯨				
3288	灯ともして鯨にさわぐ小村哉	30	冬	動物	鯨				
3289	二村の男女あつまる鯨哉	30	冬	動物	鯨				
3290	銚取て鯨に向ふ男かな	30	冬	動物	鯨	銚(もり<金+劣>)			
3291	鯨汁しばらく勇を養はん	31	冬	動物	鯨				
3292	濱による鯨小き入江かな	31	冬	動物	鯨				
3293	氷山に氷りこんだる鯨かな	33	冬	動物	鯨				
3294	鯨汁鯨は盡きてしまひけり	34	冬	動物	鯨				
3295	鯨取る舟を見送る妻子かな	34	冬	動物	鯨				
3296	鯨つく漁父ともならで坊主哉	35	冬	動物	鯨				
3297	をし鳥や氷の劍ふんで行く	22	冬	動物	鴛鴦				
3298	あはれ也死でも鴛のつがひ	26	冬	動物	鴛鴦				
3299	薄雪にふられて居るや鴛一つ	26	冬	動物	鴛鴦				
3300	をし鳥や廣間に寒き銀屏風	26	冬	動物	鴛鴦				
3301	積もりあへず思ひ羽振ふ雪の鴛	27	冬	動物	鴛鴦				
3302	薄氷を踏むをし鳥の思ひかな	27	冬	動物	鴛鴦				
3303	古池に亡き妻や思ふ鴛一羽	27	冬	動物	鴛鴦				
3304	古池のをしに雪降る夕かな	27	冬	動物	鴛鴦				
3305	をし鳥や嵐に吹かれ月に流れ	27	冬	動物	鴛鴦				
3306	迷ひ出でし誰が別荘の鴛一羽	28	冬	動物	鴛鴦				
3307	迷ひ出し誰が別荘の鴛一つ	28	冬	動物	鴛鴦				
3308	をし鳥の小嶋に上る氷かな	28	冬	動物	鴛鴦				
3309	釣殿の下へはいりぬ鴛二つ	29	冬	動物	鴛鴦				
3310	人間のやもめを思へ鴛二つ	29	冬	動物	鴛鴦				
3311	夜嵐や鴛鴦の思ひ羽散りもあへず	29	冬	動物	鴛鴦				

3312	鴛鴦の向ひあふたり竝んだり	29	冬	動物	鴛鴦				
3313	いつからのやもめぐらしぞをし一つ	34	冬	動物	鴛鴦				
3314	飼ひなれしをしや汽車にも驚かず	34	冬	動物	鴛鴦				
3315	静かさやをしのを來て居る山の池	34	冬	動物	鴛鴦				
3316	鴛鴦の二つ竝んで浮寐かな	34	冬	動物	鴛鴦				
3317	をしの中を邪魔する鳥もなかりけり	34	冬	動物	鴛鴦				
3318	この家を鴨ものそくや仙波沼	22	冬	動物	鴨				
3319	鴨啼や火鉢の炭の消え易き	24	冬	動物	鴨				
3320	鴨ねるや舟に折れこむ枯尾花	24	冬	動物	鴨				
3321	鴨啼て小鍋を洗ふ入江哉	26	冬	動物	鴨				
3322	鴨啼て比枝山嵐來る夜哉	26	冬	動物	鴨				
3323	鴨のなく雑木の中の小池哉	26	冬	動物	鴨				
3324	竹藪の裏は鴨鳴く入江哉	26	冬	動物	鴨				
3325	つるされて尾のなき鴨の尻淋し	26	冬	動物	鴨				
3326	ともし火の堅田は寒し鴨の聲	26	冬	動物	鴨				
3327	一つ家に鴨の毛むしる夕哉	26	冬	動物	鴨				
3328	湖を歩行で渡らん鴨の橋	26	冬	動物	鴨				
3329	灯ちらちら鴨鳴く家のうしろかな	27	冬	動物	鴨				
3330	夜更けたり何にさわだつ鴨の聲	27	冬	動物	鴨				
3331	内濠に小鴨のたまる日向哉	28	冬	動物	鴨				
3332	鴨啼くや上野は闇に横はる	28	冬	動物	鴨				
3333	鴨は見るばかり味噌汁酒の爛	28	冬	動物	鴨	爛(かん<酉+問>)			
3334	搦手や晝凄うして濠の鴨	28	冬	動物	鴨				
3335	古池や凍りもつかで鴨の足	28	冬	動物	鴨				
3336	鴨一羽飛んで野川の暮にけり	29	冬	動物	鴨				
3337	鴨啼いてともし火消すや長だ亭	29	冬	動物	鴨	だ<酉+它>			
3338	鴨の鳴く梁山泊の裏手かな	33	冬	動物	鴨				
3339	家二軒杉二本冬の鴉飛ぶ	29	冬	動物	寒鴉				
3340	貧をかこつ隣同士の寒鴉	35	冬	動物	寒鴉				
3341	さゝ啼やうすぬくもりの湯の煙	25	冬	動物	笛鳴				
3342	さゝ啼や小藪の隅にさす日影	25	冬	動物	笛鳴				
3343	さゝ啼や百草の奥の松蓮寺	25	冬	動物	笛鳴				
3344	さゝ鳴や張笠乾く竹の垣	26	冬	動物	笛鳴				
3345	さゝ鳴くや鳴かすや竹の根岸人	29	冬	動物	笛鳴				
3346	琴箱のうらは藪也さゝ鳴す	35	冬	動物	笛鳴				
3347	水鳥の負ふておりけり夕煙	21	冬	動物	水鳥				

3348	水鳥ののせておりけり夕煙	21	冬	動物	水鳥				
3349	水鳥や蘆うら枯れて夕日影	22	冬	動物	水鳥				
3350	水鳥の四五羽は出たり枯尾花	24	冬	動物	水鳥				
3351	水鳥のすこしひろがる日なみ哉	24	冬	動物	水鳥				
3352	水鳥の中にもうきけり天女堂	25	冬	動物	水鳥				
3353	水鳥や中に一すぢ船の道	27	冬	動物	水鳥				
3354	水鳥や菜屑につれて二間程	29	冬	動物	水鳥				
3355	枯菰や水鳥浮て沼廣し	30	冬	動物	水鳥				
3356	旅にして水鳥多き池を見つ	30	冬	動物	水鳥				
3357	待合や水鳥鳴てぬき爛	30	冬	動物	水鳥	爛(かん<火+間>)			
3358	水鳥に松明照す夜の人	30	冬	動物	水鳥				
3359	水鳥の晝眠る池の静さよ	30	冬	動物	水鳥				
3360	水鳥や榮華の夢の五十年	30	冬	動物	水鳥				
3361	水鳥や焚火に逃げて洲の向ふ	30	冬	動物	水鳥				
3362	水鳥や礫とゞかぬ濠の隅	30	冬	動物	水鳥				
3363	水鳥や盗人歸る夜明方	30	冬	動物	水鳥				
3364	水鳥や籠の池に群れて居る	30	冬	動物	水鳥				
3365	矢は水に入る水鳥の別哉	30	冬	動物	水鳥				
3366	木からしにかたよつて飛ぶ千鳥哉	24	冬	動物	千鳥				
3367	木からしに片よる沖の千鳥哉	24	冬	動物	千鳥				
3368	さよ千鳥雪に燈ともすかゝり船	24	冬	動物	千鳥				
3369	千鳥なく灘は百里の吹雪哉	24	冬	動物	千鳥				
3370	突き細し波に碎けるむら千鳥	24	冬	動物	千鳥				
3371	三日月もゆるあら波や浦千鳥	24	冬	動物	千鳥				
3372	安房へ行き相模へ歸り小夜千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3373	いさり火の消えて音ありむら千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3374	いそがしく鳴門を渡る千鳥哉	25	冬	動物	千鳥				
3375	磯濱や犬追ひ立てるむら千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3376	一村は皆船頭や磯千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3377	海原に星のふる夜やむら千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3378	さわさわと入江をのぼる千鳥哉	25	冬	動物	千鳥				
3379	三羽立てあと静なる千鳥哉	25	冬	動物	千鳥				
3380	千鳥啼く揚荷のあとの月夜哉	25	冬	動物	千鳥				
3381	千鳥なく三保の松原風白し	25	冬	動物	千鳥				
3382	吹き流すしようの風や川千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3383	富士へはつと散りかゝりけり磯千鳥	25	冬	動物	千鳥				

3384	ほす船の底にのほるや磯千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3385	帆柱や二つにわれてむら千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3386	文覺をとりまいて鳴く千鳥哉	25	冬	動物	千鳥				
3387	ゆきつきつ千鳥の聲や磯の松	25	冬	動物	千鳥				
3388	我笠の上で鳴きけり友千鳥	25	冬	動物	千鳥				
3389	蟹が家や行燈の裏に鳴く千鳥	26	冬	動物	千鳥				
3390	牛のつらに崩るゝ闇の千鳥哉	26	冬	動物	千鳥				
3391	傾城と千鳥聞く夜の寒さ哉	26	冬	動物	千鳥				
3392	新田や牛に追はれて立つ千鳥	26	冬	動物	千鳥				
3393	關守の厠へ通ふ千鳥哉	26	冬	動物	千鳥				
3394	關守は妻も子もなし小夜千鳥	26	冬	動物	千鳥				
3395	散ると見てあつまる風の千鳥哉	26	冬	動物	千鳥				
3396	船に積む牛のさわぎや小夜千鳥	26	冬	動物	千鳥				
3397	渺々と何もなき江の千鳥哉	26	冬	動物	千鳥				
3398	上げ汐の千住を越ゆる千鳥かな	27	冬	動物	千鳥				
3399	安房へ行き相摸へ戻り小夜千鳥	27	冬	動物	千鳥				
3400	おゝ寒い寒いといへば鳴く千鳥	27	冬	動物	千鳥				
3401	かたまつておろす千鳥や沖の石	27	冬	動物	千鳥				
3402	軍艦の沈みしあとを群千鳥	27	冬	動物	千鳥				
3403	難船のあとを吊ふ千鳥かな	27	冬	動物	千鳥				
3404	浦風にまた舞ひ戻る千鳥哉	28	冬	動物	千鳥				
3405	風に崩れ月に碎けて鳴く千鳥	28	冬	動物	千鳥				
3406	千鳥飛んで雲うつくしき夕哉	28	冬	動物	千鳥				
3407	猪牙借りて妹がり行けば川千鳥	28	冬	動物	千鳥				
3408	灯も見えず闇の漁村のむら千鳥	28	冬	動物	千鳥				
3409	川千鳥家も渡しもなかりけり	29	冬	動物	千鳥				
3410	背戸へ来て崩れてしまふ千鳥哉	29	冬	動物	千鳥				
3411	月暗し敵か千鳥か見分たず	29	冬	動物	千鳥				
3412	雪洞に千鳥聞く須磨の内裏哉	29	冬	動物	千鳥				
3413	満汐や清盛の塚に千鳥鳴く	29	冬	動物	千鳥				
3414	満汐や千鳥鳴くなる橋の下	29	冬	動物	千鳥				
3415	路ばたに温鈍くふ人や川千鳥	29	冬	動物	千鳥				
3416	艦の音や我背戸來べく千鳥鳴く	29	冬	動物	千鳥				
3417	磯の松に千鳥鳴くべき月夜哉	31	冬	動物	千鳥				
3418	光琳やうつくしき水に白千鳥	31	冬	動物	千鳥				
3419	光琳や水紺青に白千鳥	31	冬	動物	千鳥				

3420	三味線に千鳥鳴く夜や先斗町	31	冬	動物	千鳥				
3421	須磨の宿の屏風に描く千鳥哉	31	冬	動物	千鳥				
3422	須磨の宿の襖に描く千鳥哉	31	冬	動物	千鳥				
3423	須磨の宿の欄間に彫れる千鳥哉	31	冬	動物	千鳥				
3424	關守も居らず千鳥も鳴かずなりぬ	31	冬	動物	千鳥				
3425	千鳥吹く日本海の嵐哉	31	冬	動物	千鳥				
3426	千鳥吹く日本海の廣さ哉	31	冬	動物	千鳥				
3427	二群に分れて返す千鳥哉	31	冬	動物	千鳥				
3428	波荒るゝ入江の月の千鳥哉	32	冬	動物	千鳥				
3429	夜食する船乗どもや浦千鳥	32	冬	動物	千鳥				
3430	鷹狩や陣笠白き五人	24	冬	動物	鷹				
3431	明の月白ふの鷹のふみ崩す	25	冬	動物	鷹				
3432	しづしづと埒出の鷹や下いさみ	25	冬	動物	鷹				
3433	しつしつと埒出の鷹やそこいさみ	25	冬	動物	鷹				
3434	わるひれす鷹のすわりし嵐哉	25	冬	動物	鷹				
3435	据て行く鷹の目すごし市の中	26	冬	動物	鷹				
3436	鷹それで夕日吹きちる嵐哉	26	冬	動物	鷹				
3437	渡りかけて鷹舞ふ阿波の鳴門哉	26	冬	動物	鷹				
3438	すさまじや嵐に向ふ鷹の顔	27	冬	動物	鷹				
3439	はし鷹の拳はなれぬ嵐かな	27	冬	動物	鷹				
3440	ましらふの鷹据ゑて行くあら野哉	27	冬	動物	鷹				
3441	鷹匠の鷹はなしたる荒野哉	28	冬	動物	鷹				
3442	それ鷹の斜めに下りる嵐かな	29	冬	動物	鷹				
3443	それ鷹の斜めに下りる枯野哉	29	冬	動物	鷹				
3444	鷹狩や鶴の毛ちらす麥畑	29	冬	動物	鷹				
3445	鷹狩や鶴の毛を吹く麥畑	29	冬	動物	鷹				
3446	鷹鶴を押へて落ぬ麥畑	29	冬	動物	鷹				
3447	野路の人鷹はなしたるけしき哉	29	冬	動物	鷹				
3448	人一人鷹放したる野道哉	29	冬	動物	鷹				
3449	献上の鷹据ゑて行く裾野哉	30	冬	動物	鷹				
3450	献上の鷹通りけり箱根驛	30	冬	動物	鷹				
3451	献上の鷹に逢ひけり原の驛	30	冬	動物	鷹				
3452	献上や五十三次鷹の旅	30	冬	動物	鷹				
3453	鷹据て人憩ひ居る野茶屋哉	30	冬	動物	鷹				
3454	鷹据うる人に逢ひけり原の中	31	冬	動物	鷹				
3455	鷹狩や豫陽の太守武を好む	32	冬	動物	鷹				

3456	鷹の尾に隼の尾を継ぎにけり	32	冬	動物	鷹				
3457	隼に日本海の朝日かな	30	冬	動物	隼				
3458	聲かきりなきてはいかに都鳥	21	冬	動物	都鳥				
3459	聲かきりなくねきゝたし都鳥	21	冬	動物	都鳥				
3460	世の塵をうけすさすかは都鳥	21	冬	動物	都鳥				
3461	世の塵をうけぬやさすか都鳥	21	冬	動物	都鳥				
3462	我庵に飛てはいれよみやこ鳥	21	冬	動物	都鳥				
3463	雪の日はふところかさん都鳥	24	冬	動物	都鳥				
3464	雪の日の隅田は青し都鳥	25	冬	動物	都鳥				
3465	Yukinohi no Sumida wa awashi Miyakodori	25	冬	動物	都鳥				
3466	Yukinohi ya Sumida no Nagare Miyakodori	25	冬	動物	都鳥				
3467	Yukinohi ya Sumida no Shiraho Miyakodori	25	冬	動物	都鳥				
3468	都鳥囀つて曰く船頭どの	26	冬	動物	都鳥				
3469	耳つくや下より上へさす夕日	24	冬	動物	木菟				
3470	耳つくのそれらでもなし信天翁	25	冬	動物	木菟				
3471	世の中は木菟の耳のなくも哉	28	冬	動物	木菟				
3472	親爺の眼木菟の眼の晝ならん	31	冬	動物	木菟				
3473	梟や聞耳立つる三千騎	25	冬	動物	梟				
3474	梟や杉見あぐれば十日月	25	冬	動物	梟				
3475	梟をなぶるや寺の晝狐	27	冬	動物	梟				
3476	馬糞のそばから出たり鶺鴒	25	冬	動物	鶺鴒				
3477	馬糞の中から出たり鶺鴒	25	冬	動物	鶺鴒				
3478	煤拂のそばまで来たり鶺鴒	25	冬	動物	鶺鴒				
3479	寐る牛をあなどつて来たり鶺鴒	25	冬	動物	鶺鴒				
3480	澤庵の石に上るやみそさゝみ	27	冬	動物	鶺鴒				
3481	菜屑など散らかしておけば鶺鴒	29	冬	動物	鶺鴒				
3482	味噌桶のうしろからどこへ鶺鴒	29	冬	動物	鶺鴒				
3483	聖堂やひつそりとして鶺鴒	31	冬	動物	鶺鴒				
3484	枯菊の色に出にけり鶺鴒	34	冬	動物	鶺鴒				
3485	物あればすなはち隠るみそさゝい	34	冬	動物	鶺鴒				
3486	かいつぶり思はぬ方に浮て出る	26	冬	動物	鳩				
3487	風吹て海静かなりかいつぶり	26	冬	動物	鳩				
3488	さゝ波や氷らぬ鳩の湖青し	27	冬	動物	鳩				
3489	薄氷を砕いて鳩の浮きにけり	28	冬	動物	鳩				
3490	釣舟やしぐれて歸る鳩の湖	28	冬	動物	鳩				
3491	橋ぎはへ流れて来たか鳩	28	冬	動物	鳩				

3492	湖や渺々として鳩一つ	28	冬	動物	鳩				
3493	かいつぶり浮寐のひまもなかりけり	34	冬	動物	鳩				
3494	初雪の夢や見るらん浮寐鳥	24	冬	動物	浮寐鳥				
3495	朝見れば吹きよせられて浮寐鳥	26	冬	動物	浮寐鳥				
3496	御社や庭火に遠き浮寐鳥	31	冬	動物	浮寐鳥				
3497	浮寐鳥平入道の天下かな	34	冬	動物	浮寐鳥				
3498	徳川の夢や見るらん浮寐鳥	34	冬	動物	浮寐鳥				
3499	水遠く渚曲りて浮寐鳥	34	冬	動物	浮寐鳥				
3500	声立てぬ別れやははれ暖鳥	21	冬	動物	暖鳥				
3501	一夜妻ならでははれや暖鳥	21	冬	動物	暖鳥				
3502	おろおろと一夜に瘦せる暖鳥	25	冬	動物	暖鳥				
3503	あちこちに鳴くや夜明の暖鳥	26	冬	動物	暖鳥				
3504	うつかりと放すまじきか暖鳥	26	冬	動物	暖鳥				
3505	うつかりと放すまじきか暖鳥	26	冬	動物	暖鳥				
3506	啼き細る聲のあはれや暖鳥	26	冬	動物	暖鳥				
3507	思ひわびてはなす夜もあり暖鳥	29	冬	動物	暖鳥				
3508	かくまてに見透いて白し河豚の肉	25	冬	動物	河豚				
3509	飼雀のつくづくにらむ干鰻哉	25	冬	動物	河豚				
3510	年九十河豚を知らずと申けり	25	冬	動物	河豚				
3511	ものゝふの河豚にくはるゝ悲しさよ	25	冬	動物	河豚				
3512	風吹てふぐくふ夜のさわがしき	26	冬	動物	河豚	ふぐ<魚+屯>			
3513	風吹て河豚を隠す袂かな	26	冬	動物	河豚				
3514	鰻くふと聞けどやさしや人の顔	26	冬	動物	河豚				
3515	鰻くふや獣うそむく裏の山	26	冬	動物	河豚				
3516	鰻提げて歸るや市の小夜嵐	26	冬	動物	河豚				
3517	鰻に似た顔と知らずや坊が妻	26	冬	動物	河豚				
3518	見るよりも獨りゑまるゝ河豚哉	26	冬	動物	河豚				
3519	大ふぐや思ひきつたる人の顔	27	冬	動物	河豚	ふぐ<魚+屯>			
3520	釣りあげて河豚投げつける石の上	27	冬	動物	河豚				
3521	來年の事言へば鰻が笑ひけり	27	冬	動物	河豚				
3522	鰻くふて悪女を夢に見る夜哉	28	冬	動物	河豚				
3523	鰻くふて心もとなき寐つき哉	28	冬	動物	河豚				
3524	鰻も啼けこゝはきのふの船軍	28	冬	動物	河豚				
3525	戀故に鰻には捨てぬ命哉	29	冬	動物	河豚				
3526	鰻生きて腹の中にてあれる哉	29	冬	動物	河豚				
3527	河豚くふて死ともないか誠かな	29	冬	動物	河豚				

3528	河豚くふて其夜死んだる夢苦し	29	冬	動物	河豚				
3529	鰻で死んで蓮の臺に生ればや	29	冬	動物	河豚				
3530	占へは噬溘河豚に咎なし	30	冬	動物	河豚				
3531	河豚乾鮭を讒すれば海鼠黙々たり	30	冬	動物	河豚				
3532	河豚讒して鮭死す海鼠黙々たり	30	冬	動物	河豚				
3533	勝公事 of 海鼠を讒る河豚哉	31	冬	動物	河豚				
3534	河豚の顔の鏡に寫る醜女哉	33	冬	動物	河豚				
3535	河豚の面に亡父の仇を打たんとす	33	冬	動物	河豚				
3536	不折は河豚の如く爲山はいもの如く	33	冬	動物	河豚				
3537	冬の部に河豚の句多き句集哉	33	冬	動物	河豚				
3538	小鍋立借問す河豚か鮫鱈か	35	冬	動物	河豚				
3539	あんかうに一膳めしの行燈哉	29	冬	動物	鮫鱈				
3540	鮫鱈ありと答へて鍋の仕度かな	35	冬	動物	鮫鱈				
3541	鮫鱈鍋女房に酒をすゝめけり	35	冬	動物	鮫鱈				
3542	鮫鱈鍋河豚の苦説もなかりけり	35	冬	動物	鮫鱈				
3543	鮫鱈の口あけて居る霰かな	35	冬	動物	鮫鱈				
3544	賣れ残る鮫鱈買へと勧めけり	35	冬	動物	鮫鱈				
3545	風邪引の夜著打ちかぶり鮫鱈汁	35	冬	動物	鮫鱈				
3546	君を呼ぶ内證話や鮫鱈汁	35	冬	動物	鮫鱈				
3547	傾城を買ひに往く夜や鮫鱈鍋	35	冬	動物	鮫鱈				
3548	蓋取ツテ消息いかにあんこ鍋	35	冬	動物	鮫鱈				
3549	老妻の火を吹く顔や鮫鱈鍋	35	冬	動物	鮫鱈				
3550	灯ともして鰯洗ふ人や星月夜	29	冬	動物	鰯				
3551	乾鮭の腹ひやひやと風の立つ	25	冬	動物	乾鮭				
3552	雪のくれ乾鮭さげて戻りけり	26	冬	動物	乾鮭				
3553	乾鮭に鶯を待つ裏家哉	28	冬	動物	乾鮭				
3554	乾鮭のつら竝べたる檐端哉	28	冬	動物	乾鮭				
3555	乾鮭と山鳥とつるす厨哉	29	冬	動物	乾鮭				
3556	里町や乾鮭の上に木葉散る	29	冬	動物	乾鮭				
3557	乾鮭北より柚味噌南より到る	30	冬	動物	乾鮭				
3558	から鮭の切口赤き厨哉	30	冬	動物	乾鮭				
3559	から鮭のさしみや鴨はもらひ物	30	冬	動物	乾鮭				
3560	から鮭の髑髏に風の起るかな	30	冬	動物	乾鮭				
3561	乾鮭は魚の枯木と申すべく	30	冬	動物	乾鮭				
3562	から鮭は成佛したる姿哉	30	冬	動物	乾鮭				
3563	から鮭や市に隠れて貧に處す	30	冬	動物	乾鮭				

3564	熊賣って乾鮭買ふて歸りけり	30	冬	動物	乾鮭			
3565	孟子乾鮭を好み荀子河豚を愛す	30	冬	動物	乾鮭			
3566	老僧は人にあらず乾鮭は魚に非ず	30	冬	動物	乾鮭			
3567	から鮭の阪東武士が最期哉	31	冬	動物	乾鮭			
3568	乾鮭や頭は剃らぬ世捨人	31	冬	動物	乾鮭			
3569	乾鮭をもらひて鱈を贈りけり	32	冬	動物	乾鮭			
3570	乾鮭をもらひ蜜柑を贈りけり	32	冬	動物	乾鮭			
3571	乾鮭に目鼻つけたる御姿	33	冬	動物	乾鮭			
3572	棒鱈を引ずつて行く内儀哉	26	冬	動物	棒鱈			
3573	氷魚もよらず風の田上月の宇治	29	冬	動物	氷魚			
3574	氷魚痩せて月の雫と解けぬべし	29	冬	動物	氷魚			
3575	寒鮓を尋ねて市に鯉を得つ	30	冬	動物	寒鮓			
3576	狼に寒鮓を獻す獺の衆	31	冬	動物	寒鮓			
3577	杜夫魚のまうけ少なきたつき哉	31	冬	動物	杜父魚			
3578	霜やけの手から海鼠のすへりけり	24	冬	動物	海鼠			
3579	小石にも魚にもならず海鼠哉	25	冬	動物	海鼠			
3580	逃げる氣もつかでとらるゝ海鼠哉	25	冬	動物	海鼠			
3581	にげる氣もなくで取らるゝ海鼠哉	25	冬	動物	海鼠			
3582	海老は鎧。海鼠の裸を笑つて曰く	26	冬	動物	海鼠			
3583	瓦とも石とも扱は海鼠とも	26	冬	動物	海鼠			
3584	空死と見えではなれな海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3585	渾沌をかりに名づけて海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3586	にらして海鼠押える和尚哉	26	冬	動物	海鼠			
3587	摺鉢を海鼠匍い出す寒さかな	26	冬	動物	海鼠			
3588	禪寺の木魚にならぶ海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3589	大名のつくつく見たる海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3590	海鼠出る頃を隠れてむぐらもち	26	冬	動物	海鼠	むぐらもち<漢字二文字：晏+鼠、鼠>		
3591	海鼠とも見えで中々あはれ也	26	冬	動物	海鼠			
3592	のら猫の鼻つけて見る海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3593	平鉢に氷りついたる海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3594	世の中をかしくくらす海鼠哉	26	冬	動物	海鼠			
3595	天地を我が産み顔の海鼠かな	27	冬	動物	海鼠			
3596	大海鼠覺束なさの姿かな	27	冬	動物	海鼠			
3597	風もなし海鼠日和の薄曇り	27	冬	動物	海鼠			
3598	貞女石に化す悪女海鼠に化すやらん	27	冬	動物	海鼠			
3599	引汐の錨にかゝる海鼠かな	27	冬	動物	海鼠			

3600	引汐に引き残されし海鼠哉	28	冬	動物	海鼠				
3601	海鼠喰ひ海鼠のやうな人ならし	29	冬	動物	海鼠				
3602	念佛は海鼠眞言は鯨にこそ	29	冬	動物	海鼠				
3603	晴れもせず雪にもならず海鼠哉	29	冬	動物	海鼠				
3604	無爲にして海鼠一萬八千歳	29	冬	動物	海鼠				
3605	一休の糞になつたる海鼠哉	30	冬	動物	海鼠				
3606	庫裡腥くある夜海鼠の怪を見る	30	冬	動物	海鼠				
3607	切に誠む海鼠に酒をのむ勿れ	30	冬	動物	海鼠				
3608	海鼠黙し河豚嘲る浮世かな	30	冬	動物	海鼠				
3609	海鼠黙し河豚ふくるゝ浮世かな	30	冬	動物	海鼠				
3610	初五文字のすわらでやみぬ海鼠の句	31	冬	動物	海鼠				
3611	海鼠眼なしふくとの面を憎みけり	31	冬	動物	海鼠				
3612	菩提もと樹にあらず海鼠魚にあらず	31	冬	動物	海鼠				
3613	剛の坐は鯽臆の坐は海鼠哉	33	冬	動物	海鼠				
3614	凧にしつかりふさぐ蠣の蓋	25	冬	動物	牡蠣				
3615	肉さしに見事つきさす蠣の腹	25	冬	動物	牡蠣				
3616	妹がりや荒れし垣根の蠣の殻	27	冬	動物	牡蠣				
3617	大船の蠣すり落す干潟かな	27	冬	動物	牡蠣				
3618	引き汐や岩あらはれて蠣の殻	28	冬	動物	牡蠣				
3619	牡蠣汁や居續けしたる二日酔	31	冬	動物	牡蠣				
3620	膝かくす紙衣破れて冬の蠅	25	冬	動物	冬の蠅				
3621	日あたりや障子に羽打つ冬の蠅	27	冬	動物	冬の蠅				
3622	古筆や墨嘗めに來る冬の蠅	27	冬	動物	冬の蠅				
3623	うとましやながらへて世に冬の蠅	28	冬	動物	冬の蠅				
3624	うとましや世にながらへて冬の蠅	28	冬	動物	冬の蠅				
3625	冬の蠅火鉢の縁をはひありく	28	冬	動物	冬の蠅				
3626	我病みて冬の蠅にも劣りけり	28	冬	動物	冬の蠅				
3627	日のあたる硯の箱や冬の蠅	32	冬	動物	冬の蠅				
3628	人をさす劍はさびて冬の蜂	26	冬	動物	冬の蜂				
3629	汽車道の一すぢ長し冬木立	25	冬	植物	冬木立				
3630	鐵道の一筋長し冬木立	25	冬	植物	冬木立				
3631	不二へ行く一筋道や冬木立	25	冬	植物	冬木立				
3632	犬吠て里遠からず冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3633	産神や石の鳥居も冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3634	沖中や鳥居一つの冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3635	其杖も男鹿の角も冬木立	26	冬	植物	冬木立				

3636	野の宮の鳥居も冬の木立哉	26	冬	植物	冬木立				
3637	ひかひかと神の鏡や冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3638	村もあり酒屋もありて冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3639	山陰や村の境の冬木立	26	冬	植物	冬木立				
3640	入る月や帆柱竝ぶ冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3641	大雨のざんざとふるや冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3642	大庭や落葉もなしに冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3643	小鳥さへ啼かず冬木立静かなり	27	冬	植物	冬木立				
3644	銃提げし士官に逢ひぬ冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3645	其奥に富士見ゆるなり冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3646	建石や道折り曲る冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3647	誰様の御下屋敷ぞ冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3648	ところどころ烟突高し冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3649	鳥歸る冬の林の塔暮れたり	27	冬	植物	冬木立				
3650	菜畑や小村をめぐる冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3651	菜を掛けし家こそ見ゆれ冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3652	日暮里や只植木屋の冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3653	冬木立隠士が家の見ゆる哉	27	冬	植物	冬木立				
3654	冬木立五重の塔の聳えけり	27	冬	植物	冬木立				
3655	冬木立千住の橋の見ゆるなり	27	冬	植物	冬木立				
3656	冬木立道灌山の鳥居かな	27	冬	植物	冬木立				
3657	冬木立道灌山の麓かな	27	冬	植物	冬木立				
3658	棒杭や四ッ街道の冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3659	奉納の白き幟や冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3660	町中に聖天高し冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3661	見れば晝の月かゝりけり冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3662	昔寵愛の女住みけり冬木立	27	冬	植物	冬木立				
3663	村もなし只冬木立まばらなり	27	冬	植物	冬木立				
3664	煙突や千住あたりの冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3665	片側は杉の木立や冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3666	雲かくす山陰も無し冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3667	山門を出て八町の冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3668	白帆ばかり見ゆや漁村の冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3669	絶壁に月かゝりけり冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3670	田の畦も畠のへりも冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3671	冬木立瀧ごうごうと聞えけり	28	冬	植物	冬木立				

3672	冬木立遙かに富士の見ゆる哉	28	冬	植物	冬木立				
3673	門前のすぐに阪なり冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3674	夕榮や鴉しづまる冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3675	横須賀や只帆檣の冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3676	四辻や東芝山冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3677	岡ぞひや杉の木まじり冬木立	28	冬	植物	冬木立				
3678	いくさやんで人無き村や冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3679	家二軒畑つくりけり冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3680	馬行くや道灌山の冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3681	千年の建物黒し冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3682	何もなし只冬木立古社	29	冬	植物	冬木立				
3683	人叱る關所の聲や冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3684	冬木立骸骨月に吟じ行く	29	冬	植物	冬木立				
3685	冬木立日の入見えて奥深き	29	冬	植物	冬木立				
3686	冬木立不動の火焰燃えにけり	29	冬	植物	冬木立				
3687	冬木立御座を設けて川に臨む	29	冬	植物	冬木立				
3688	冬木立のうしろに赤き入日哉	29	冬	植物	冬木立				
3689	古道の菜も朽ちぬ冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3690	湖にそふて驛あり冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3691	三芳野に櫻少し冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3692	めらめらと燃ゆる伽藍や冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3693	めらめらと焼ける伽藍や冬木立	29	冬	植物	冬木立				
3694	一村は竹藪もなし冬木立	30	冬	植物	冬木立				
3695	其中に柵の境や冬木立	30	冬	植物	冬木立				
3696	寺ありて小料理屋もあり冬木立	30	冬	植物	冬木立				
3697	冬木立鳥啼きやんで飛ぶ音す	30	冬	植物	冬木立				
3698	砂村や稻荷を祭る冬木立	31	冬	植物	冬木立				
3699	冬木立煙の立たぬ小村哉	31	冬	植物	冬木立				
3700	橋越えて淋しき道や冬木立	32	冬	植物	冬木立				
3701	拂ひ下げて民に伐らしむ冬木立	32	冬	植物	冬木立				
3702	二三本杉もまじりて冬木立	34	冬	植物	冬木立				
3703	盗人の金や隠せし冬木立	34	冬	植物	冬木立				
3704	冬木立色ある者はなかりけり	34	冬	植物	冬木立				
3705	冬木立からからと礫かすめ去る	不詳	冬	植物	冬木立				
3706	汽車道に冬木の影の並びけり	28	冬	植物	冬木				
3707	ことごとく藁を掛けたる冬木哉	28	冬	植物	冬木				

3708	片側は冬木になりぬ町はつれ	29	冬	植物	冬木				
3709	田の畝のあちらこちらに冬木哉	29	冬	植物	冬木				
3710	二三本冬木とりまく泉哉	29	冬	植物	冬木				
3711	はつきりと冬木の末や晝の月	29	冬	植物	冬木				
3712	古道に馬も通らぬ冬木哉	29	冬	植物	冬木				
3713	ぼくぼくと冬の木竝ぶ社哉	29	冬	植物	冬木				
3714	瘦村に行列とまる冬木かな	29	冬	植物	冬木				
3715	枯れてから何千年ぞ扶桑木	25	冬	植物	枯木				
3716	一もとの枯木を闇や花ざかり	25	冬	植物	枯木				
3717	木立枯れて夜半の庭火のあらは也	26	冬	植物	枯木				
3718	無花果の鈍な枯れ様したりけり	27	冬	植物	枯木				
3719	梟の思ひかけずよ枯木立	27	冬	植物	枯木				
3720	水落ちて橋高し枯木二三本	27	冬	植物	枯木				
3721	五六軒雪つむ家や枯木立	28	冬	植物	枯木				
3722	眞間寺や枯木の中の仁王門	28	冬	植物	枯木				
3723	聳えたる枯木の中や星一つ	30	冬	植物	枯木				
3724	筑波嶺やかのもこのものめつた枯	31	冬	植物	枯木				
3725	四五尺の枯木にとまる鴉かな	34	冬	植物	枯木				
3726	制札を掛けたる宮の枯木かな	34	冬	植物	枯木				
3727	何鳥か五六羽來たる枯木かな	34	冬	植物	枯木				
3728	風情無き枯木の庭となりにけり	34	冬	植物	枯木				
3729	祇園清水冬枯もなし東山	22	冬	植物	冬枯				
3730	冬枯の中に家居や村一つ	22	冬	植物	冬枯				
3731	冬枯の今をはれとやふしの山	24	冬	植物	冬枯				
3732	冬かれや田舎娘のうつくしき	24	冬	植物	冬枯				
3733	冬枯に枯葉も見えぬ小笹哉	25	冬	植物	冬枯				
3734	冬枯のうしろに高し不二の山	25	冬	植物	冬枯				
3735	冬枯のうしろに立つや不二の山	25	冬	植物	冬枯				
3736	冬枯の草の家つゝく鳥哉	25	冬	植物	冬枯				
3737	冬枯の野に學校のふらふ哉	25	冬	植物	冬枯				
3738	冬枯やいよいよ松の高うなる	25	冬	植物	冬枯				
3739	冬枯や蛸ぶら下る煮賣茶屋	25	冬	植物	冬枯				
3740	辻君の袂枯れたる木陰哉	26	冬	植物	冬枯				
3741	冬枯に犬の追ひ出す鳥哉	26	冬	植物	冬枯				
3742	冬枯にうら紫の萬年青哉	26	冬	植物	冬枯				
3743	冬枯のうしろに遠し赤煉瓦	26	冬	植物	冬枯				

3744	冬枯の垣根に咲くや薔薇の花	26	冬	植物	冬枯				
3745	冬枯の木間に青し電氣燈	26	冬	植物	冬枯				
3746	冬枯や柿をくはへたとぶ烏	26	冬	植物	冬枯				
3747	冬枯の一隅青し三河嶋	26	冬	植物	冬枯				
3748	冬枯や酒藏赤き村はづれ	26	冬	植物	冬枯				
3749	冬枯や雑木の奥の松林	26	冬	植物	冬枯				
3750	冬枯や賤が檐端の烏瓜	26	冬	植物	冬枯				
3751	冬枯や巡査に吠える里の犬	26	冬	植物	冬枯				
3752	冬枯や牡丹花が乗る牛の綱	26	冬	植物	冬枯				
3753	冬枯やまだ頼みある青筑波	26	冬	植物	冬枯				
3754	冬枯や都をめぐる隅田川	26	冬	植物	冬枯				
3755	冬枯や目黒の奥の二王門	26	冬	植物	冬枯				
3756	冬枯や王子に多き赤棟瓦	26	冬	植物	冬枯				
3757	冬枯や繪の嶋山の貝屏風	26	冬	植物	冬枯				
3758	冬枯をのがれぬ庵の小庭哉	26	冬	植物	冬枯				
3759	戀にうとき身は冬枯るゝ許りなり	27	冬	植物	冬枯				
3760	道灌の山吹の里も冬枯れぬ	27	冬	植物	冬枯				
3761	冬枯に飯粒ひろふ雀かな	27	冬	植物	冬枯				
3762	冬枯の荒れて菊未だ衰へず	27	冬	植物	冬枯				
3763	冬枯の檜の木りと聳えけり	27	冬	植物	冬枯				
3764	冬枯のたくひにもあらず眼の光り	27	冬	植物	冬枯				
3765	冬枯の築山淋し石燈籠	27	冬	植物	冬枯				
3766	冬枯の中に小松の山一つ	27	冬	植物	冬枯				
3767	冬枯の根岸淋しや日の御旗	27	冬	植物	冬枯				
3768	冬枯の野末につゞく白帆かな	27	冬	植物	冬枯				
3769	冬枯の山はうつくしき者許り	27	冬	植物	冬枯				
3770	冬枯や礎見えて犬の糞	27	冬	植物	冬枯				
3771	冬枯や大きな鳥の飛んで行く	27	冬	植物	冬枯				
3772	冬枯や手拭動く堀の内	27	冬	植物	冬枯				
3773	冬枯や隣へつゞく庵の庭	27	冬	植物	冬枯				
3774	冬枯や鳥に石打つ童あり	27	冬	植物	冬枯				
3775	冬枯や何山彼山富士の山	27	冬	植物	冬枯				
3776	冬枯や張物見ゆる裏田圃	27	冬	植物	冬枯				
3777	冬枯や遙かに見ゆる眞間の寺	27	冬	植物	冬枯				
3778	冬枯や王子の道の稻荷鮓	27	冬	植物	冬枯				
3779	唐辛子妹が垣根も冬枯るゝ	28	冬	植物	冬枯				

3780	冬枯るゝ土橋の縁の小草かな	28	冬	植物	冬枯			
3781	冬枯れて森の堺の柵長し	28	冬	植物	冬枯			
3782	冬枯の中に小菊の赤さかな	28	冬	植物	冬枯			
3783	冬枯や石臼残る井戸の端	28	冬	植物	冬枯			
3784	冬枯や馬の尿する草の中	28	冬	植物	冬枯			
3785	冬枯や馬の尿する原の中	28	冬	植物	冬枯			
3786	冬枯や鏡にうつる雲の影	28	冬	植物	冬枯			
3787	冬枯や鳥のとまる勿釣瓶	28	冬	植物	冬枯			
3788	冬枯や木もなき堤馬歸る	28	冬	植物	冬枯			
3789	冬枯や子とものくゞる枳殻垣	28	冬	植物	冬枯			
3790	冬枯や三の臺場の高燈籠	28	冬	植物	冬枯			
3791	冬枯やともし火通ふ桑畑	28	冬	植物	冬枯			
3792	冬枯や奈良の小店の鹿の角	28	冬	植物	冬枯			
3793	冬枯や鳩驚いて屋根の上	28	冬	植物	冬枯			
3794	冬枯や童のくゞる枳殻垣	28	冬	植物	冬枯			
3795	古堀や水草少し冬枯るゝ	28	冬	植物	冬枯			
3796	裾山や根笹まじりに冬枯るゝ	29	冬	植物	冬枯			
3797	はらわたの冬枯れてたゞ發句哉	29	冬	植物	冬枯			
3798	冬枯るゝ筆の穂とこそさては花	29	冬	植物	冬枯			
3799	冬枯れて鳥居一つや土手の上	29	冬	植物	冬枯			
3800	冬枯に二見が浦の朝日かな	29	冬	植物	冬枯			
3801	冬枯の湖水に島もなかりけり	29	冬	植物	冬枯			
3802	冬枯の地藏の辻に追剥す	29	冬	植物	冬枯			
3803	冬枯の中に猗々として竹青し	29	冬	植物	冬枯			
3804	冬枯の八百屋に赤し何の瓜	29	冬	植物	冬枯			
3805	冬枯や曰く庭前の松樹子	29	冬	植物	冬枯			
3806	冬枯や庚申堂の小豆飯	29	冬	植物	冬枯			
3807	冬枯や神住むべくもなき小宮	29	冬	植物	冬枯			
3808	冬枯や車の通る道一つ	29	冬	植物	冬枯			
3809	冬枯や小笹の中の藪柑子	29	冬	植物	冬枯			
3810	冬枯や粲爛として阿房宮	29	冬	植物	冬枯			
3811	冬枯や提灯走る一の谷	29	冬	植物	冬枯			
3812	冬枯や塵のやうなる虫が飛ぶ	29	冬	植物	冬枯			
3813	冬枯や鼠すてたる町はづれ	29	冬	植物	冬枯			
3814	冬枯や百穴見ゆる雑木山	29	冬	植物	冬枯			
3815	冬枯や物ほしさうに鳴く鳥	29	冬	植物	冬枯			

3816	冬枯や八百屋の店の赤冬瓜	29	冬	植物	冬枯			
3817	冬枯や草鞋くはへて飛ぶ鴉	29	冬	植物	冬枯			
3818	松生けて冬枯時の酒宴哉	29	冬	植物	冬枯			
3819	冬枯に漏れたまはぬぞ是非もなき	30	冬	植物	冬枯			
3820	冬枯の北を限りて城長し	30	冬	植物	冬枯			
3821	冬枯の様や芭蕉も義仲も	30	冬	植物	冬枯			
3822	冬枯や郵便箱のなき小村	30	冬	植物	冬枯			
3823	冬枯や郵便箱もなき小村	30	冬	植物	冬枯			
3824	冬枯やともし火通る桑畑	30	冬	植物	冬枯			
3825	冬枯の根岸を訪ふや繪師が家	31	冬	植物	冬枯			
3826	冬枯や熊祭る子の蝦夷錦	31	冬	植物	冬枯			
3827	冬かれの紅緑も京をさらんとす	32	冬	植物	冬枯			
3828	冬枯れやはごにかゝりし鴝の聲	32	冬	植物	冬枯			
3829	冬枯の中に錦を織る處	35	冬	植物	冬枯			
3830	山茶花の椽にこぼるゝ日和哉	26	冬	植物	山茶花			
3831	山茶花や石燈籠の鳥の糞	26	冬	植物	山茶花			
3832	山茶花に犬の子眠る日和かな	27	冬	植物	山茶花			
3833	山茶花に鉦鳴らす庵の尼か僧か	27	冬	植物	山茶花			
3834	山茶花に戀ならで病める女あり	27	冬	植物	山茶花			
3835	山茶花に猶なまめくや頼れ門	27	冬	植物	山茶花			
3836	山茶花や墓をとりまくかなめ垣	27	冬	植物	山茶花			
3837	板塀に山茶花見ゆる梢哉	28	冬	植物	山茶花			
3838	板塀や山茶花見ゆる末ばかり	28	冬	植物	山茶花			
3839	山茶花のこゝを書齋と定めたり	28	冬	植物	山茶花			
3840	山茶花の散る裏門や館舩	28	冬	植物	山茶花			
3841	山茶花や窓に影さす飯時分	28	冬	植物	山茶花			
3842	山茶花を雀のこぼす日和哉	28	冬	植物	山茶花			
3843	植木屋の垣の山茶花咲きにけり	29	冬	植物	山茶花			
3844	植木屋の山茶花早く咲にけり	29	冬	植物	山茶花			
3845	山茶花のこぼれかゝるやかなめ垣	29	冬	植物	山茶花			
3846	山茶花や病みて琴ひく思ひ者	29	冬	植物	山茶花			
3847	山茶花に花に匏屑吹く柱立	30	冬	植物	山茶花			
3848	杉垣に山茶花散るや野の小家	30	冬	植物	山茶花			
3849	山茶花に新聞遅き場末哉	31	冬	植物	山茶花			
3850	山茶花に南受ける書齋哉	31	冬	植物	山茶花			
3851	山茶花の垣に銀杏の落葉哉	31	冬	植物	山茶花			

3852	山茶花や爐を開きたる南受	31	冬	植物	山茶花			
3853	山茶花の垣根に人を尋ねけり	32	冬	植物	山茶花			
3854	山茶花や子供遊ばす芝の上	32	冬	植物	山茶花			
3855	山茶花や鳥居小き袍衣の神	32	冬	植物	山茶花			
3856	山茶花やまでやはらかき墓の土	32	冬	植物	山茶花			
3857	山茶花の垣の内にも山茶花や	35	冬	植物	山茶花			
3858	北窓の破れにすくや寒椿	23	冬	植物	寒椿			
3859	冬椿猪首にさくぞ面白き	25	冬	植物	寒椿			
3860	寒椿落て氷るや手水鉢	26	冬	植物	寒椿			
3861	寒椿力を入れて赤を咲く	26	冬	植物	寒椿			
3862	其まゝに巴の尼や寒椿	26	冬	植物	寒椿			
3863	名もかへで巴の尼や寒椿	26	冬	植物	寒椿			
3864	年中の明家なりけり冬椿	26	冬	植物	寒椿			
3865	花活に一輪赤し冬椿	26	冬	植物	寒椿			
3866	灰すてる小庭の隅や寒椿	26	冬	植物	寒椿			
3867	新らしき家のふゑけり寒椿	27	冬	植物	寒椿			
3868	寒椿今年は咲かぬやうすなり	27	冬	植物	寒椿			
3869	寒椿黒き佛に手向けばや	28	冬	植物	寒椿			
3870	寒梅や小窓とびこす走り炭	23 ~ 25	冬	植物	寒梅			
3871	賈島やせ孟郊寒し梅の花	24	冬	植物	寒梅			
3872	賈島やせ孟郊寒し梅の雪	24	冬	植物	寒梅			
3873	賈島瘦せ孟郊寒し雪の梅	24	冬	植物	寒梅			
3874	寒梅のかをりはひくし鰻めし	25	冬	植物	寒梅			
3875	寒梅やある夜の夢に星落ちて	25	冬	植物	寒梅			
3876	寒梅やかすかに星の二つ三つ	25	冬	植物	寒梅			
3877	寒梅や的場あたりは田舎めく	25	冬	植物	寒梅			
3878	天地の氣かすかに通ふて寒の梅	25	冬	植物	寒梅			
3879	天地の氣かすかに通ふ寒の梅	25	冬	植物	寒梅			
3880	天の息かすかに届く寒の梅	25	冬	植物	寒梅			
3881	二三輪咲く骨折や冬の梅	25	冬	植物	寒梅			
3882	一枝に四輪は多し冬のうめ	25	冬	植物	寒梅			
3883	冬の梅裏手の方を咲きにけり	25	冬	植物	寒梅			
3884	骨折て四五輪さきぬ冬のうめ	25	冬	植物	寒梅			
3885	横笛冴けりな寒梅開く二三輪	25	冬	植物	寒梅			
3886	市中や賣られて通る冬の梅	26	冬	植物	寒梅			
3887	寒梅や焚き物盡きて琴一つ	26	冬	植物	寒梅			

3888	春またず年もをしまず寒の梅	26	冬	植物	寒梅			
3889	日の筋の一つ二つは寒の梅	26	冬	植物	寒梅			
3890	眞丸な氷釣りけり冬の梅	26	冬	植物	寒梅			
3891	寒梅や欄干低く筑波山	27	冬	植物	寒梅			
3892	春は芽ばれ薪にきらん冬の梅	28	冬	植物	寒梅			
3893	苦辛こゝに成功を見る冬の梅	32	冬	植物	寒梅			
3894	千駄木に隠れおほせぬ冬の梅	32	冬	植物	寒梅			
3895	金杉や早梅一枝垣の外	28	冬	植物	早梅			
3896	咲いたとてそれがどうした室の梅	28	冬	植物	室の梅			
3897	ことごとく紅苔む室の梅	32	冬	植物	室の梅			
3898	おちぶれし殿上人や冬牡丹	21	冬	植物	冬牡丹			
3899	雪よりも時雨にもろし冬牡丹	21	冬	植物	冬牡丹			
3900	いぶかしや賤が伏家の冬牡丹	22	冬	植物	冬牡丹			
3901	雪ふるや折角さいた冬牡丹	23	冬	植物	冬牡丹			
3902	馬糞のぬくもりにさく冬牡丹	25	冬	植物	冬牡丹			
3903	誰がすんで京のはづれの冬牡丹	26	冬	植物	冬牡丹			
3904	中々に小さくもあらず冬牡丹	26	冬	植物	冬牡丹			
3905	花いけに一輪赤し冬牡丹	26	冬	植物	冬牡丹			
3906	吹きつけた雪も氷るや冬牡丹	26	冬	植物	冬牡丹			
3907	冬牡丹江口の君の姿かな	26	冬	植物	冬牡丹			
3908	尼寺に冬の牡丹もなかりけり	28	冬	植物	冬牡丹			
3909	冬牡丹尼になりたくは思へども	28	冬	植物	冬牡丹			
3910	朝下る寒暖計や冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹			
3911	寒牡丹枝兀として花一つ	33	冬	植物	冬牡丹			
3912	君がために冬牡丹かく祝哉	33	冬	植物	冬牡丹			
3913	日暮の里の舊家や冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹			
3914	一つ散りて後に花なし冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹			
3915	病牀に寫生の料や冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹			
3916	火を焚かぬ煖爐の側や冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹			
3917	冬牡丹咲かで腐りし蕾かな	33	冬	植物	冬牡丹			
3918	冬牡丹頼み少く咲にけり	33	冬	植物	冬牡丹			
3919	冬牡丹若葉乏しみ寒げ也	33	冬	植物	冬牡丹			
3920	古株の枝槎牙として冬牡丹	33	冬	植物	冬牡丹	牙(が<木+牙>)		
3921	フランスの一輪ざしや冬の薔薇	30	冬	植物	冬薔薇			
3922	築地行けば垣根の薔薇や冬の花	32	冬	植物	冬薔薇			
3923	はきだめの臭き中より枇杷の花	26	冬	植物	枇杷の花			

3924	さはるべき雲さへ持たず枇杷の花	27	冬	植物	枇杷の花			
3925	山門や妙な處に枇杷の花	28	冬	植物	枇杷の花			
3926	枇杷咲くや寺は鐘うつ飯時分	28	冬	植物	枇杷の花			
3927	咲いて散りし北の家陰の枇杷の花	29	冬	植物	枇杷の花			
3928	咲て散りし家のうしろの枇杷の花	29	冬	植物	枇杷の花			
3929	北庭や日影乏しき枇杷の花	31	冬	植物	枇杷の花			
3930	植込のうしろの方や枇杷の花	33	冬	植物	枇杷の花			
3931	職業の分らぬ家や枇杷の花	33	冬	植物	枇杷の花			
3932	八手咲いて茶坐敷としも見ゆるかな	27	冬	植物	八手の花			
3933	手水鉢八手の花に位置をとる	35	冬	植物	八手の花			
3934	公達の御成の小家や歸り花	25	冬	植物	歸り花			
3935	白壁に見失ひけり歸り花	25	冬	植物	歸り花			
3936	蝉のから碎けたあとや歸り花	25	冬	植物	歸り花			
3937	はかなしや不二をかさして歸り花	25	冬	植物	歸り花			
3938	入相の鐘に開くか歸り花	26	冬	植物	歸り花			
3939	歸り花比丘の比丘尼をとふ日哉	26	冬	植物	歸り花			
3940	藏陰に雀鳴くなり歸り花	26	冬	植物	歸り花			
3941	盃にちるや櫻の歸り花	26	冬	植物	歸り花			
3942	川崎や畠は梨の歸り花	27	冬	植物	歸り花			
3943	歸り咲く八重の櫻や法隆寺	28	冬	植物	歸り花			
3944	なかなか咲くあはれさよ歸り花	28	冬	植物	歸り花			
3945	木老いて歸り花さへ咲かざりき	29	冬	植物	歸り花			
3946	木老いて歸り花だに咲かざりき	29	冬	植物	歸り花			
3947	腐り盡す老木と見れば返り花	29	冬	植物	歸り花			
3948	復の卦や昔の妻の返り花	30	冬	植物	歸り花			
3949	徳川の靈屋の側や歸り花	31	冬	植物	歸り花			
3950	筆秃びて返り咲くべき花もなし	34	冬	植物	歸り花			
3951	しほらしやつまれたる茶も花盛	20	冬	植物	茶の花			
3952	茶の花や利休の像を床の上	20	冬	植物	茶の花			
3953	茶の花や霜に明行ふしの山	25	冬	植物	茶の花			
3954	茶の花の茶の葉あるこそ恨みなれ	26	冬	植物	茶の花			
3955	茶の花や霜にさびたる銀閣寺	26	冬	植物	茶の花			
3956	庭下駄に茶の花摘まん霜日和	26	冬	植物	茶の花			
3957	からたちの中に茶の花あはれなり	27	冬	植物	茶の花			
3958	茶の花や庭にもあらず野にもあらず	27	冬	植物	茶の花			
3959	茶の花や坊主頭の五つ六つ	27	冬	植物	茶の花			

3960	茶の花や坊主の頭五つ六つ	27	冬	植物	茶の花			
3961	藪陰に茶の花白し晝の月	28	冬	植物	茶の花			
3962	茶の花に梅の枯木を愛す哉	29	冬	植物	茶の花			
3963	茶の花に鱒乾したり門徒寺	29	冬	植物	茶の花			
3964	茶の花に烟絶えたる香爐哉	29	冬	植物	茶の花			
3965	茶の花の中にまじりて茶實哉	29	冬	植物	茶の花			
3966	茶の花の中行く旅や左富士	29	冬	植物	茶の花			
3967	茶の花の二十日あまりを我病めり	29	冬	植物	茶の花			
3968	茶の花や客をもてなす乾鱒	29	冬	植物	茶の花			
3969	茶の花や詩僧を會す黄檗寺	29	冬	植物	茶の花			
3970	茶の花や詩僧を會す萬福寺	29	冬	植物	茶の花			
3971	茶の花や花を以てすれば梅の兄	29	冬	植物	茶の花			
3972	茶の花や祠小暗き庭の隅	29	冬	植物	茶の花			
3973	茶の花や横に見て行朝の不二	29	冬	植物	茶の花			
3974	茶の花や藁屋の烟朝の月	29	冬	植物	茶の花			
3975	茶の花を花生けに生けて爐をおこす	29	冬	植物	茶の花			
3976	野はづれに茶の花は誰が別荘ぞ	29	冬	植物	茶の花			
3977	藪陰に茶の花咲きぬ寺の道	29	冬	植物	茶の花			
3978	活けて久しき茶の花散りぬ土達磨	31	冬	植物	茶の花			
3979	茶の花やうしろ上りに東山	31	冬	植物	茶の花			
3980	茶の花や庭のうしろの東山	31	冬	植物	茶の花			
3981	菓子赤く茶の花白き忌日哉	33	冬	植物	茶の花			
3982	茶の花や雨にぬれたる庭の石	33	冬	植物	茶の花			
3983	一もとの榎枯れたり六地藏	27	冬	植物	枯榎			
3984	小幟や狸を祭る枯榎	29	冬	植物	枯榎			
3985	名物の饅頭店や枯榎	33	冬	植物	枯榎			
3986	枯柳相如が題字古りにけり	26	冬	植物	枯柳			
3987	井戸のぞく小供も居らず枯柳	26	冬	植物	枯柳			
3988	嶋原の入口淋し枯柳	27	冬	植物	枯柳			
3989	古池や柳枯れて鴨石に在り	27	冬	植物	枯柳			
3990	柳枯れぬ菜畠めぐる藁の垣	27	冬	植物	枯柳			
3991	王城やいくさのあとの枯柳	27	冬	植物	枯柳			
3992	枯柳棧橋朽ちて舟もなし	28	冬	植物	枯柳			
3993	枯柳三味線の音更けにけり	28	冬	植物	枯柳			
3994	辻々のともし火赤し枯柳	28	冬	植物	枯柳			
3995	橋もとや厠のそばの枯柳	28	冬	植物	枯柳			

3996	古橋やいぶしこぶしの枯柳	28	冬	植物	枯柳			
3997	まつち賣るともし火暗し枯柳	28	冬	植物	枯柳			
3998	燐寸賣るともし火細し枯柳	28	冬	植物	枯柳			
3999	枯柳朝妻舟もなかりけり	29	冬	植物	枯柳			
4000	枯柳八卦を画く行燈あり	29	冬	植物	枯柳			
4001	からみつく枯蔦長し牛の角	26	冬	植物	枯蔦			
4002	枯蔦のしがみついたる巖かな	27	冬	植物	枯蔦			
4003	枯蔦や石につまづく宇都の山	27	冬	植物	枯蔦			
4004	蔦枯れて戀のかな橋中絶えぬ	29	冬	植物	枯蔦			
4005	枯蔦や賣家覗く破れ門	31	冬	植物	枯蔦			
4006	藤枯れて晝の日弱る石の牛	29	冬	植物	枯藤			
4007	枯萩や日和定まる伊良古崎	27	冬	植物	枯萩			
4008	萩も菊も芒も枯れて松三本	29	冬	植物	枯萩			
4009	櫓の火に石版摺のすゝけかな	25	冬	植物	櫓			
4010	櫓焚くや伊吹を背負ふ一軒家	26	冬	植物	櫓			
4011	櫓の火や宿かる家の種が嶋	26	冬	植物	櫓			
4012	櫓火焚て武庫山嵐来る夜哉	26	冬	植物	櫓			
4013	櫓の火や伊吹を背負ふ一軒家	26	冬	植物	櫓			
4014	落武者に驚かされぬ櫓の夢	28	冬	植物	櫓			
4015	櫓たくや檜の嵐杉の風	28	冬	植物	櫓			
4016	櫓の火や雲にも埋もる木曾の家	28	冬	植物	櫓			
4017	君か代は冬の筍親五十	29	冬	植物	寒竹			
4018	母人へ冬の筍もて歸る	29	冬	植物	寒竹			
4019	かいまみる寒竹長屋冬の婆	30	冬	植物	寒竹			
4020	枯萩や日和定まる伊良古崎	27	冬	植物	枯萩			
4021	枯れあしやおとなしからぬ風の聲	23	冬	植物	枯芦			
4022	枯あしの折れこむ舟や石たゞき	24	冬	植物	枯芦			
4023	枯あしや名もなき川の面白き	24	冬	植物	枯芦			
4024	折れ折れて枯あし川をうつめけり	24	冬	植物	枯芦			
4025	枯蘆の中に火を焚く小船哉	26	冬	植物	枯芦			
4026	枯蘆やこえ船歸る夕月夜	26	冬	植物	枯芦			
4027	枯蘆や沼地つゞきの薄氷	26	冬	植物	枯芦			
4028	片岸の蘆ことごとく枯れにけり	27	冬	植物	枯芦			
4029	枯蘆につゞく千住の木立かな	27	冬	植物	枯芦			
4030	枯蘆の折れも盡さす捨小舟	27	冬	植物	枯芦			
4031	枯蘆や同じ處に捨小舟	27	冬	植物	枯芦			

4032	枯蘆に春風吹くや鳩の海	28	冬	植物	枯芦				
4033	枯蘆や鶴鴝ありく水の隈	28	冬	植物	枯芦				
4034	蘆枯れて鳥ものくふ中洲哉	29	冬	植物	枯芦				
4035	枯蘆を刈りて洲崎の廓哉	32	冬	植物	枯芦				
4036	芭蕉枯れんとして其音かしましき	26	冬	植物	枯芭蕉				
4037	音のしてある夜倒れぬ枯芭蕉	28	冬	植物	枯芭蕉				
4038	なかなかに画師の庵の枯芭蕉	28	冬	植物	枯芭蕉				
4039	此頃は音なくなりぬ枯芭蕉	29	冬	植物	枯芭蕉				
4040	芭蕉枯れて緑乏しき小庭哉	31	冬	植物	枯芭蕉				
4041	六尺の緑枯れたる芭蕉哉	33	冬	植物	枯芭蕉				
4042	苔の霜夜の間にちりし紅葉哉	24	冬	植物	散紅葉				
4043	石壇や一つ一つに散もみち	25	冬	植物	散紅葉				
4044	裏表きらりきらりとちる紅葉	25	冬	植物	散紅葉				
4045	落ちてきてもみちひつゝく團子哉	25	冬	植物	散紅葉				
4046	神橋は人も通らず散紅葉	25	冬	植物	散紅葉				
4047	衣洗ふ脛にひつゝくもみち哉	25	冬	植物	散紅葉				
4048	雑炊にはつとちりこむもみち哉	25	冬	植物	散紅葉				
4049	すさまじや紅葉まきこむ水車	25	冬	植物	散紅葉				
4050	ちりかゝるむしる屏風のもみち哉	25	冬	植物	散紅葉	もみち<木+色>			
4051	ちる紅葉ちらぬ紅葉はまだ青し	25	冬	植物	散紅葉				
4052	二三枚もみち汲み出す釣瓶哉	25	冬	植物	散紅葉				
4053	はきよせた簾に残るもみち哉	25	冬	植物	散紅葉				
4054	東野の紅葉ちりこむ藁火哉	25	冬	植物	散紅葉				
4055	紅葉ちる和尚の留守のいろり哉	25	冬	植物	散紅葉				
4056	もみち葉のちる時悲し鹿の聲	25	冬	植物	散紅葉				
4057	藁屋根にくさりついたるもみち哉	25	冬	植物	散紅葉	もみち<木+色>			
4058	遊女つれて京に入る日や紅葉散る	26	冬	植物	散紅葉				
4059	かけ橋や今日の日和を散る紅葉	26	冬	植物	散紅葉				
4060	散る紅葉女戒を犯す法師あり	26	冬	植物	散紅葉				
4061	紅葉散る京は女のよいところ	26	冬	植物	散紅葉				
4062	杉暗く紅葉散るなり御幸橋	27	冬	植物	散紅葉				
4063	蓮枯れて泥に散りこむ紅葉かな	27	冬	植物	散紅葉				
4064	一葉二葉紅葉散り残る梢かな	27	冬	植物	散紅葉				
4065	目もあやに紅葉ちりかゝる舞の袖	28	冬	植物	散紅葉				
4066	門前の小溝にくさる紅葉哉	28	冬	植物	散紅葉				
4067	山深し檜の葉の落ちる紅葉散る	28	冬	植物	散紅葉				

4068	新聞報ず瀧の川の紅葉散ると	29	冬	植物	散紅葉				
4069	ちる紅葉綿入を来て瀧見哉	29	冬	植物	散紅葉				
4070	紅葉散りて夕日少し苔の道	29	冬	植物	散紅葉				
4071	紅葉散る山の日和や杉の露	31	冬	植物	散紅葉				
4072	紅葉散るや夕日少なき杉の森	32	冬	植物	散紅葉				
4073	神の子のあちこちと追ふや散る紅葉	33	冬	植物	散紅葉				
4074	紅葉散る岡の日和や除幕式	33	冬	植物	散紅葉				
4075	いやさうに首ふる風の落葉哉	24	冬	植物	落葉				
4076	かきよせて落葉にしるや庭のあき	24	冬	植物	落葉				
4077	巡禮一人風の落葉に追はれけり	24	冬	植物	落葉				
4078	辻君や落葉ひつつく石地藏	24	冬	植物	落葉				
4079	わらんべの酒買ひに行く落葉哉	24	冬	植物	落葉				
4080	かこ八れた五尺の庭の落葉哉	25	冬	植物	落葉				
4081	四五枚の木の葉掃き出す廓哉	25	冬	植物	落葉				
4082	茶坐敷の五尺の庭を落葉哉	25	冬	植物	落葉				
4083	茶屋敷の五尺の庭の落葉哉	25	冬	植物	落葉				
4084	散る木の葉風は縦横十字	25	冬	植物	落葉				
4085	散ればたき散れば焚きして木の葉哉	25	冬	植物	落葉				
4086	とかくして不にかき出すや落は搔	25	冬	植物	落葉				
4087	はき出せぬ五尺の庭の落葉哉	25	冬	植物	落葉				
4088	一籠の紅葉いくらぞ落葉搔	25	冬	植物	落葉				
4089	吹き入れし石燈籠の落葉哉	25	冬	植物	落葉				
4090	椽に干す蒲團の上の落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4091	落葉掃く腰掛茶屋の女哉	26	冬	植物	落葉				
4092	落葉はく上野の茶屋の女哉	26	冬	植物	落葉				
4093	大寺の屋根にしづまる落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4094	風吹て山又山の落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4095	三尺の庭に上野の落葉かな	26	冬	植物	落葉				
4096	鼓うてば木の葉散る也能舞臺	26	冬	植物	落葉				
4097	徳利提げて巫女歸り行く落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4098	干網に吹きためられし落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4099	湖の上に舞ひ行く落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4100	弓杖に人のイむ落葉哉	26	冬	植物	落葉				
4101	夜嵐やどこの落葉を鳩の海	26	冬	植物	落葉				
4102	尼寺の佛壇淺き落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4103	裏口や落葉掃き込む大竈	27	冬	植物	落葉				

4104	延寶の立石見ゆる落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4105	落葉してむつかしげなる枳殻かな	27	冬	植物	落葉				
4106	落葉焚いて人無き寺の日和かな	27	冬	植物	落葉				
4107	落葉焚く烟の細し卵塔場	27	冬	植物	落葉				
4108	大村の鎮守淋しき落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4109	街道の馬糞にまじる落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4110	木の葉散る奥は日和の天王寺	27	冬	植物	落葉				
4111	木の葉はらはら幼子に逢ふ小阪かな	27	冬	植物	落葉				
4112	首入れて落葉をかぶる家鴨かな	27	冬	植物	落葉				
4113	蛛の圍に落ちて久しき木の葉かな	27	冬	植物	落葉				
4114	今日もまた一斗許りの落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4115	捨てゝ置く箒埋めて落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4116	捨舟の落葉掃き出す日和かな	27	冬	植物	落葉				
4117	谷川やいつの落葉の木の葉石	27	冬	植物	落葉				
4118	散るを掃き掃くを燃やして木葉哉	27	冬	植物	落葉				
4119	飛ぶが中に蔦の落葉の大きさよ	27	冬	植物	落葉				
4120	鶏の垣を出て来る落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4121	晝中の小村淋しき落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4122	吹きたまる落葉や町の行き止まり	27	冬	植物	落葉				
4123	細き道のしきりに曲る落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4124	ほそほそと烟立つ茶屋の落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4125	御手の上に落葉たまりぬ立佛	27	冬	植物	落葉				
4126	山の井の魚淺く落葉沈みけり	27	冬	植物	落葉				
4127	山行けば御堂御堂の落葉かな	27	冬	植物	落葉				
4128	夕風や木の葉吹き寄する石畳	27	冬	植物	落葉				
4129	庵寂びぬ落葉掃く音風の音	28	冬	植物	落葉				
4130	落付きの知れぬ木の葉や風の空	28	冬	植物	落葉				
4131	落葉して礎もなし關の跡	28	冬	植物	落葉				
4132	落葉して北に傾く銀杏かな	28	冬	植物	落葉				
4133	落葉して鳥啼く里の老木哉	28	冬	植物	落葉				
4134	狼の墓堀り探す落葉哉	28	冬	植物	落葉				
4135	泉水に落葉のたまる小舟哉	28	冬	植物	落葉				
4136	谷底にとゞきかねたる落葉哉	28	冬	植物	落葉				
4137	月の出やはらりはらりと木の葉散る	28	冬	植物	落葉				
4138	二三枚落葉沈みぬ手水鉢	28	冬	植物	落葉				
4139	二三枚木葉しづみぬ手水鉢	28	冬	植物	落葉				

4140	はらはらと身に舞かゝる木葉哉	28	冬	植物	落葉				
4141	吹き下す風の木の葉や壇かつら	28	冬	植物	落葉				
4142	古池に落葉つもりぬ水の上	28	冬	植物	落葉				
4143	古家や狸石打つ落葉の夜	28	冬	植物	落葉				
4144	堀割の道じくじくと落葉哉	28	冬	植物	落葉				
4145	窓の影夕日の落葉頻り也	28	冬	植物	落葉				
4146	舞ひながら渦に吸はるゝ木葉哉	28	冬	植物	落葉				
4147	舞ひながら渦にまかるゝ落葉哉	28	冬	植物	落葉				
4148	猪の夜たゞがさつく落葉哉	28	冬	植物	落葉				
4149	妹が垣根古下駄朽ちて落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4150	落葉して塔より低き銀杏哉	29	冬	植物	落葉				
4151	落葉してやどり木青き梢哉	29	冬	植物	落葉				
4152	落葉して老木怒る姿あり	29	冬	植物	落葉				
4153	風の音日の入る森の落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4154	木の葉をりをり病の窓をうつて去る	29	冬	植物	落葉				
4155	境内は賑やかなれど落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4156	紙燭して落葉の中を通りけり	29	冬	植物	落葉				
4157	地車や石を積み行く落葉道	29	冬	植物	落葉				
4158	庖刀に身構へしたる落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4159	庖刀に身をかまへたる落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4160	久しぶりに妹がり行けば落葉哉	29	冬	植物	落葉				
4161	ひらひらと吾に落たる木葉哉	29	冬	植物	落葉				
4162	吹き下す風の落葉や背戸の山	29	冬	植物	落葉				
4163	更くる夜を落葉音せずなりにけり	29	冬	植物	落葉				
4164	道端や落葉ちらばる古著店	29	冬	植物	落葉				
4165	森淋し小娘一人落葉搔く	29	冬	植物	落葉				
4166	温泉の宿の旗はらはらと木葉ちる	29	冬	植物	落葉				
4167	榎とは知れる榎の落葉哉	30	冬	植物	落葉				
4168	枯葉朽葉中に銀杏の落葉哉	30	冬	植物	落葉				
4169	三代の嵐九代の落葉かな	30	冬	植物	落葉				
4170	團栗の共に掃かるゝ落葉哉	30	冬	植物	落葉				
4171	庭の木に尾長鳥来て居る落葉哉	30	冬	植物	落葉				
4172	吹きおろす木葉の中を旅の人	30	冬	植物	落葉				
4173	ほろほるとみろりの木葉もえてなし	30	冬	植物	落葉				
4174	宮守の賽銭ひろふ落葉かな	30	冬	植物	落葉				
4175	棕の木に尾長鳥来て居る落葉哉	30	冬	植物	落葉				

4176	林間や落葉掻く子に夕日さす	30	冬	植物	落葉				
4177	岡ぞひの家低く子に夕日さす	30	冬	植物	落葉				
4178	岡ぞひの蕎麦まだ刈らぬ落葉哉	30	冬	植物	落葉				
4179	大木の二本竝んで落葉哉	31	冬	植物	落葉				
4180	御手洗の水かれかれに落葉哉	31	冬	植物	落葉				
4181	門を入りて飛石遠き落葉哉	31	冬	植物	落葉				
4182	落葉せし楓の枝の囀かな	32	冬	植物	落葉				
4183	錠かけし門の落葉や旅の留守	32	冬	植物	落葉				
4184	庭の木にはごかけて置く落葉哉	32	冬	植物	落葉				
4185	はご掛けに大工をやとふ落葉哉	32	冬	植物	落葉				
4186	檜の落葉椎の落葉や庭の隅	33	冬	植物	落葉				
4187	落葉掻き小枝ひろふて親子哉	35	冬	植物	落葉				
4188	落葉かき小枝ひろひて親子かな	35	冬	植物	落葉				
4189	枯葉鳴るくぬ木林の月夜哉	29	冬	植物	枯葉				
4190	色かへぬ末をあはれむ枯葉哉	30	冬	植物	枯葉				
4191	石原に根強き冬の野菊哉	25	冬	植物	寒菊				
4192	ととしに根も枯れはてず寒の菊	25	冬	植物	寒菊				
4193	寒菊の日和待ちける蒼哉	26	冬	植物	寒菊				
4194	寒菊や昔女は老いにける	26	冬	植物	寒菊				
4195	寒菊に爪剪る椽の日さしかな	27	冬	植物	寒菊				
4196	寒菊や大工は左甚五郎	27	冬	植物	寒菊				
4197	寒菊や村あたゝかき南受	27	冬	植物	寒菊				
4198	寒菊の上にももの置く家陰哉	28	冬	植物	寒菊				
4199	寒菊や修復しかゝる比丘尼寺	28	冬	植物	寒菊				
4200	寒菊や修覆半ばなる比丘尼寺	28	冬	植物	寒菊				
4201	上人のたよりまれ也寒の菊	28	冬	植物	寒菊				
4202	上人のたよりまれなり冬の菊	28	冬	植物	寒菊				
4203	冬菊や厠の道の往返り	28	冬	植物	寒菊				
4204	冬菊や下雪隠へ行く小道	28	冬	植物	寒菊				
4205	冬菊を見るや厠の往返り	28	冬	植物	寒菊				
4206	古沓や人おちぶれて冬の菊	28	冬	植物	寒菊				
4207	葱にそふて寒菊咲ぬ鷓鴣	30	冬	植物	寒菊				
4208	薔薇赤く菊猶存す冬の庵	30	冬	植物	寒菊				
4209	冬に入りて菊存す庵や岡の北	30	冬	植物	寒菊				
4210	冬の庵に菊存す岡の北	30	冬	植物	寒菊				
4211	濕気多き根岸の庭や冬の菊	31	冬	植物	寒菊				

4212	寒菊やいも屋の裏の吹透し	32	冬	植物	寒菊				
4213	明家や廁のかげの石踏の花	28	冬	植物	石踏の花				
4214	石踏さくや廁の陰の石踏の花	28	冬	植物	石踏の花				
4215	日あたらぬ廁の陰の石踏の花	28	冬	植物	石踏の花				
4216	日あたらぬ廁の陰や石踏の花	28	冬	植物	石踏の花				
4217	日のあたる鍋の氷や石踏の花	28	冬	植物	石踏の花				
4218	枇杷の花散りて石踏今を盛なり	30	冬	植物	石踏の花				
4219	狗の子の小便するや石踏の花	31	冬	植物	石踏の花				
4220	金藏の壁に日あたる石踏の花	31	冬	植物	石踏の花				
4221	金藏の南おもてや石踏の花	31	冬	植物	石踏の花				
4222	庭に干す土人形や石踏の花	31	冬	植物	石踏の花				
4223	日の照らぬ枇杷の木陰や石踏の花	31	冬	植物	石踏の花				
4224	桐落ちて淋しき庭や石踏の花	33	冬	植物	石踏の花				
4225	庭石や草皆枯れて石踏の花	33	冬	植物	石踏の花				
4226	石踏の花盛りに咲きて寺臭き	35	冬	植物	石踏の花				
4227	山吹の室咲見せよト師	26	冬	植物	室咲				
4228	日あたりや馬場のあととなる水仙花	25	冬	植物	水仙				
4229	枯れはてしおどろが下や水仙花	26	冬	植物	水仙				
4230	古書幾巻水仙もなし床の上	26	冬	植物	水仙				
4231	水仙の黄にさく頃や御見拭	26	冬	植物	水仙				
4232	水仙や紙につゝんで馬の鞍	26	冬	植物	水仙				
4233	水仙や根から花さく鉢の中	26	冬	植物	水仙				
4234	水仙や貧乏徳利缺茶碗	26	冬	植物	水仙				
4235	水仙や紫袷紗黒茶碗	26	冬	植物	水仙				
4236	水仙やゆかしがらるゝ白拍子	26	冬	植物	水仙				
4237	水仙や老母庭はく朝まだき	26	冬	植物	水仙				
4238	芋の跡水仙植ゑてまばらなり	27	冬	植物	水仙				
4239	水仙に今様の男住めりけり	27	冬	植物	水仙				
4240	水仙や朝日のあたる庭の隅	27	冬	植物	水仙				
4241	宗匠が床の水仙咲きにけり	27	冬	植物	水仙				
4242	蛸壺に水仙を活けおほせたり	27	冬	植物	水仙				
4243	薄氷の中に水仙咲きにけり	27	冬	植物	水仙				
4244	百両の石は小さし水仙花	27	冬	植物	水仙				
4245	水仙にさはらぬ雲の高さ哉	28	冬	植物	水仙				
4246	水仙に蒔繪はいやし硯箱	28	冬	植物	水仙				
4247	水仙に黄檗の僧老いにけり	28	冬	植物	水仙				

4248	水仙にわびて味噌焼く火桶哉	28	冬	植物	水仙				
4249	水仙のいつまでかくて蒼かな	28	冬	植物	水仙				
4250	水仙は只竹藪に老いぬべし	28	冬	植物	水仙				
4251	古寺や大日如來水仙花	28	冬	植物	水仙				
4252	有明の水仙剪るや庭の霜	29	冬	植物	水仙				
4253	水仙と炭取と並ぶ夜市哉	29	冬	植物	水仙				
4254	水仙の蒼に星の露を孕む	29	冬	植物	水仙				
4255	水仙の露に眼の塵を洗はんか	29	冬	植物	水仙				
4256	水仙の花咲くことを忘れたり	29	冬	植物	水仙				
4257	水仙は畑三反の主かな	29	冬	植物	水仙				
4258	水仙や土塀に見こす雪の山	29	冬	植物	水仙				
4259	水仙や土塀の上に雪の山	29	冬	植物	水仙				
4260	月落ちたり水仙白き庭の隅	29	冬	植物	水仙				
4261	何も彼も水仙の水も新しき	29	冬	植物	水仙				
4262	禿倉暗く水仙咲きぬ藪の中	29	冬	植物	水仙				
4263	禿倉暗く水仙白し庭の隅	29	冬	植物	水仙				
4264	御儉徳を水仙にたとへ申さんか	30	冬	植物	水仙				
4265	水仙に黼隠るゝ明家かな	30	冬	植物	水仙				
4266	水仙の日向に坐して寫眞哉	30	冬	植物	水仙				
4267	水仙の僅に咲て年くれぬ	30	冬	植物	水仙				
4268	水仙も處を得たり庭の隅	30	冬	植物	水仙				
4269	水仙や晉山の僧黄衣なり	30	冬	植物	水仙				
4270	水仙の蒼は雪にうもれけり	32	冬	植物	水仙				
4271	水仙やものもあげさる藪の神	32	冬	植物	水仙				
4272	唐筆の安きを賣るや水仙花	33	冬	植物	水仙				
4273	筆洗の水こほしけり水仙花	33	冬	植物	水仙				
4274	枯菊を折りて捨てけり水仙花	34	冬	植物	水仙				
4275	水仙に取りあはずべきものもなし	34	冬	植物	水仙				
4276	水仙の花釵や洛の神	34	冬	植物	水仙				
4277	軸の前支那水仙の鉢もなし	35	冬	植物	水仙				
4278	紙燭とつて大根洗ふ小川哉	26	冬	植物	大根				
4279	夕月に大根洗ふ流れかな	26	冬	植物	大根				
4280	両側に大根洗ふ流れ哉	31	冬	植物	大根				
4281	両岸に大根洗ふ流れ哉	31	冬	植物	大根				
4282	大根の刀蕪の矢の根かな	33	冬	植物	大根				
4283	大根の鶴蕪の龜や酒九獻	不詳	冬	植物	大根				

4284	首途の太刀にはかばや干大根	26	冬	植物	干大根				
4285	一つ家やどちらを見ても干大根	26	冬	植物	干大根				
4286	切干の大根の中の唐辛子	27	冬	植物	干大根				
4287	年々や婆々が手痩せて干大根	27	冬	植物	干大根				
4288	石筆のころがる椽や干大根	33	冬	植物	干大根				
4289	背戸へ出て蕪洗ふ人や川向ひ	30	冬	植物	蕪				
4290	緋の蕪の三河嶋菜に誇つて日く	30	冬	植物	蕪				
4291	蕪肥えたり蕪村生れし村の土	31	冬	植物	蕪				
4292	画室成る蕪を贈って祝ひけり	32	冬	植物	蕪				
4293	雀逃げぬ吹矢はそれで干蕪	26	冬	植物	干蕪				
4294	牛鍋につゝき崩せし根深哉	25	冬	植物	葱				
4295	白葱の一皿寒し牛の肉	26	冬	植物	葱				
4296	葱洗ふ浪人の娘瘦せにけり	26	冬	植物	葱				
4297	霜月のうら枯れんとす葱畠	27	冬	植物	葱				
4298	山里や木立を負ふて葱畠	27	冬	植物	葱				
4299	指五本葱の零落るべう	27	冬	植物	葱				
4300	滄浪の水清めらば葱を洗ふへし	28	冬	植物	葱				
4301	葱賣の兩國わたる夕かな	28	冬	植物	葱				
4302	古里に根深畠は荒れにけり	28	冬	植物	葱				
4303	ある夜葱筑波嵐に折れ盡せり	29	冬	植物	葱				
4304	市に住んで葱買ひに行く隣哉	30	冬	植物	葱				
4305	江戸の市に白根の長き根深哉	30	冬	植物	葱				
4306	背戸廣し根深の果の遠筑波	30	冬	植物	葱				
4307	二三本葱買ふて行く人貧し	30	冬	植物	葱				
4308	野と隔つ垣破れたり葱畑	30	冬	植物	葱				
4309	普化宗の寺の跡なり葱畑	30	冬	植物	葱				
4310	豚盡きて葱を貪る主かな	30	冬	植物	葱				
4311	王孫を市にあはれむ葱哉	30	冬	植物	葱				
4312	木を伐て根深畠に倒しけり	31	冬	植物	葱				
4313	葱洗ふや野川の町に入る處	33	冬	植物	葱				
4314	葱汁や京の寄宿の老書生	33	冬	植物	葱				
4315	葱汁や京の下宿の老書生	33	冬	植物	葱				
4316	棒入れて冬菜を洗ふ男かな	27	冬	植物	冬菜				
4317	桶踏んで冬菜を洗ふ女かな	27	冬	植物	冬菜				
4318	竹立てゝ冬菜をかこふ畠かな	28	冬	植物	冬菜				
4319	水引くや冬菜を洗ふ一ト構	28	冬	植物	冬菜				

4320	村近く冬菜植糸たる畠哉	29	冬	植物	冬菜				
4321	道ばたの冬菜の屑に霜白し	30	冬	植物	冬菜				
4322	旅籠屋や山見る窓の釣干菜	25	冬	植物	干菜				
4323	したゝかに干菜つりたり一軒家	29	冬	植物	干菜				
4324	霜かれに立すくみたる蘇鐵かな	27	冬	植物	霜枯				
4325	霜枯の佐倉見上ぐる野道かな	27	冬	植物	霜枯				
4326	霜枯や誰がおくつきの姫小松	27	冬	植物	霜枯				
4327	霜枯や階子懸けたる明屋敷	27	冬	植物	霜枯				
4328	霜枯や僅かに高さ誰の塚	27	冬	植物	霜枯				
4329	明寺の霜枯に無く融哉	29	冬	植物	霜枯				
4330	草枯れて融のにげる寒さかな	26	冬	植物	草枯				
4331	いさゝかの草枯れ盡す土橋かな	27	冬	植物	草枯				
4332	草枯れて池の家鴨の寒げ也	27	冬	植物	草枯				
4333	草枯れて礎残るあら野哉	27	冬	植物	草枯				
4334	草枯や寺の名残の井戸一つ	27	冬	植物	草枯				
4335	なかなか枯れも盡さず畦の草	27	冬	植物	草枯				
4336	草枯れて南大門いまだ建たず	28	冬	植物	草枯				
4337	草枯や雲にもうとき三笠山	28	冬	植物	草枯				
4338	草枯や鷹に隠れて飛ぶ雀	28	冬	植物	草枯				
4339	草枯や堀割崩える二三間	28	冬	植物	草枯				
4340	草山の奇麗に枯れてしまひけり	28	冬	植物	草枯				
4341	草枯や土鍋を洗ふ化粧井	29	冬	植物	草枯				
4342	草枯や一もと残る何の花	29	冬	植物	草枯				
4343	草枯れて武藏野低きながめ哉	30	冬	植物	草枯				
4344	草枯や埋井の底に夕日さす	30	冬	植物	草枯				
4345	草枯や囚徒飯くふ道普請	30	冬	植物	草枯				
4346	草枯るゝ賤が垣根や枸杞赤し	31	冬	植物	草枯				
4347	草枯るゝ賤の垣根や枸杞赤し	31	冬	植物	草枯				
4348	草枯るゝ庭の日向や洗濯す	31	冬	植物	草枯				
4349	草枯や狼の糞熊の糞	31	冬	植物	草枯				
4350	水草の枯れみ枯れずみ水の中	27	冬	植物	枯草				
4351	野菊残り露草枯れぬ石の橋	28	冬	植物	枯草				
4352	枯るゝ草枯れぬ小草の日陰哉	30	冬	植物	枯草				
4353	枯葛の草鞋にかゝる日は暮ぬ	30	冬	植物	枯草				
4354	とげの木に蔓草枯れて茶色の實	30	冬	植物	枯草				
4355	花ながら下葉枯行く小草哉	30	冬	植物	枯草				

4356	水草や水あるかたに枯れ残る	30	冬	植物	枯草				
4357	物踏で枯草になす雪踏哉	30	冬	植物	枯草				
4358	鶏頭のとうとう枯てしまひけり	31	冬	植物	枯草				
4359	龍膽や芒の中に刈れ残る	31	冬	植物	枯草				
4360	北庭の枯草もなく凍し哉	32	冬	植物	枯草				
4361	枯鶏頭此頃空気乾燥す	33	冬	植物	枯草				
4362	此頃の空気乾くや枯鶏頭	33	冬	植物	枯草				
4363	菊枯て筆塚淋し寺の庭	26	冬	植物	枯菊				
4364	傘さして菊の枯れたる日和かな	27	冬	植物	枯菊				
4365	幽霊に似て枯菊の影法師	28	冬	植物	枯菊				
4366	垣朽ちて小菊枯れたり妹が家	28	冬	植物	枯菊				
4367	枯菊に着綿程の雲もなし	28	冬	植物	枯菊				
4368	菊枯るゝ南の窓ぞあたゝかき	28	冬	植物	枯菊				
4369	白菊の黄菊の何の彼の枯れぬ	28	冬	植物	枯菊				
4370	植木屋に賣残りの菊皆枯るゝ	29	冬	植物	枯菊				
4371	大方の菊枯れ盡きて黄菊哉	29	冬	植物	枯菊				
4372	枯菊に笊干す背戸の日南哉	29	冬	植物	枯菊				
4373	枯菊や恵心の作の釋迦如來	29	冬	植物	枯菊				
4374	菊枯れて上野の山は静かなり	29	冬	植物	枯菊				
4375	菊枯れて胸骨痛む主人哉	29	冬	植物	枯菊				
4376	菊枯れて松の緑の寒げなり	29	冬	植物	枯菊				
4377	背戸の菊枯れて道灌山近し	29	冬	植物	枯菊				
4378	西うくる背戸に夕日の菊枯るゝ	29	冬	植物	枯菊				
4379	鶏や枯菊の花ふりちぎる	29	冬	植物	枯菊				
4380	古庭の菊も芒も枯れにけり	29	冬	植物	枯菊				
4381	百菊の同じ色にぞ枯れにける	29	冬	植物	枯菊				
4382	枯菊に庭一ぱいの日南かな	30	冬	植物	枯菊				
4383	黄菊白菊皆枯草の姿かな	30	冬	植物	枯菊				
4384	きのふけふ枯菊がちになりにけり	30	冬	植物	枯菊				
4385	枯菊に氷捨てたる朝日哉	31	冬	植物	枯菊				
4386	枯菊の記を書きに来よふき臈	32	冬	植物	枯菊				
4387	自來也も蝦蟇も枯れけり團子坂	32	冬	植物	枯菊				
4388	萩伐られ菊枯れ梅の落葉哉	32	冬	植物	枯菊				
4389	萩伐られ菊枯れ鶏頭倒れけり	32	冬	植物	枯菊				
4390	枯菊に飛び來る蟲もなかりけり	34	冬	植物	枯菊				
4391	枯菊の壇とりのけてしまひけり	34	冬	植物	枯菊				

4392	菊枯れて冬薔薇蕾む小庭かな	34	冬	植物	枯菊				
4393	丈高く枯菊立てる時雨かな	34	冬	植物	枯菊				
4394	枯芝に松緑なり丸の内	28	冬	植物	枯芝				
4395	両側の枯芝高さ小道かな	28	冬	植物	枯芝				
4396	枯芝にこぼるゝ冬の薔薇哉	30	冬	植物	枯芝				
4397	招く手はなけれど淋し枯薄	22	冬	植物	枯薄				
4398	馬の尾に折られ折られて枯尾花	24	冬	植物	枯薄				
4399	川よりも山路につよし枯尾花	24	冬	植物	枯薄				
4400	むきくせのついで其まゝ枯尾花	24	冬	植物	枯薄				
4401	行秋の立往生や枯尾花	24	冬	植物	枯薄				
4402	鷺谷に一本淋し枯尾花	25	冬	植物	枯薄				
4403	ふじのせた添水動かす枯尾花	25	冬	植物	枯薄				
4404	鮒つりやさはれば折れる枯尾花	25	冬	植物	枯薄				
4405	うしろから吹く風多し枯薄	26	冬	植物	枯薄				
4406	狼のふみゆく音や枯尾花	26	冬	植物	枯薄				
4407	枯尾花姥のやつにて恐るしき	26	冬	植物	枯薄				
4408	戀塚や薄は枯れて牛の糞	26	冬	植物	枯薄				
4409	菅笠をかぶせて見ばや枯尾花	26	冬	植物	枯薄				
4410	芭蕉忌に笠きせて見はや枯尾花	26	冬	植物	枯薄				
4411	世の中を悟つて枯れる薄哉	26	冬	植物	枯薄				
4412	尾花枯て石あらはるゝ箱根山	26	冬	植物	枯薄				
4413	尾花枯て砂利ほる丘に鴉鳴く	26	冬	植物	枯薄				
4414	川狭く板橋高し枯尾花	27	冬	植物	枯薄				
4415	枯尾花焼場へ曲がる小道かな	27	冬	植物	枯薄				
4416	芒枯れて千年の野狐石に化す	27	冬	植物	枯薄				
4417	砂村や茶屋のかたへの枯尾花	27	冬	植物	枯薄				
4418	花薄百萬石を枯れにけり	27	冬	植物	枯薄				
4419	枯薄こゝらよ昔不破の關	28	冬	植物	枯薄				
4420	枯尾花風吹暮て月もなし	28	冬	植物	枯薄				
4421	枯尾花風吹き絶えて月もなし	28	冬	植物	枯薄				
4422	枯尾花こゝらよ昔不破の關	28	冬	植物	枯薄				
4423	枯尾花水なき川の廣さかな	28	冬	植物	枯薄				
4424	古塚に行きあたりけり枯薄	28	冬	植物	枯薄				
4425	尾花枯れて石あらはれぬ墓か否か	28	冬	植物	枯薄				
4426	風も動かず芒を見れば枯れにけり	29	冬	植物	枯薄				
4427	枯芒思ひ死二の墓と記すべし	29	冬	植物	枯薄				

4428	枯薄胡人五十騎ばかり行く	29	冬	植物	枯薄				
4429	枯芒障子開くれば吾を招く	29	冬	植物	枯薄				
4430	枯薄人呼ぶ茶屋の婆もなし	29	冬	植物	枯薄				
4431	此道や只枯芒馬の糞	29	冬	植物	枯薄				
4432	七湯の烟淋しや枯芒	29	冬	植物	枯薄				
4433	居風呂を焚くや古下駄枯芒	29	冬	植物	枯薄				
4434	誰が夢の骸骨こゝに枯芒	29	冬	植物	枯薄				
4435	とかくして枯れた芒に油断すな	29	冬	植物	枯薄				
4436	野狐死して尾花枯れたり石一つ	29	冬	植物	枯薄				
4437	枯芒さすが女に髻はなし	30	冬	植物	枯薄				
4438	古道や馬糞日の照る枯芒	30	冬	植物	枯薄				
4439	からけたる繩のゆるみや枯芒	31	冬	植物	枯薄				
4440	鐵砲に兎かけたり枯薄	31	冬	植物	枯薄				
4441	萩刈りし庭のかなたや枯芒	31	冬	植物	枯薄				
4442	枯蓬柩見え來る野道かな	27	冬	植物	枯蓬				
4443	道の邊や枸杞の實赤き枯律	27	冬	植物	枯律				
4444	枯れ盡す律か底の小笹かな	28	冬	植物	枯律				
4445	枯れ盡す律の底の小笹かな	28	冬	植物	枯律				
4446	枯れ盡す律の底の小松かな	28	冬	植物	枯律				
4447	律枯れて雲わき起る石のあたり	28	冬	植物	枯律				
4448	ものゝ實の蔓もゆかしや枯律	29	冬	植物	枯律				
4449	雉を打つ人ひそみけり枯律	32	冬	植物	枯律				
4450	生殘る蛙あはれや枯蓮	25	冬	植物	枯蓮				
4451	太液の枯蓮未央の枯柳	26	冬	植物	枯蓮				
4452	蓮かれて小鴨のしぐれ哀なり	26	冬	植物	枯蓮				
4453	蓮枯て辨天堂の破風赤し	26	冬	植物	枯蓮				
4454	蓮枯て夕榮えうつる湖水哉	26	冬	植物	枯蓮				
4455	蓮枯れて氷に眠る小鴨哉	28	冬	植物	枯蓮				
4456	蓮の實の飛ばずに枯れしものもあらん	28	冬	植物	枯蓮				
4457	蓮十里盡く枯れてしまひけり	29	冬	植物	枯蓮				
4458	蓮枯て蓼猶赤き水淺み	32	冬	植物	枯蓮				
4459	枯葱床屋が檐に枯れにけり	32	冬	植物	枯葱				
4460	枯葱床屋の檐に枯にけり	32	冬	植物	枯葱				
4461	大事がる金魚死にたり枯しのぶ	35	冬	植物	枯葱				
4462	蓼枯れて隠れあへず魚逃げて行	27	冬	植物	枯蓼				